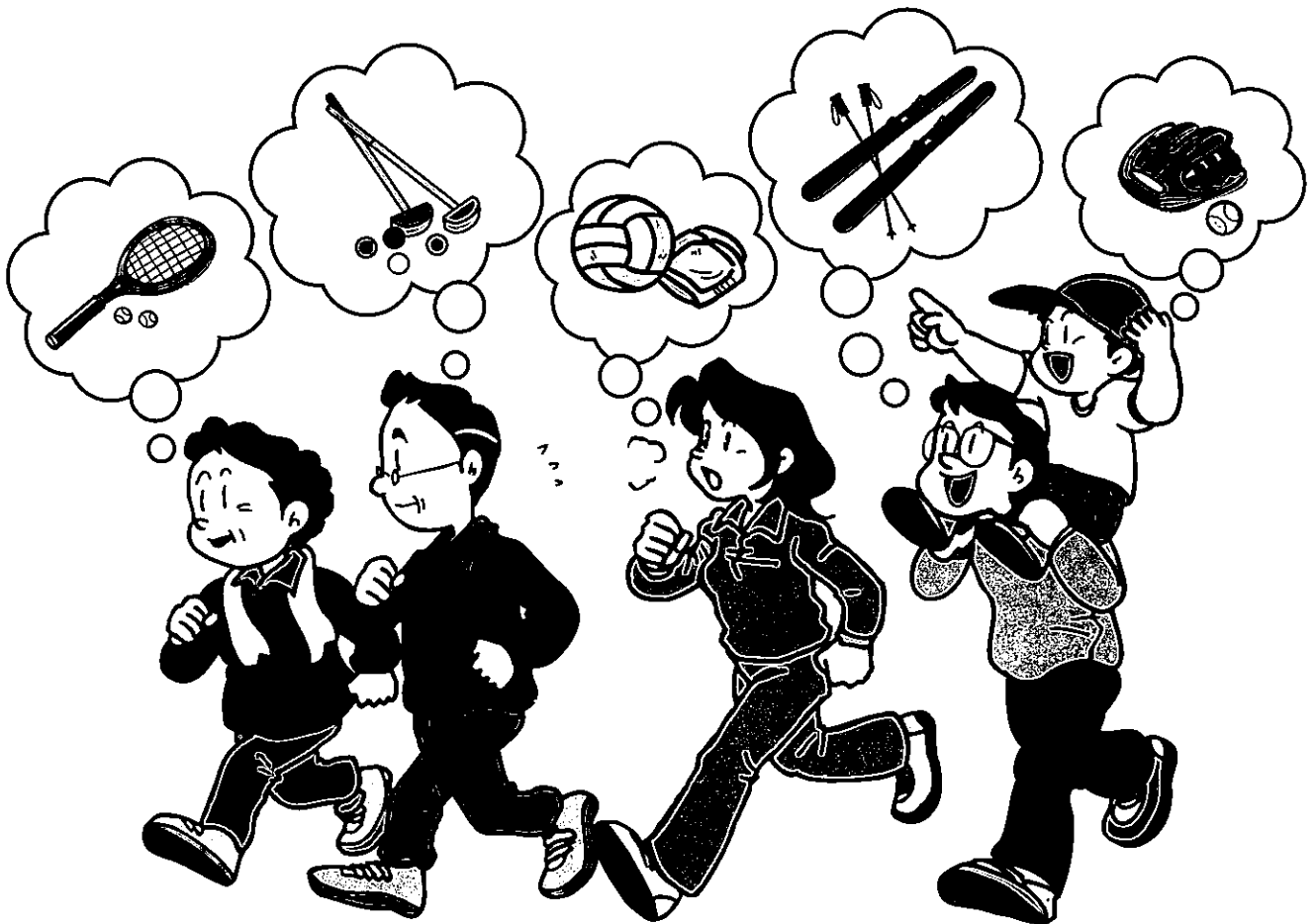
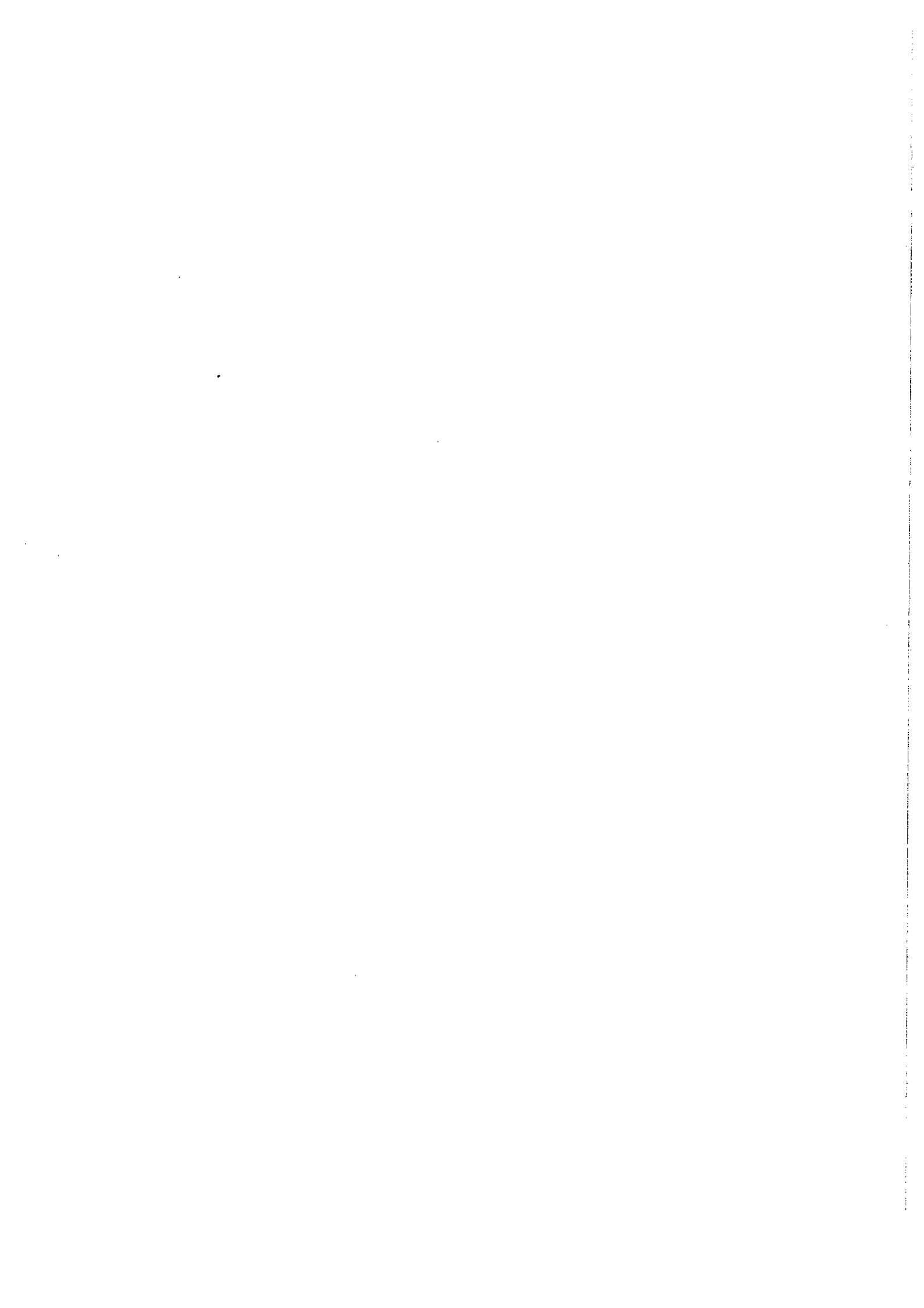


生涯スポーツの振興をめざして

～ 総合型地域スポーツクラブの可能性をさぐる ～



【大河原地区社会教育主事研究協議会】



発 刊 に あ た っ て

目まぐるしく変化する現代社会において、昨日までの常識や価値観が劇的に変わっていく瞬間を見ることがあります。平成21年は正に歴史に記されるべき大きな変化を生み出した年と言えるでしょう。しかし社会が大きくなうねりを伴って流れていく中でも、人々は「より良く生きること」を心に秘めて日々暮らしています。それは人が生きることの不変的なものであると信じています。変わらないものはそこにあると。

大河原地区社会教育主事研究協議会では、私たち社会教育主事が、学びや感動体験を援助推進する中で課題となっている事柄について、現状と課題をさぐり、その解決策を見いだしていくという研修活動を行っています。これまで多くの先輩方が市町の枠を越えて社会教育の普及・振興を目指して行ってきた研修活動を脈々と受け継ぎながら、今年度1年間の研修活動のまとめである報告書を今年も発刊するはこびとなりましたことは誠に喜ばしい限りです。

今年の研修テーマは「社会体育」、そして「総合型地域スポーツクラブ」を課題として取り上げました。スポーツ振興法に基づき、平成12年9月に策定された「スポーツ振興基本計画」の政策目標に「生涯スポーツ社会の実現のため、できるかぎり早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が50パーセントとなることを目指す。」そのために必要不可欠な施策として「総合型地域スポーツクラブの全国展開を最重点施策として計画的に推進する。2010年（平成22年）までに、全国の各市区町村において少なくともひとつは総合型地域スポーツクラブを育成する。」このことが明記されています。全国1,755市区町村の1,000を超える地域に2,700あまりのクラブ、宮城県では35市町村中16の地域に28クラブ、大河原教育事務所管内では9市町中、唯一角田市でクラブの設立が見られます。当管内では、なぜ総合型地域スポーツクラブが普及しないのか、自分たちの市町にあったスタイルはないのか、そこから調査研究は始まりました。そして、平成元年以来20年ぶりにスポーツをテーマにしたことから、現在の各市町のスポーツの現状と課題の調査、及び小中学生と一般を対象に「スポーツに関するアンケート調査」も行ないました。さらに、今回のテーマに多角的に取り組むことで、より充実した成果を期待できることから、平成22年度に継続する研修活動としました。アンケート調査の分析、体育関係者へのインタビュー、座談会をとおして管内における総合型スポーツクラブの在り方についての提言を予定しております。来年の研修活動もご期待下さい。

最後に、この研修報告書が一人でも多くの社会体育関係者に読まれることで、生涯スポーツ社会の実現の一助になることを願い、さらには一年間ご指導いただきました大河原教育事務所の皆様をはじめ、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げますと共に、本年度研修に取り組まれた各市町の研修委員の皆さんのご努力に対し、心から敬意を表し発刊のことばといたします。

平成22年3月

大河原地区社会教育主事研究協議会

会 長 大河原町社会教育主事 尾 形 彰

発 刊 を 祝 し て

宮城県大河原教育事務所 所長 倉 田 栄 喜

大河原地区社会教育主事研究協議会の皆様が、昭和48年以来社会教育・生涯学習をテーマに絶えざる研修を積み重ね、連綿と続く研究の成果を「研修報告書（第36号）」として発刊されましたことに心からお祝いを申し上げます。毎年着実に研究成果をあげていることは、協議会員の真摯な研究姿勢とご努力によるものと敬意を申し上げます。

さて、宮城県では平成14年12月に策定した「宮城県スポーツ振興基本計画」に基づき、「いつでも・どこでも・だれでも」継続的にスポーツに親しめる環境をつくるため、住民が主役となって自主的な活動を行う、地域に根ざした総合型スポーツクラブの設立をめざしており、平成22年3月の段階で28の総合型スポーツクラブが設立されています。

大河原地区社会教育主事研究協議会の皆様が、このような時期に管内の取り組むべきテーマとして、社会体育の中の総合型地域スポーツクラブのあり方について取り上げたことは、まさに時宜を得た取り組みであると言えます。

スポーツの果たす意義、役割を考えたとき、住民のスポーツへの主体的な取り組みを基本としつつ、住民のニーズや期待に適切にこたえ、一人一人がスポーツ活動を継続的に実践できるような環境を整備する方策としての、総合型地域スポーツクラブの役割はとても大きいものであるといえます。

また、各地の事例からも、総合型地域スポーツクラブは、単に生涯スポーツを楽しむ場を提供するだけでなく、文化的な活動や運営・指導に係わる皆様との協力により、スポーツの枠を超えた「地域作り」にも、多くの貢献をしていることが明らかになっています。

今回の研究は2カ年計画とのこと。管内のスポーツに対する現状を詳しく分析した今年度の研究成果に基づき、来年度は管内生涯スポーツ振興のために、地域作りのために、よりよい提言がなされることを期待しております。また、研究の成果が社会教育主事の皆様だけのものではなく、体育協会・体育指導委員・スポーツ少年団の指導者等、社会体育に係わる数多くの皆様の様々な活動の一助になるものと確信しております。

最後になりましたが、本書を刊行されるにあたり、多くのご努力を払われました研修委員の皆様と貴研究協議会並びに、会員の皆様に支えていただいている、関係各教育委員会の皆様に対し、心より敬意と感謝を申し上げますとともに、一層のご発展を祈念しお祝いのことばといたします。

目 次

発刊にあたって …………… 大河原地区社会教育主事研究協議会 会長 尾形 彰

発刊を祝して …………… 宮城県大河原教育事務所 所長 倉田 栄喜

1	はじめに ……………	1
2	研修テーマと経過 ……………	3
3	総合型地域スポーツクラブってなに？ ……………	5
4	スポーツコミュニケーション・かくだについて ……………	11
5	各市町のスポーツの現状と課題 ……………	17
6	スポーツに関するアンケート調査 ……………	39
7	先進地視察研修報告 ……………	51
8	まとめと課題 ……………	61
9	おわりに ……………	62

はじめに

平成21年度の研修テーマはずばり「生涯スポーツの振興をめざして～総合型地域スポーツクラブの可能性をさぐる～」であります。

総合型地域スポーツクラブとは文部科学省が提唱した「いつでも、どこでも、だれでも参加できる」スポーツクラブであり、“スポーツクラブの理想形”とも謳われております。モデルはドイツのスポーツクラブ形態にあるということです。ドイツでは、現在約9万のクラブが地域に存在します。国民の約33%がスポーツ連盟に登録し、クラブなどでスポーツを行っています。親が入っているクラブに幼いころから通ったり、やりたい種目のあるクラブや少し遠くても自分の好みや技術レベルに合ったクラブに入ったりするなど、あらゆる知恵を働かせて自分に合ったクラブを選びます。日本とは政治的歴史的背景に違いはあるものの、目指すべき形としては“理想”といえるものでしょう。

翻って日本では、全国に現在まで2,700あまりの総合型地域スポーツクラブが創設されております。宮城県には28クラブが存在（H22年3月現在）しますが、県内では比較的仙南地域でのクラブ設立数が少ない（角田市のみ1クラブ）ということが分かります。この事実だけでも、本テーマを設定した理由が伺い知れるかとは思いますが、我々が目指すのは総合型地域スポーツクラブを仙南すべてに創設するところにあるわけではありません。総合型地域スポーツクラブを、各市町の「スポーツの現状と課題」というフィルターを透して見たときに、どのような姿として浮き出して見えてくるのかを調べたいという思いがありました。

今のスポーツとの関わり方に不満がある人、スポーツを楽しみたいけれど機会がない人、これまでスポーツに関わる事がなかったけれども、きっかけを待っている人等…もしかしたら、現在のスポーツ環境に満足しているのは、ごく一部の市町民だけなのかもしれません。我々研修委員はそのような視点で住民ニーズをさぐりながら、「各市町に最もマッチするスポーツ振興の在り方とは？」を念頭に置き、客観性のある調査と冷静な分析をもとに「創設の必然性のあるクラブ創設の可能性」を追求しています。

1年に渡り、委員それぞれが日々の業務をこなしながら研修を進める事は容易なことではなかったことと思えます。しかしながら、月一度の研修委員会では、研修の協議や検討はもちろん、互いの市町の業務の相談や、時にはプライベートな話題で盛り上がり、仲間同士の理解と絆を深めたことが何よりの収穫だったのかもしれません。

前置きが長くなりました。それでは研修2ヶ年計画1年目の成果をご覧ください。

本報告書が微力ながら仙南のスポーツエボリューションの種となることを祈念して・・・。

平成22年3月

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会

研修副委員長 大河原町派遣社会教育主事 平 林 健

研修テーマと経過

研修テーマについて

1 研修テーマ

生涯スポーツの振興をめざして ～総合型地域スポーツクラブの可能性をさぐる～

2 研修テーマ設定の理由

(1) 研修の目的

- ①大河原教育事務所管内のスポーツ活動について、その現状や課題を検証し、よりよいスポーツ行政のあり方を探る。
- ②大河原教育事務所管内の各市町におけるスポーツに関する住民アンケート調査を実施し、住民のスポーツ活動状況やスポーツに対する意識を把握する。
- ③大河原教育事務所管内の各市町における総合型地域スポーツクラブの在り方について探る。

(2) 研修テーマ設定の理由

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会で「社会体育」を研修テーマとしたのは、平成元年以来、20年ぶりとなる。この20年の間に、宮城県では、平成2年のインターハイ、平成13年の国民体育大会を開催している。この間、「社会体育」をとりまく環境は、大きく変わった。

文部科学省は、平成12年9月（平成18年9月改定）に3項目から成る「スポーツ振興基本計画」（平成13～22年度の10年計画）を策定した。それによれば「スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上方策」として「人間が発達・成長し、創造的な活動をおこなっていくために必要不可欠なものであり、「人間力」の重要な要素である子どもの体力について、スポーツの振興を通じ、その低下傾向に歯止めをかけ、上昇傾向に転ずることを目指す。」ことを施策目標としている。施策の方針として、家庭、学校、地域が連携して、子どもが積極的に外遊びやスポーツに親しむ習慣を培うことで、将来的な国民全体の体力の低下、ひいては社会全体の活力が失われる事態を招かぬようにすることが謳われている。

この「スポーツ振興基本計画」では、平成22年までに各市区町村に少なくとも1つの総合型地域スポーツクラブを立ち上げることを目標としている。宮城県内では、平成22年3月現在で28の総合型地域スポーツクラブが設立されている。しかし、大河原教育事務所管内では、角田市の「スポーツコミュニケーション・かくだ」だけである。各市町では、今後、この総合型地域スポーツクラブの設立に向けて検討していかなければならない状況にある。

これらを踏まえ、各市町におけるスポーツの現況や課題を、また、住民のスポーツ活動や意識を把握し、今後の社会体育行政の発展に生かせればと考え、平成21年度・22年度の2年間で研修を進めることとした。

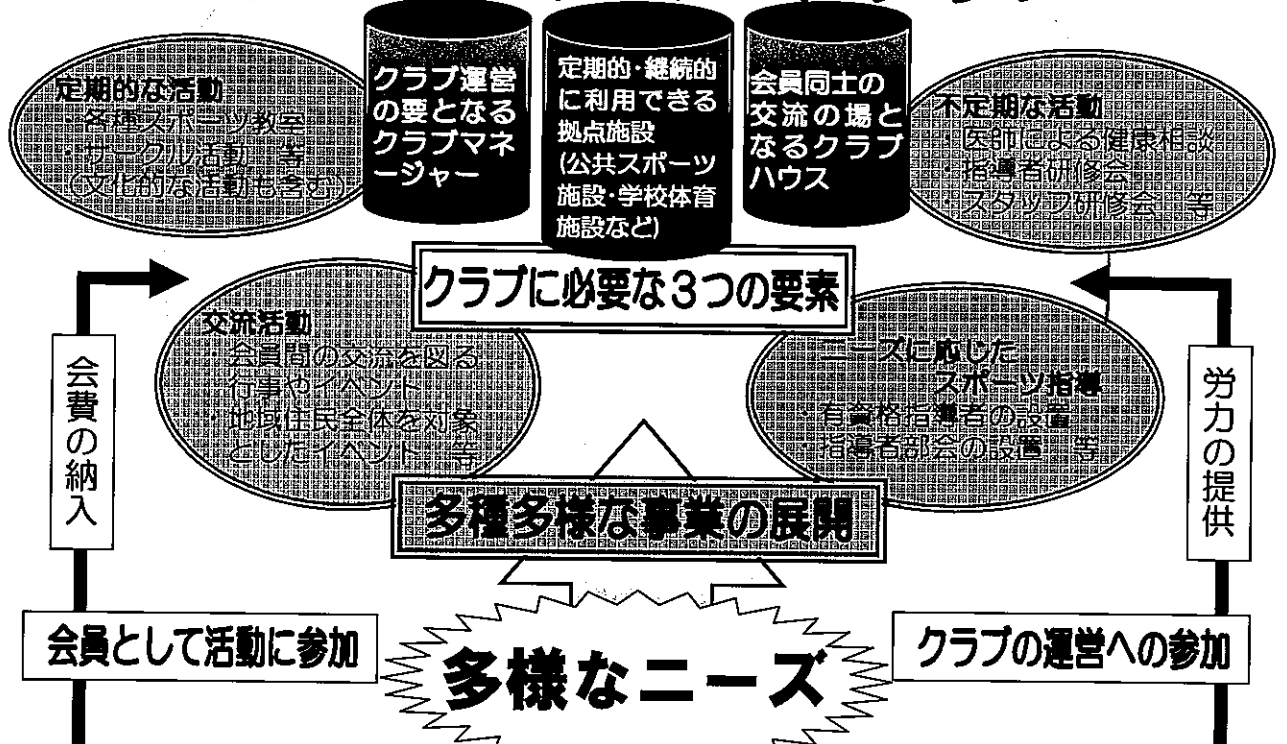
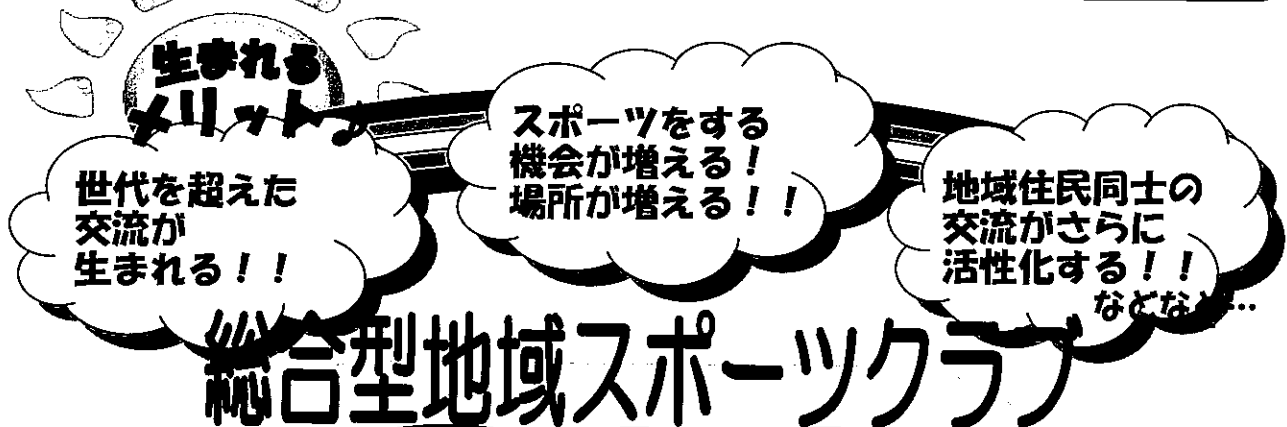
研修日程と経過

月 日 (曜日)	会 議 名	会 場	内 容
4月24日(金)	第1回主管課長・社会教育主事 合同会議 社会教育主事研究協議会総会	大河原合同庁舎	20年度事業、会計決算報告 21年度事業、予算、役員改選等
5月 8日(金)	第1回研修委員会 第1回社会教育主事研究協議会	村 田 町 中央公民館	研修内容及び年間計画等の検討、 研修テーマの検討と決定、 話題提供
6月 5日(金)	第2回研修委員会 第1回社会教育主事会議	大河原合同庁舎	研修会、研修テーマの基本構想や 方向性の検討、研修視察地の選定
7月16日(木)	第3回研修委員会 第2回社会教育主事研究協議会	蔵 王 町 ございんホール	研修内容及び方法の検討、 アンケート調査項目の検討、 研修視察の計画検討、話題提供
8月25日(火)	第4回研修委員会 第1回社会教育主事等研修会	大河原合同庁舎	研修内容及び方法の決定、 アンケート調査項目の決定、 研修視察の実施計画と役割分担
9月25日(金)	社会教育主事研究協議会 先進地研修視察	登米市教育委員会 なかだスポーツ クラブ“パティ オ”	研修テーマの先進地調査 「登米市教育委員会」 「なかだスポーツクラブ“パティ オ”」
10月 6日(火)	第5回研修委員会 第3回社会教育主事研究協議会	大河原町役場	研修視察の反省、アンケート調査 の内容の検討、研修報告書の内容 検討、話題提供
11月17日(火)	第6回研修委員会	大河原合同庁舎	アンケート調査票の決定、各市町 のスポーツの現状と課題、研修報 告書の内容と役割分担
11月27日(金)	第2回主管課長・社会教育主事 合同会議	大河原合同庁舎	平成21年度事業・平成22年度 事業の連絡と確認
12月 8日(火)	第7回研修委員会	大河原合同庁舎	各市町のスポーツの現状と課題、 研修報告書の内容と役割分担
1月29日(金)	第8回研修委員会 第4回社会教育主事研究協議会	丸 森 町 中央公民館	アンケート調査の集計、 研修報告書の原稿作成、話題提供
2月10日(水)	第9回研修委員会	大河原合同庁舎	研修報告書の原稿作成、校正等
3月 2日(火)	第10回研修委員会 第5回社会教育主事研究協議会	白 石 市 中央公民館	報告書の校正、研究のまとめと 反省等、話題提供

総合型地域スポーツクラブってなに？

総合型地域スポーツクラブってなに？

- ① 多 種 目 このクラブに入れば、いろんな種目にチャレンジできる！
- ② 多 世 代 子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで、みんなで楽しめる！
- ③ 多 志 向 競技志向からレクリエーションまで、自分に合うレベルで行える！
- ④ 自 主 運 営 運営は地域のみんなの会費と協力で！地域で支えるクラブ！！



地域住民の皆さま

- ◇親子で、家族で
- ◇友だちと一緒に
- ◇健康増進のため
- ◇仲間をつくりたい
- ◇みんなのスポーツ活動のお世話をしたい
- ◇自分の専門的技術・知識を活かしたい
- ◇いろんな種目を楽しみたい
- ◇文化的な活動も行いたい
- ◇指導者として活躍したい
- ◇専門種目のレベルアップをしたい

総合型地域スポーツクラブが必要とされる背景

1 子供の体力低下

昔に比べ、子供の体力が低下していると言われている。文部科学省が行っている体力・運動能力調査の調査結果(表1)を見ると、20年前との比較ではそれがわかる。10年前との比較では横ばい、上昇傾向も見られるが、子供の体力低下は、将来的には社会全体の体力低下につながり、生活習慣病の増加やストレスに対する抵抗力の低下など、社会全体の活力低下を招くことが想像される。

表1 体力・運動能力調査テスト結果の年別比較(11歳)

		平成元年	平成10年	平成20年
握力 (kg)	男	21.32	20.98	20.13
	女	19.62	19.93	19.97
50m走 (秒)	男	8.79	8.93	8.88
	女	9.06	9.26	9.23
ソフトボール投げ (m)	男	32.97	29.77	30.37
	女	19.08	17.49	17.87

参照：平成20年度体力・運動能力調査 調査結果統計表

ゆえに、子供たちのスポーツ・運動環境を充実させ、子供自身が体を動かすことの楽しさを発見し、進んで体を動かすようにすることがとても重要である。

一方で、少子化等による運動部活動参加者数の減少により、団体競技を中心として部活動の継続が困難なケースが増加している。「やりたい」スポーツ種目を部活動で行うことができない生徒が増加する傾向はこれからますます加速していこう。学校だけでこの問題を解決することは困難で、地域全体で子供がやりたいスポーツをやらせてあげられる環境づくりを進めていく必要性はこれからもさらに高まるだろう。こういった状況において、総合型クラブが果たせる役割は大きいのではないだろうか。

2 成人のスポーツ実施率が低い現状

平成18年9月に改定された国のスポーツ振興基本計画では、「国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する。」という目標を掲げており、具体的に「できるかぎり早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が2人に1人(50%)となることを目指す。」という数値目標も掲げている。

日本の成人のスポーツ実施率は、ヨーロッパの先進諸国に比べて低い現状にあるといわれているが、なぜ、日本の成人はスポーツを週1回以上実施しなかったのだろうか。もしくは、できなかったのだろうか。平成18年8月に内閣府が調査実施した体力・スポーツに関する世論調査によると、運動やスポーツをしなかった理由で最も割合が高かったのは「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がないから」という回答で、他の理由に比べて圧倒的に多く、全体の51.6%であった。

このことから考えるに、国が掲げた数値目標を達成するためには、仕事等の負担を減らし余暇時間を増大させるか、忙しい中でも、わずかな余暇時間の使い道をスポーツに振り分けてもらうかのどちらかとなるのではないだろうか。

総合型クラブは、後者に作用することが期待される。多様なメニューの中から自分のやりたいスポーツを選択できる、身近にあってちょっとした時間でも通える、スポーツをやりたいと思ったときにすぐ出来る。気軽に、手軽にスポーツを楽しめるようになることで、成人のスポーツ実施率の向上、ひいては生涯スポーツ社会の実現に寄与するのではないだろうか。

総合型地域スポーツクラブ育成の課題

総合型地域スポーツクラブの持つ「多種目」「多世代」「多志向」という性質は、スポーツに対するニーズが多様化してきている地域の生涯スポーツを推進する上でとても重要な要素であり、また、「会員による自主運営」という理念は、財政難によりなかなかスポーツ振興に予算を振り分けられない行政に代わって生涯スポーツを推進する可能性を秘めた魅力的な言葉である。

しかし、理想的なクラブ運営を行うことは難しく、すでに活動しているクラブの中には様々な課題に直面しているクラブも少なくない。国のスポーツ振興基本計画の中では、その課題を次のように挙げている。

- ・地域住民に、自らのスポーツ活動のための環境を地域で主体的に創り出すという意識が根付いていない。
- ・総合型地域スポーツクラブの意義が未だ十分理解されていない。
- ・クラブ創設へのニーズが高まっている地域でも、地域の関係者間の調整を行いながら創設を推進していく熱意と能力を有する人材を得るのが難しい。
- ・会費収入等によりクラブの安定的な財源を確保することが困難な事例もある。
- ・経営能力を有する専門的な人材（クラブマネージャー）が必要であるが、スタッフの確保は容易ではない。
- ・総合型地域スポーツクラブは、単にスポーツ活動の場であるだけでなく、地域住民の交流の場としても期待され、そのためには地域住民の交流の場（たまり場）となるクラブハウスは欠かせない。クラブの活動の拠点として期待される学校体育施設や公共スポーツ施設にはクラブハウスがない場合が多く、地域住民から期待される役割を果たすために必要な機能を備えているとは言い難い状況にある。

すでに活動しているクラブの中には、こういった課題に直面し、悩みながらクラブ運営を行っているところが少なくないだろう。そうした先行事例の負の面をクローズアップしてしまい、クラブ創設へ踏み込めないでいる地域も少なくないのではないだろうか。

また、総合型クラブが目指すべき活動を、既存の団体が既に実施しているというケースも考えられる。体育協会や、スポーツ少年団等の団体が、総合型クラブが担おうとしている役割を既に果たしているケースは十分に考えられ、そういった現状の中、無理やりクラブ設立を推し進めれば、既存の団体と競合してしまい、共倒れになるということも考えられなくもない。

大事なことは、地域の社会体育、生涯スポーツの現状をよく把握し、住民の方々がスポーツに対してどのようなニーズを持っているのかを調査した上で、それぞれの地域にあった総合型クラブ像を地域の中で話し合いながら作り上げていくことではないか。こういったプロセスは、なにも総合型クラブ設立を目的として行う必要は無く、地域の社会体育、生涯スポーツの振興を図る上では、当然必要な作業なのではないだろうか。クラブ設立ありきではなく、地域のスポーツ振興の未来図を検討していく上で、必要なことをかなえてくれる装置が総合型クラブであれば、設立に向けて動き出す。そのように階段を一段ずつ登っていくことで、上記のような課題も克服しながら、理想的なクラブができあがっていくのではないだろうか。

全国各地で設立されている総合型クラブ

出所：財団法人日本体育協会ホームページ「SCステーション」より一部抜粋（黒須充）

1 「住民主導と自主運営」 ～NPO法人クラブレッツ～ 石川県かほく市

NPO法人クラブレッツは、地域住民の力で立ち上げたクラブである。運営を支えるボランティアスタッフが50名、指導者は80名とマンパワーに恵まれている。住民主体のクラブをつくるため、まず「スポーツを考える会」と「青年ルネッサンス会議」という2つの会を2001年に立ち上げた。前者は、宇ノ気町の体育協会、体育指導委員、学校関係者、地域のサークル、行政の担当者等、約30名からなる集まり。後者は、職種も様々な宇ノ気在住の高校生から29歳までの若い人たちによる約30人の集まりであった。これまで同じテーブルにつくことのなかった多彩な人々が「まちづくりとスポーツクラブ」というテーマに基づき、それぞれの立場から「宇ノ気町のスポーツ」について意見を出し合い、「クラブレッツ」誕生の原動力になった。

クラブ設立後は、「地域のことは、地域に住む人々が協力して行う」という考え方を基本に、会員が有する経験、知識、技術、ノウハウ、そしてネットワークを最大限に生かした運営が行われている。財源については、設立当初は、補助金や助成金の割合が多かったが、年を追うごとに徐々に自主財源比率を上げていっており、2008年には財源の自立を図れるような運営を目指している。

2 「青少年の健全育成」 ～おおやのスポーツクラブ「ドリームズ」～ 熊本県大矢野町

おおやのスポーツクラブ「ドリームズ」は、「百年後の君たちへの贈り物 今できることから創めよう」をスローガンに、将来を担う子供たちの健全育成を柱に、スポーツによる明るく健康的な町づくりに取り組んでいる。青少年の一貫指導を目指すジュニアスクール（12種目）では、フェアプレーや仲間との交流、支え合い・思いやり・励まし合い、失敗や挫折を乗り越え、試行錯誤や努力することの大切さを学ぶ貴重な機会を提供している。また、ドリームズでは、町独自の指導者ライセンスLOS（ライセンス・オブおおやのスポーツリーダー）を設け、指導者の充実を図るとともに、地域との関わりの薄かった高校生や20代の若者に向けて、部活動にはないウェークボードやヒップホップダンスといった種目も積極的に取り入れている。

地域全体で「今できること」を継続していき、数年後、このクラブで育った子供たちが、さらに地域で指導に当たるといったスポーツ版循環型社会の育成を目指している。

3 「住民の健康・体力の増進」 ～元気クラブ大安～ 三重県いなべ市

「元気クラブ大安」は、人口1万人強の三重県大安町に設立されたクラブである。大安町は平成12年度県内でもトップクラスの医療費を記録し、高齢化社会の到来を前に早急な対策を講じる必要が生じた。そこで町では、厚生労働省の『健康日本21』の地方版『ヘルシーピープルみえ・21』と協働し、3年前から町独自の体験プログラムを作成し「元気づくり」に取り組んだ。体験プログラムは、企業チームで経験を積んできたプロの指導者の手によるもので、参加者自身に自分を知ってもらうことから始め、スポーツの効能を頭と体の両面で実感してもらうことで、スポーツ活動の継続につながるよう実施された。そしてさらに、地域全体に本格的に活動を拡げるために、地域の自治会やスポーツ少年団、地元のサークル団体などに働きかけ、厚生労働省の「健康日本21」と文部科学省の推進する「総合型地域スポーツクラブ」をリンクさせ、地域を基盤とした健康づく

りとスポーツ振興を両立できるクラブづくりをすすめた。将来的には、お年寄りが元気に暮らす一方で、子供たちの中から一流スポーツ選手が育っていくようなモデル地域づくりを目指している。

4 「学校運動部との連携」 ～NPO法人ゆうスポーツクラブ～ 山口県由宇町

NPO法人ゆうスポーツクラブの特徴は、設立段階から中学校部活動およびスポーツ少年団との連携活動を視野に入れた組織づくりにある。設立の背景には、これまで子供たちの健全育成を目指し活動してきた由宇町の既存の単一型目型スポーツ少年団が、学校週5日制や少子化といった社会変化に対応しきれなくなった現状を踏まえ、地域のスポーツ関係者で対応を検討し、新たな形の受け皿を模索した結果、誕生したという経緯がある。

その結果、(1) 中学校の部活動顧問と地域指導者が共通認識を持ちながら指導する、(2) 部活動にはない種目(バドミントン、フェンシング、空手道など)に参加を希望する中学生は、一般チームに加入して活動する、(3) 中学校の放課後の部活動にスポーツ少年団の団員(小学生・中学生)が参加する、などクラブの設立によって学校と地域の垣根が低くなった。その結果、地域の人がそこへ行けば、誰もがスポーツを楽しめる。分断されることなく継続してスポーツを楽しみ、スキルアップを目指す。そんな地域に根ざしたスポーツクラブ(My Town Club)に近づきつつある。

5 「一貫指導システムの確立と競技力の向上」

～社団法人塩竈フットボールクラブ～ 宮城県塩竈市

1964年に町内の子供たちを集めて発足した仁井町スポーツ少年団は、塩竈市立第一小学校を中心とした少年団へと発展していった。さらに70年代に市内各学区に作られた少年団を、指導者不足、グラウンド確保の困難さ等から大同団結し、塩釜FCが誕生した。スポーツを通じて地域で子供たちを育て、そして地域づくりをしていくという理念から、ジュニアユース、ユースを創設し、OBによる社会人チームと合流。一貫指導出来るシステムを確立した。

1996年に「日本のスポーツ文化を変えたい」という願いから2年間県教育庁に通い社団法人を取得「塩竈フットボールクラブ」が発足した。

現在は、伊保石牧場グラウンド(市から1万坪、民間から1万坪を借りて市の協力と塩釜FCのボランティアでグラウンドを作り上げた)を中心に市民に生涯スポーツの場を提供し、ボランティアスタッフと共に健康づくりに貢献している。又、今年からトップチーム「ヴィーゼ塩釜」が夢のJリーグ入りを目指し東北リーグに参戦している。トップチームの活躍によりジュニアからの目標が生まれ、そしてその期待に応えられるメンバーが育つことを、クラブの次のステップとして考えている。

スポーツコミュニケーション・かくだについて

スポーツコミュニケーション・かくだについて

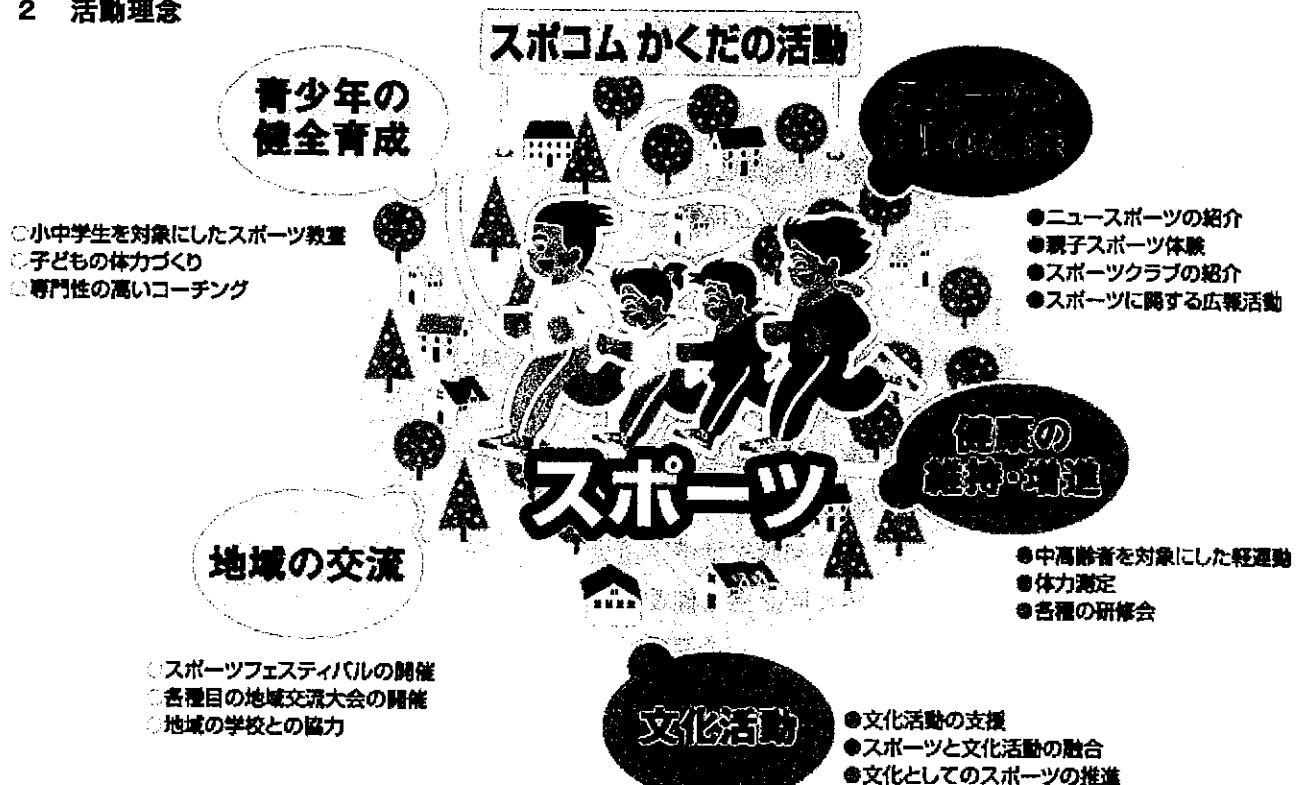
1 クラブの概要

総合型地域スポーツクラブ「スポーツコミュニケーション・かくだ（以下『スポコム』）」は、角田市の総合的なスポーツ活動を支援していく組織である。角田市体育協会を中心に、教育委員会及び角田市内のスポーツ関係諸団体の協力をもとに、様々なスポーツを通して青少年の健全育成に寄与するとともに、地域住民の幅広い層の方々に対して、今まで以上にスポーツに親しむ機会を提供し、健康の維持・増進を図ることを目的としている。あわせて、スポーツを中心とした文化活動を支援し、地域の活性化に努めている。

名 称	スポーツコミュニケーション・かくだ
設 立	平成20年3月28日
活 動 拠 点	角田市総合体育館(角田中央公園)
代 表 者 名	会長 草間 進
会 員 総 数	228名(一般会員207名, 役員・運営会員21名)
クラブマネージャー	有(事務局担当1名)
クラブハウス	無
指 定 管 理	無
法 人 格 資 格	無
連 絡 先	〒981-1504 角田市枝野字青木 155-31 角田市総合体育館内 スポコムかくだ事務局 TEL 0224-63-3771 FAX 0224-63-3772 HP http://www.spocom-kakuda.jp



2 活動理念



出典：スポーツコミュニケーションかくだホームページより <http://www.spocom-kakuda.jp/>

3 設立に至った経緯

角田市総合体育館がある角田中央公園は、市内のみならず市外の利用も多くスポーツ活動を行う上で重要な役割を担っている。また、阿武隈リバーサイドマラソン大会をはじめとする様々なスポーツ・レクリエーション事業を行う上での拠点でもあり、健康づくりや交流の場には欠かせない場所となっている。

このような中で、国のスポーツ振興基本計画（平成12年策定）における「平成22年までに全国の各市区町村において少なくとも1つは総合型地域スポーツクラブを育成する」という到達目標と、角田市新長期総合計画（平成11年策定、後期基本計画平成18年策定）における「スポーツ・レクリエーション活動の充実」の施策で示されている生涯スポーツ活動の充実及びスポーツ団体の育成を受けて、角田市では子供から高齢者まで誰もが参加できる「いつでも、どこでも、いつまでも」を基本理念とする総合型地域スポーツクラブを設立する動きとなった。角田市体育協会が中心となり、みやぎ広域スポーツセンターより講師を招いてクラブ設立に向けた勉強会を開催したり、角田市の生涯スポーツの現状を把握するための研修会や会議等を行い、平成20年3月28日の設立総会に至った。

事務局を総合体育館に置き、設立初年度は関係団体の協力を得ながらジュニア3スクール（ランニング・サッカー・バスケットボール）が中心的活動となり、スポコムがスタートした。

◇研修会等の参加

平成19年	6月23日	第1回東北ブロッククラブミーティング
	9月15日	宮城県総合型クラブ啓発フォーラム
	11月11日	第2回東北ブロッククラブミーティング
	11月17日	北海道・東北7県スポーツミーティング
平成20年	1月22日	第2回指定クラブ連絡協議会
	2月 2日	地域スポーツクラブセミナーin亙理

◇会議等の開催

平成16年	3月 4日	第1回勉強会
平成19年	2月14日	第1回設立検討会
	3月29日	第2回設立検討会
平成20年	1月16日	第1回設立準備委員会運営委員会
	1月22日	第2回設立準備委員会運営委員会
	2月 7日	第1回設立準備委員会
	2月17日	第3回設立準備委員会運営委員会
	2月18日	第2回設立準備委員会
	2月21日	第3回設立準備委員会
	2月28日	第4回設立準備委員会
	3月 1日	第4回設立準備委員会運営委員会
	3月12日	第5回設立準備委員会
	3月17日	第6回設立準備委員会
	3月28日	設立総会

設立趣意書

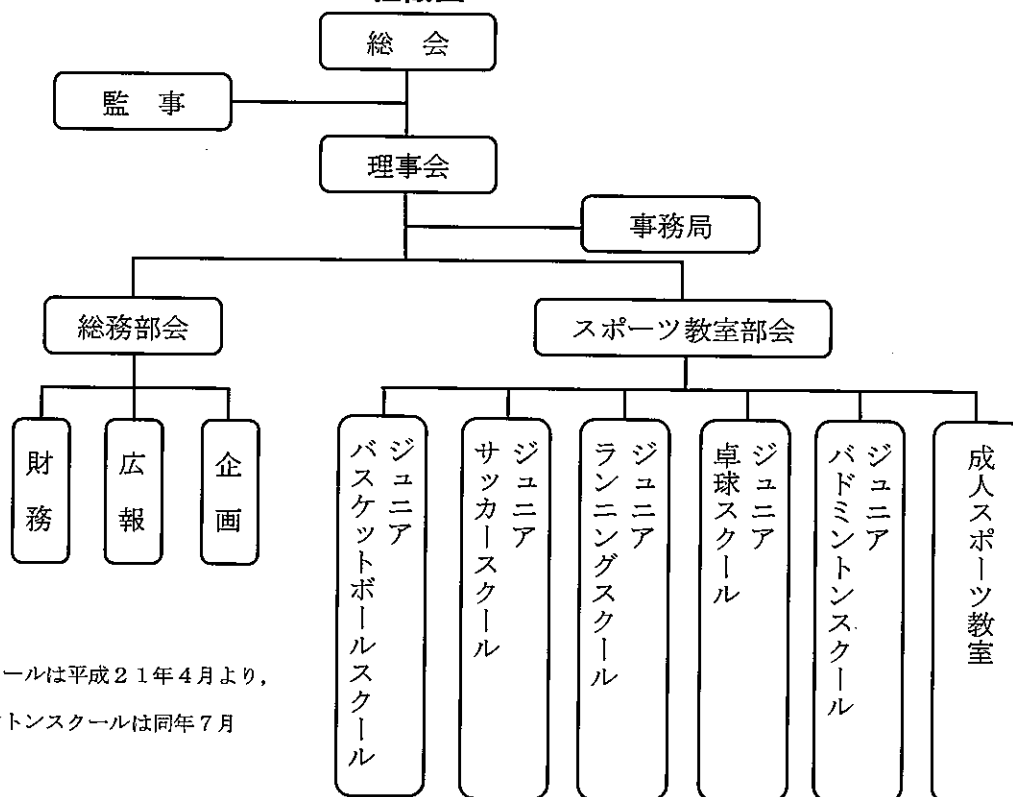
近年、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化しています。生活は豊かになり、利便性は向上しましたが、その反面、車社会や情報化社会などの進展により日常生活の中で「体を動かす」機会は著しく減少しています。また、少子高齢化社会の進展も私たちの生活に影響を及ぼしています。子どもたちの生活環境は、子どもがスポーツに親しむ機会の減少や体力低下をもたらし、中高年齢層の増加は健康の維持・増進を図るための活動をする機会を必要としています。このような傾向は角田及び周辺地域はもとより全国的な傾向であり、地域社会においてスポーツやレクリエーション活動に身近に取り組める環境を整えることは、今後ますます重要になると考えられます。

国や県は本格的にスポーツ振興に取り組む姿勢として「スポーツ振興基本計画」を策定しています。その計画の第一に、国民の誰もが「いつでも、どこでも、いつまでも」取り組めるスポーツ環境を整えるために、2010年までに各市町村に少なくとも1つの総合型地域スポーツを立ち上げるよう推進しています。また、角田市では「新長期総合計画」の中で、スポーツ・レクリエーション活動の充実を施策とし、生涯スポーツ活動の充実及びスポーツ団体の育成を示しています。

このような状況の中、私たちは、スポーツやレクリエーションに、子どもから高齢者まで誰もが参加できる「いつでも、どこでも、いつまでも」を基本理念とする総合型地域スポーツクラブ「(仮称)スポーツコミュニケーション・かくだ」を設立することを決意しました。このクラブは、角田市内に活動拠点を置き、周辺地域を含めた活動エリアで総合的なスポーツ活動を展開し、青少年の健全育成に寄与するとともに、地域住民の幅広い年齢層にスポーツに親しむ機会を提供することにより、健康の維持、増進を図りたいと考えています。さらに、スポーツばかりでなく文化活動の支援も重要な仕組みとし、文化とスポーツを融合させた地域の活性化に貢献したいと考えています。

つきましては、この趣意にご賛同いただき「(仮称)スポーツコミュニケーション・かくだ」の設立や諸事業へのご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

組織図



※ジュニア卓球スクールは平成21年4月より、
ジュニアバドミントンスクールは同年7月より開講

4 事業内容

(1) 主催事業

①みんなのスポーツ(ジュニアスポーツ教室)

小中学生を対象にしたスポーツ教室で、角田市教育委員会との共催で実施している。年間の入会手続きを済ませると5つの教室を自由に選択することができ、色々なスポーツを楽しむことができるのが特徴。なお、各スクールの指導は体育協会の加盟団体が行っている。

種目	期間	開催日・時間	場所
ランニング (指導者:陸上競技協会)	4月～3月	第2, 4土曜日 午前10時～12時	陸上競技場
サッカー (指導者:サッカー協会)	4月～12月	毎週土曜日 午前9時～11時30分	多目的運動場等
バスケットボール (指導者:バスケットボール協会)	4月～3月	第1, 3土曜日	総合体育館等
卓球 (指導者:卓球協会)	4月～3月	第2, 4土曜日 午前10時～12時	角田自治センター
バドミントン (指導者:バドミントン協会)	7月～3月	第1, 3土曜日 午前10時～12時	農村環境改善センター

②サタデー・フィットネス成人教室

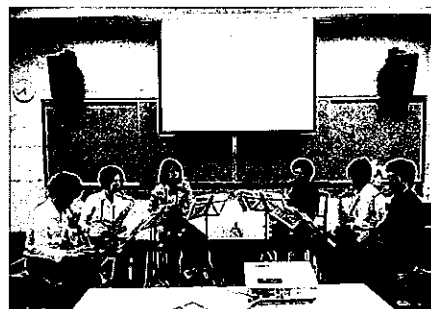
手軽で簡単に運動が行える機会を提供することで、運動・スポーツを習慣化するとともに、健康・体力づくりの促進を目指している。週に1回程度、気軽に参加できるプログラムを実施しており、期間中であれば参加はいつからでも、1回だけの参加も可能。

【内容】軽度のウエイトトレーニング、有酸素運動、ニュースポーツ等

種目	期間	開催日・時間	場所
フィットネストレーニング	前期 7月～9月 後期 11月～2月	土曜日 午前10時～11時30分	総合体育館

③スポーツと文化の融合イベント

スポコムでは「スポーツも文化のひとつ」という考えから文化活動も重要な取り組みとして行っている。平成21年8月12日(水)に阿武隈急行角田駅のオークプラザにおいて、「第1回夕涼みスポーツ音楽会」を開催し、角田出身の宍戸一匡氏とその友人6名による、ジャズやクラシック曲等の演奏が行われた。今後もスポーツと文化の融合をテーマにイベントを開催していく予定である。



第1回夕涼み音楽会

(2) 協力事業等

- ①リバーサイドマラソン大会、スポーツフェスティバル等、角田市体育協会主催事業への協力
- ②各種スポーツ団体及び文化団体が開催する事業への協力

5 入会等について

入会会費	小中学生 2,000 円/年 高校生・一般 3,000 円/年 ファミリー会員 10,000 円/年(家族何人でも可)
保険加入	入会会費にはスポーツ安全保険加入料金が含まれている。 クラブ活動中の損害については、スポーツ安全保険の対象範囲内のみで対応。
申込方法	角田市総合体育館の窓口またはホームページ「入会申込書PDF」の申込用紙に記入し、会費を添えて総合体育館へ申し込む。(小中学生は保護者の同意が必要)

6 現状と課題及び今後の展望

(1) 事務局体制の明確化

クラブマネージャー（事務局担当）が常駐していないため、現在窓口はスポーツ振興係が対応しており、事務のすり合わせが必要。

(2) 自主財源の確保

- ①クラブの存在を積極的にPRし、会員増加に努める。
- ②スポーツセンター等とのネットワークを密にし、補助金や委託事業等の情報収集に努める。

(3) NPO取得

将来像を見据えた運営をする上でもNPO取得について検討する必要がある。

(4) 地域の特性を活かしたクラブ運営

- ①活動の中心となるジュニア教室の充実を図り、新規教室の開設を検討し、事業の拡充を図る。
- ②ホームページや情報誌を活用し、クラブの紹介や地域スポーツ・文化活動を広報する。



ジュニア・ランニングスクール



ジュニア・サッカースクール

7 最後に

角田市の生涯スポーツを推進する上でスポコムは重要な役割を担うことになるであろう。設立2年の今、地域でいかにクラブを育て定着させていくか、そして将来像を見据えた角田独自のクラブ運営をしていくかが課題となっている。そのような中で平成21年12月2日、生涯学習課職員（4名）とクラブの役員（2名）の打ち合わせが角田市市民センターで行われ、草間会長が下記のとおり述べていた。

私たちは「スポーツは楽しいんだよ、スポーツを嫌いにならないで」という思いを込めて子供たちと接している。様々なスポーツを体験してもらい多くのことを学んで欲しい。スクールの内容は初級レベルで構わない、そこで物足りない子供はスポーツ少年団へ加入してもらえば良い。教育委員会主催で行っていたランニング教室とサッカー教室をスポコムのジュニアスクールへ移行したのも、今まで行っていた教室をスポコムでも継続できると思ったから。今はクラブの基礎を固める時期だから、運営側と参加者側の両方の負担にならないような日程を継続していく。無理のない日程を変えない理由は、スポコムの根底にある「地域のために」「子供のために」という考えがあるから。だからこそスポコムは青少年健全育成や子育て支援を行う場でもある。これからも設立時に大きな役割を担った体育協会と行政とうまく連携しながら、スポーツで角田を活性化していきたい。

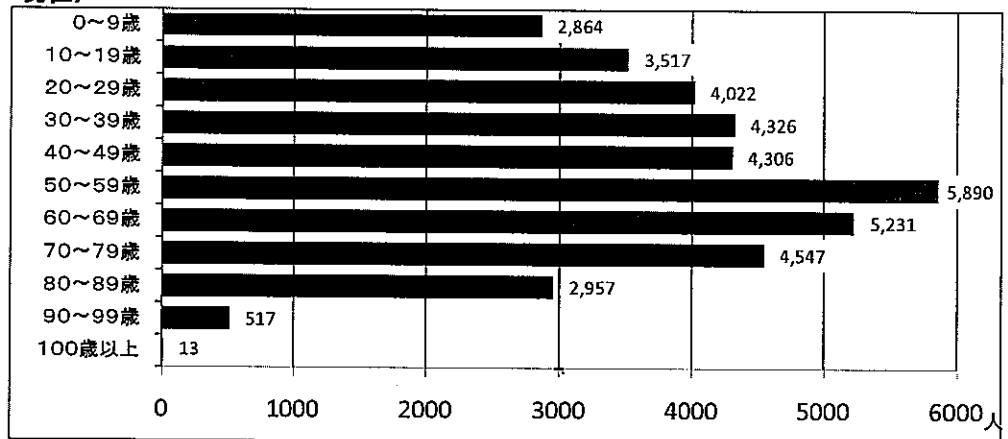
各市町のスポーツの現状と課題

白石市のスポーツの現状と課題

1 現状

①年代別人口(H21.12.31現在)

年齢	人口(人)
0～9歳	2,864
10～19歳	3,517
20～29歳	4,022
30～39歳	4,326
40～49歳	4,306
50～59歳	5,890
60～69歳	5,231
70～79歳	4,547
80～89歳	2,957
90～99歳	517
100歳以上	13
計	38,190



②スポーツ活動が行われている体育施設(目的外使用している学校施設も含む)

種別	名称	所在地区名	施設でできるスポーツ種目	建築年
公共施設	益岡公園野球場	白石地区	野球	S31
	益岡公園庭球場	白石地区	庭球	H12
	白石川緑地野球場	白石地区	野球	S60
	白石川緑地ソフトボール場	白石地区	ソフトボール	H 4
	白石川緑地ゲートボール場	白石地区	ゲートボール	H元
	白石川緑地陸上競技場	白石地区	陸上競技 他	S63
	岩崎公園庭球場	福岡地区	庭球	H 2
	白石市スポーツセンター	白石地区	バレーボール・バドミントン 他	H 4
	白石市南蔵王休憩所	福岡地区	スキー・山岳	S44
	スパッシュランドしろいし	小原地区	水泳・ウェイトトレーニング 他	H 4
	緑が丘テニスコート	白石地区	庭球	S63
	城北コミュニティーセンター	白石地区	軽スポーツ	H 2
	鷹巣コミュニティーセンター	白石地区	軽スポーツ	S57
	白石市文化体育活動センター	白石地区	バレーボール・バスケットボール・新体操 他	H 9
	白石川サッカー公園	白石地区	サッカー	H16
	白石第一小学校体育館	白石地区	バレーボール 他	S47
	〃 校庭	白石地区	野球・ソフトボール 他	
	白石第二小学校体育館	白石地区	バレーボール 他	H 8
	〃 校庭	白石地区	野球・ソフトボール・サッカー 他	
	越河小学校体育館	越河地区	バレーボール 他	S31
	〃 校庭	越河地区	野球・ソフトボール 他	
	斎川小学校体育館	斎川地区	バレーボール 他	H 3
	〃 校庭	斎川地区	野球・ソフトボール 他	
	大平小学校体育館	大平地区	バレーボール・バドミントン 他	S63
	〃 校庭	大平地区	野球・ソフトボール・サッカー 他	
	大鷹沢小学校体育館	大鷹沢地区	バレーボール 他	S54
	〃 校庭	大鷹沢地区	野球・ソフトボール 他	
	白川小学校体育館	白川地区	バレーボール 他	S51
	〃 校庭	白川地区	野球・ソフトボール 他	
	福岡小学校体育館	福岡地区	バレーボール 他	S54
	〃 校庭	福岡地区	野球・ソフトボール 他	
	深谷小学校体育館	深谷地区	バレーボール 他	S30
〃 校庭	深谷地区	野球・ソフトボール 他		
小原小・中学校体育館	小原地区	バレーボール・卓球 他	H 4	
〃 校庭	小原地区	野球・ソフトボール 他		
白石中学校体育館	白石地区	バレーボール 他	S47	
〃 校庭	白石地区	野球・ソフトボール 他		
〃 柔剣道場	白石地区	柔道・剣道 他	H 4	
南中学校体育館	越河地区	バレーボール 他	H20	

種別	名称	所在地区名	施設でできるスポーツ種目	建築年
公共施設	南中学校校庭	越河地区	野球・ソフトボール 他	
	白川中学校体育館	白川地区	バレーボール・卓球 他	S44
	〃 校庭	白川地区	野球・ソフトボール 他	
	福岡中学校体育館	福岡地区	バレーボール 他	H13
	〃 校庭	福岡地区	野球・ソフトボール 他	
	小原中学校体育館	小原地区	バレーボール・卓球 他	H 4
	〃 校庭	小原地区	野球・ソフトボール 他	
	東中学校体育館	大鷹沢地区	バレーボール 他	S63
	〃 校庭	大鷹沢地区	野球・ソフトボール 他	
	中央公民館	白石地区	軽スポーツ	S56
	越河公民館	越河地区	軽スポーツ	S53
	斎川公民館	斎川地区	軽スポーツ	S50
	大平公民館	大平地区	軽スポーツ	S49
	大鷹沢公民館	大鷹沢地区	軽スポーツ	S48
	白川公民館	白川地区	軽スポーツ	S50
	福岡公民館	福岡地区	軽スポーツ	S51
	深谷公民館	深谷地区	軽スポーツ	S54
小原公民館	小原地区	軽スポーツ	S52	
民間施設	みやぎ蔵王白石スキー場	福岡地区	スキー	S44
	仙台グリーンゴルフクラブ	大鷹沢地区	ゴルフ	S52
	白石ゴルフガーデン	白石地区	ゴルフ練習	S59
	スポーツメイトZAO	白石地区	水泳	H19
	三省塾道場	白石地区	柔道	S50
	沖縄剛柔流空手無心館	白石地区	空手	S54
	大槻剣道場	白石地区	剣道	S49

③行政で行っているスポーツ教室・大会・イベント

実施主体	事業	主な参加者(対象者)
教育委員会	市民グランドゴルフ大会	市民
	市民シャフルボード大会	市民
	白石市ふるさとスポーツ祭	地区代表
	みやぎ蔵王高原マラソン大会	市民
	白石市民体育大会	市民
	白石市農業祭・球技大会	地区代表
	小学生シャフルボード大会	小学生
	市民綱引大会	市民
	スポーツレクリエーション大会	市民
	ジュニア3B体操教室	幼児・小学生
	親子リトミック講座	親子
	健康いきいきEnjoy教室	市民
	白石地区球技大会	地区代表
館長杯家庭バレーボール大会	地区代表	
首長部局	市民ウォーキング	市民
	老人クラブスポーツ大会	老人クラブ
	ゲートボール大会	市民

④体育関係団体(在籍人数は平成21年度のものである)

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数
体育協会 加盟 団体	白石市陸上競技協会	陸上競技関係	白石川緑地陸上競技場	39名
	白石柔道協会	柔道関係	白石中学校	22名
	白石刈田剣道連盟	剣道関係	福岡中学校	
	白石市野球協会	野球関係	白石川緑地野球場	381名
	白石市水泳協会	水泳関係	スパッシュランドしろいし	7名
	白石市卓球協会	卓球関係	白石市スポーツセンター	22名
	白石市バレーボール協会	バレーボール関係	白石市文化体育活動センター	
	白石ソフトテニス協会	ソフトテニス関係	益岡公園庭球場	53名
	蔵王スキー協会	スキー関係	みやぎ蔵王白石スキー場	80名
	白石射撃クラブ	射撃関係	射撃場	18名

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数	
体育協会 加盟団体	白峰会	登山関係	山岳地帯	30名	
	白石市歩こう会	ウォーキング関係	ウォーキングコース	55名	
	白石市空手道協会	空手関係	白石市スポーツセンター	63名	
	白石市バドミントン協会	バドミントン関係	白石市スポーツセンター	19名	
	白石市ソフトボール協会	ソフトボール関係	白石川緑地ソフトボール場	164名	
	ダンス・パル白石	ダンス関係	中央公民館	15名	
	白石市地域婦人会	ダンス関係	中央公民館	135名	
	白石市ゲートボール協会	ゲートボール関係	白石川緑地ゲートボール場	124名	
	白石市バスケットボール協会	バスケットボール関係	白石市文化体育活動センター		
	白石市家庭バレーボール協会	家庭バレーボール関係	白石市スポーツセンター	560名	
	白石市テニス協会	テニス関係	益岡公園庭球場	30名	
	白石市体操協会	体操関係	白石市文化体育活動センター	20名	
	白石市グラウンドゴルフ協会	グラウンドゴルフ関係	白石川緑地陸上競技場	140名	
	白石サッカー協会	サッカー関係	白石川サッカー公園	109名	
	スポーツ少年団	白石三省塾柔道スポーツ少年団	柔道関係	三省塾道場	30名
		白石サンダーズスポーツ少年団	バレーボール関係	白石第一小学校	18名
福岡少年野球クラブスポーツ少年団		野球関係	福岡小学校	25名	
白石サッカースポーツクラブ少年団		サッカー関係	白石第二小学校	30名	
青麻少年野球クラブスポーツ少年団		野球関係	河川敷グラウンド	15名	
大平少年野球レインボースポーツ少年団		野球関係	大平小学校	17名	
大平サッカークラブスポーツ少年団		サッカー関係	大平小学校	16名	
白石少年野球クラブスポーツ少年団		野球関係	白石第一小学校	28名	
白石空手道スポーツ少年団		空手関係	白石市スポーツセンター	52名	
白石ソフトテニススポーツ少年団		ソフトテニス関係	益岡公園庭球場	24名	
白川少年野球クラブスポーツ少年団		野球関係	白川小学校	22名	
斎川空手道スポーツ少年団		空手関係	斎川公民館	10名	
越河少年野球クラブスポーツ少年団		野球関係	越河小学校	15名	
白川空手道スポーツ少年団		空手関係	白川公民館	7名	
大鷹沢少年野球スポーツ少年団		野球関係	大鷹沢小学校	16名	
白石ヨッシャーズ少年野球スポーツ少年団		野球関係	アツギグラウンド	32名	
白石清球会スポーツ少年団		野球関係	益岡公園野球場		
FC白石ジュニアーズスポーツ少年団		サッカー関係	白石川サッカー公園	39名	
福岡Jrソフトテニススポーツ少年団		ソフトテニス関係	岩崎公園庭球場	15名	
蓮心館剣道スポーツ少年団		剣道関係	ひかり剣道場	12名	
その他の団体		白石市体育指導委員	地域スポーツの指導	市内全域	20名
	白石市体育協会	スポーツ全般	市内全域		
	白石市スポーツ少年団本部	少年スポーツ全般	市内全域		

2 行政や体育関係団体などが抱えている課題

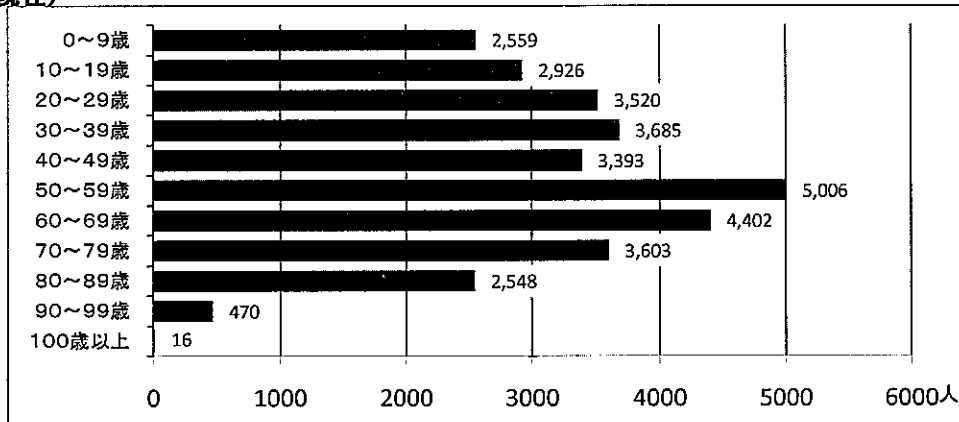
各体育施設についても年々老朽化が目立ってきているほか、体育関係団体においては、高齢化が進み若い世代の加入が進んでいない状況にある。スポーツ少年団については、少子化傾向にあり、登録団体数及び登録者についても減っている。また、子供や若い世代のスポーツ離れも進んでいるので、白石市において将来的に、スポーツ団体そのものの存亡も危ぶまれるのではないかと懸念されている。

角田市のスポーツの現状と課題

1 現状

①年代別人口(H21.12.31現在)

年齢	人口(人)
0～9歳	2,559
10～19歳	2,926
20～29歳	3,520
30～39歳	3,685
40～49歳	3,393
50～59歳	5,006
60～69歳	4,402
70～79歳	3,603
80～89歳	2,548
90～99歳	470
100歳以上	16
計	32,128



②スポーツ活動が行われている体育施設(目的外使用している学校施設も含む)

種別	名称	所在地区名	施設でできるスポーツ種目	建築年
公共施設	角田市総合体育館	枝野地区	室内スポーツ全般	S60
	角田中央公園 角田市野球場	枝野地区	野球, ソフトボール	H 3
	〃 角田市陸上競技場	枝野地区	陸上競技, サッカー(トラック内)	H 4
	〃 角田市屋内温水プール	枝野地区	水泳	H10
	〃 中央公園テニスコート	枝野地区	テニス	H 6
	多目的運動場・多目的芝生広場	枝野地区	野球, サッカー, グラウンド・ゴルフ等	
	台山公園	角田地区	野球, ソフトボール, サッカー, テニス等	H元
	神次郎運動広場(仙台大学第2グラウンド)	北郷地区	ソフトボール, ゲートボール等	H元
	阿武隈川緑地 角田市民ゴルフ場	藤尾地区	ゴルフ	H 4
	〃 あぶくまパークゴルフ場	桜地区	パークゴルフ	H19
	角田市民センター屋内運動場	角田地区	バレーボール, バスケットボール, バドミントン等	S51
	角田自治センター	角田地区	卓球	S49
	角田小学校屋内運動場	角田地区	室内スポーツ全般	S56
	〃 校庭	〃	屋外スポーツ全般(主に野球, ソフトボール等)	
	横倉小学校屋内運動場	横倉地区	室内スポーツ全般	H 7
	〃 校庭	〃	屋外スポーツ全般(主に野球, ソフトボール等)	
	小田小学校屋内運動場	小田地区	室内スポーツ全般	S55
	〃 校庭	〃	屋外スポーツ全般(主に野球, ソフトボール等)	
	枝野小学校屋内運動場	枝野地区	室内スポーツ全般	S60
	〃 校庭	〃	屋外スポーツ全般(主に野球, ソフトボール等)	
	藤尾小学校屋内運動場	藤尾地区	室内スポーツ全般	S60
	〃 校庭	〃	屋外スポーツ全般(主に野球, ソフトボール等)	
	桜小学校体育館	桜地区	室内スポーツ全般	S53
	〃 校庭	〃	屋外スポーツ全般(主に野球, ソフトボール等)	
	北郷小学校屋内運動場	北郷地区	室内スポーツ全般	S61
	〃 校庭	〃	屋外スポーツ全般(主に野球, ソフトボール等)	
	西根小学校屋内運動場	西根地区	室内スポーツ全般	S58
	〃 校庭	〃	屋外スポーツ全般(主に野球, ソフトボール等)	
	角田中学校屋内運動場	角田地区	室内スポーツ全般	S47
	〃 武道館	〃	柔道, 剣道等	S58
	〃 校庭	〃	屋外スポーツ全般(主に野球, ソフトボール等)	
	金津中学校屋内運動場	藤尾地区	室内スポーツ全般	H 2
	〃 武道館	〃	柔道, 剣道等	S54
〃 校庭	〃	屋外スポーツ全般(主に野球, ソフトボール等)		
北角田中学校屋内運動場	北郷地区	室内スポーツ全般	S42	
〃 武道館	〃	柔道, 剣道等	S53	
〃 校庭	〃	屋外スポーツ全般(主に野球, ソフトボール等)		
民間施設	(有)岩井田ゴルフガーデン	北郷地区	ゴルフ	
	臥牛館道場	角田地区	剣道	
	臥牛館梶賀道場	桜地区	剣道	

種別	名称	所在地区名	施設でできるスポーツ種目	建築年
民間施設	昂心館	角田地区	剣道	
	柳柔会牛木道場	角田地区	柔道	

③行政で行っているスポーツ教室・大会・イベント

実施主体	事業	主な参加者(対象者)
教育委員会	阿武隈リバーサイドマラソン大会	一般市民
	スポーツ・レクリエーション祭	一般市民
	こどもリレーカーニバル	小学生
	水泳教室	一般市民
	トレーニング教室	一般市民
	寒稽古武道大会	小中学生
	総合型地域スポーツクラブ育成事業	小中学生

④体育関係団体(在籍人数は平成21年度のものである)

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数
体育協会加盟団体	角田市陸上競技協会	こどもリレーカーニバル等	陸上競技場	
	角田市卓球協会	角田市オープン卓球大会等	総合体育館等	
	角田市バレーボール協会	角田市ママさんバレーボール大会等	総合体育館等	
	角田市野球協会	高山杯学童野球大会等	野球場等	
	角田市ソフトテニス協会	角田市市民ソフトテニス大会等	中央公園テニスコート等	
	角田市水泳協会	角田市市民水泳大会等	屋内温水プール等	
	角田市空手道協会	阿武隈杯空手道選手権大会等	総合体育館等	
	角田市柔道協会	相馬市・角田市親善柔道大会等	総合体育館等	
	角田市剣道協会	角田市少年剣道大会等	総合体育館等	
	角田市バスケットボール協会	あぶくまカップバスケットボール大会等	総合体育館等	
	角田市サッカー協会	中学生強化合宿	陸上競技場等	
	角田市ソフトボール協会	会長杯大会等	台山公園多目的広場等	
	角田市バドミントン協会	角田市オープンバドミントン選手権大会等	総合体育館等	
	角田市射撃クラブ			
	角田市ゲートボール協会	角田市民ゲートボール大会等	台山公園多目的広場等	
	角田市グラウンド・ゴルフ協会	角田市民大会等	多目的芝生広場等	
	角田市テニス協会	角田市オープンテニス大会等	中央公園テニスコート等	
	角田市ビニールボール協会	角田市ビニールボール大会等	総合体育館等	
	角田市太極拳協会	太極拳講習会等	市民センター屋内運動場等	
	スポーツ少年団	角田レッドサーベルズ	軟式野球	台山公園多目的広場等
角田ブルーシャークス		軟式野球	台山公園多目的広場等	21名
藤尾ジャンボⅢ		軟式野球	藤尾小学校	19名
横倉少年野球クラブ		軟式野球	横倉小学校	25名
桜ドラゴンズ		軟式野球	桜小学校	22名
枝野ファイターズ		軟式野球	枝野小学校	23名
藤尾少年剣道教室		剣道	藤尾小学校	14名
角田市空手道		空手道	総合体育館	12名
枝野少年空手クラブ		空手道	総合体育館	20名
角田剛柔会空手道		空手道	桜コミュニティセンター	18名
藤尾レインボーズ		バレーボール	藤尾小学校	13名
枝野リリース		バレーボール	枝野小学校	9名
COSMO		バレーボール	角田小学校	14名
柳柔会牛木道場		柔道	柳柔会牛木道場	29名
角田スイミング		水泳等	屋内温水プール等	29名
よこくらフットボールクラブ		サッカー	横倉小学校	6名
角田市西根陸上		陸上競技	陸上競技場	9名
角田中野球クラブ		軟式野球	角田中学校	62名
金津中(野球)		軟式野球	金津中学校	29名
枝野ジュニアバドミントンクラブ		バドミントン	総合体育館	9名
金津中(剣道)		剣道	金津中学校	8名
金津JBC		バスケットボール	総合体育館	13名
横倉ジュニアバドミントン		バドミントン	横倉小学校	20名
角田ジュニアクラブ	バドミントン	角田小学校	23名	
北角田中野球クラブ	軟式野球	北角田中学校	45名	

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数
スポーツ少年団	角田バスケット	バスケットボール, ミニバスケットボール	角田小学校	63名
	全日本空手道連盟剛柔会空心館	空手道	総合体育館	9名
	枝野少年剣道	剣道	枝野小学校	10名
その他の団体	角田市体育協会			
	角田市スポーツ少年団本部			
	角田市体育指導委員			
	スポーツコミュニケーション・かくだ			

2 行政や体育関係団体などが抱えている課題

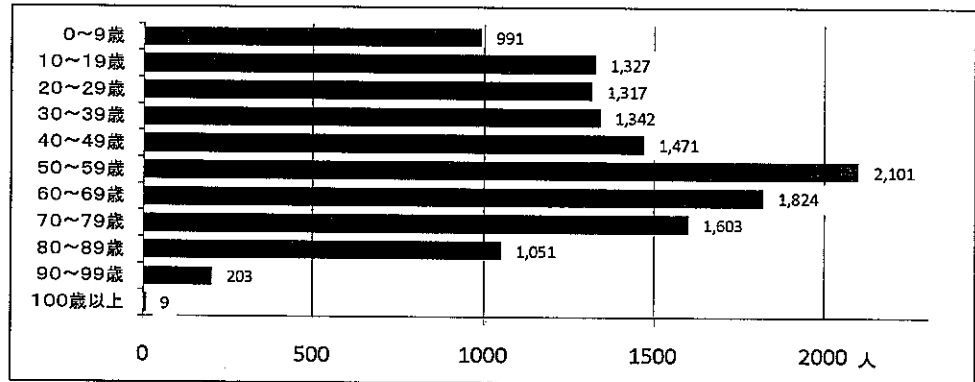
- ・施設の不足。特に夜間使用可能な施設の不足。
- ・施設の老朽化
- ・スポーツ・レクリエーション事業に対する要望の多様化
- ・事業参加者の固定化
- ・団体の指導者・後継者不足
- ・行政と団体, 団体同士の横のつながり

蔵王町のスポーツの現状と課題

1 現状

①年代別人口(H21.12.31現在)

年齢	人口(人)
0～9歳	991
10～19歳	1,327
20～29歳	1,317
30～39歳	1,342
40～49歳	1,471
50～59歳	2,101
60～69歳	1,824
70～79歳	1,603
80～89歳	1,051
90～99歳	203
100歳以上	9
計	13,239



②スポーツ活動が行われている体育施設(目的外使用している学校施設も含む)

種別	名称	所在地区名	施設でできるスポーツ種目	建築年
公共施設	蔵王町B&G海洋センター	永野地区	水泳, バレーボール, ドッチボール, 卓球, 剣道	S63
	蔵王町総合運動公園	永野地区	野球, テニス, ソフトボール, ゲートボール, グラウンド・ゴルフ	H元
	蔵王町勤労者体育館	宮地区	バレーボール等球技	S56
	サン・スポーツランド蔵王	遠刈田地区	野球, テニス, ソフトボール, ゲートボール, グラウンド・ゴルフ	H 2
	北部地区コミュニティグラウンド	平沢地区	野球, ソフトボール, ゲートボール, グラウンド・ゴルフ	S51
	白山グラウンド	円田地区	野球, ソフトボール, ゲートボール, グラウンド・ゴルフ	S61
	宮運動広場	宮地区	野球, ソフトボール, ゲートボール, グラウンド・ゴルフ	S61
	七日原グラウンド	遠刈田地区	野球, ソフトボール, ゲートボール, グラウンド・ゴルフ	S54
	宮松川グラウンド	宮地区	ゲートボール	S53
	永野小学校 体育館	永野地区	バレーボール等球技	H 3
	〃 校庭	永野地区	野球等球技	
	円田小学校 体育館	円田地区	バレーボール等球技	S50
	〃 校庭	円田地区	野球等球技	
	平沢小学校 体育館	平沢地区	バレーボール等球技	S51
	〃 校庭	平沢地区	野球等球技	
	遠刈田小学校 体育館	遠刈田地区	バレーボール等球技	S43
	〃 校庭	遠刈田地区	野球等球技	
	宮小学校 体育館	宮地区	バレーボール等球技	S61
	〃 校庭	宮地区	野球等球技	
	円田中学校 体育館	円田地区	バレーボール等球技	S58
	〃 校庭	円田地区	野球等球技	
	宮中学校 体育館	宮地区	バレーボール等球技	H 7
	〃 校庭	宮地区	野球等球技	
	遠刈田中学校 体育館	遠刈田地区	バレーボール等球技	S55
	〃 校庭	遠刈田地区	野球等球技	
	蔵王町ふるさと文化会館 (ございんホール) (蔵王町公民館, 永野地区公民館併設)	永野地区	体操等	H16
	円田地区公民館	円田地区	体操等	S53
	平沢地区公民館 (北部地区コミュニティセンター)	平沢地区	体操等	S52
遠刈田地区公民館	遠刈田地区	体操等	S58	
宮地区公民館	宮地区	体操等	S44	
民間施設	みやぎ蔵王えぼしスキー場	遠刈田地区	スキー・スノーボード	S54
	みやぎ蔵王澄川スノーパーク	遠刈田地区	スキー・スノーボード	S34
	宮城蔵王カントリークラブ	遠刈田地区	ゴルフ	S63
	空手道秀錬会蔵王道場	宮地区	空手	

③行政で行っているスポーツ教室・大会・イベント

実施主体	事業	主な参加者(対象者)
教育委員会	B&Gアドベンチャー教室	小学2年生～中学2年生
	かなづちっ子水泳教室	小学生
	B&Gジュニアスキー教室	小学4年生～6年生
	B&Gジュニアスノーボード教室	小学4年生～中学2年生
	B&Gジュニアスケート教室	小学4年生～6年生
	蔵王町民水泳大会	小中学生,成人
	ノルディックウォーキング教室	成人
	B&Gわいわい元気広場(春・秋・冬)	成人
	B&Gアクア教室	成人
	救急法講習会	高校生以上
	B&G会長杯争奪蔵王町民スポーツ交流大会(ドッジボール)	小学3年生～6年生
	B&Gナイターテニス教室	成人
	陸上競技実技講習会	小学5年生～6年生
首長部局	ピンピン教室(介護予防支援事業)	65歳以上の成人

④体育関係団体(在籍人数は平成21年度のものである)

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数
体育協会加盟団体	蔵王町野球協会	大会,学童野球大会等	蔵王町総合運動公園	331名
	蔵王町バレーボール協会	大会参加,支援等	蔵王町B&G海洋センター	382名
	蔵王町卓球クラブ	練習会,大会等	蔵王町B&G海洋センター	18名
	(社)日本空手協会蔵王支部	大会等参加,合宿等	遠刈田小学校	5名
	空手道秀錬会蔵王支部	大会等参加,寒稽古等	自前道場・蔵王町B&G海洋センター	22名
	蔵王町剣道連盟	大会参加,教室等	蔵王町B&G海洋センター	62名
	宮城蔵王スキークラブ	大会参加等	宮城蔵王えぼしスキー場	80名
	蔵王町ソフトボール協会	春季・秋季大会,各種大会参加	蔵王町総合運動公園	174名
	蔵王町ゲートボール協会	春季・秋季大会,各種大会参加	蔵王町総合運動公園	83名
	蔵王町グラウンド・ゴルフ協会	練習会,大会等	蔵王町総合運動公園	105名
スポーツ少年団	蔵王町テニス協会	大会実施及び参加	蔵王町総合運動公園	27名
	蔵王町太極拳学級	練習会等	蔵王町B&G海洋センター	20名
	治政館熊五郎塾(合気道・キックボクシング他)	練習会,合宿,大会参加	蔵王町B&G海洋センター	14名
	永野ホークス(野球)	練習会,各種大会参加	永野小学校	14名
	円田イーグルス(野球)	練習会,各種大会参加	円田小学校	12名
	平沢フェニックス(野球)	練習会,各種大会参加	平沢地区コミュニティグラウンド	18名
	宮ビクトリー(野球)	練習会,各種大会参加	宮小学校	13名
	遠刈田少年野球クラブ	練習会,各種大会参加	遠刈田小学校	15名
	宮ベースボールクラブ	練習会,各種大会参加	宮中学校	20名
	剛柔流空手教室	練習会,各種大会参加	円田小学校	10名
	空手道秀錬会蔵王道場	大会等参加,寒稽古等	自前道場・蔵王町B&G海洋センター	31名
	日本空手協会蔵王支部	大会等参加,合宿等	遠刈田小学校	5名
	蔵王ジュニアバレーボールクラブ女子	練習会,各種大会参加	円田中学校	9名
	蔵王ジュニアバレーボールクラブ男子	練習会,各種大会参加	永野小学校	12名
	宮さつきクラブ(バレーボール)	練習会,各種大会参加	宮小学校	12名
	遠刈田ティディベアーズ(バレーボール)	練習会,各種大会参加	遠刈田小学校	3名
	治政館熊五郎塾(合気道・キックボクシング他)	練習会,合宿,大会参加	蔵王町B&G海洋センター	14名
その他の団体	ダンスエクササイズ愛好会	練習会等	蔵王町B&G海洋センター	
	蔵王町スポーツ推進員	町事業のサポート 参加者の取りまとめ		48名
	蔵王町体育指導員協議会	町内スポーツの振興		9名

2 行政や体育関係団体などが抱えている課題

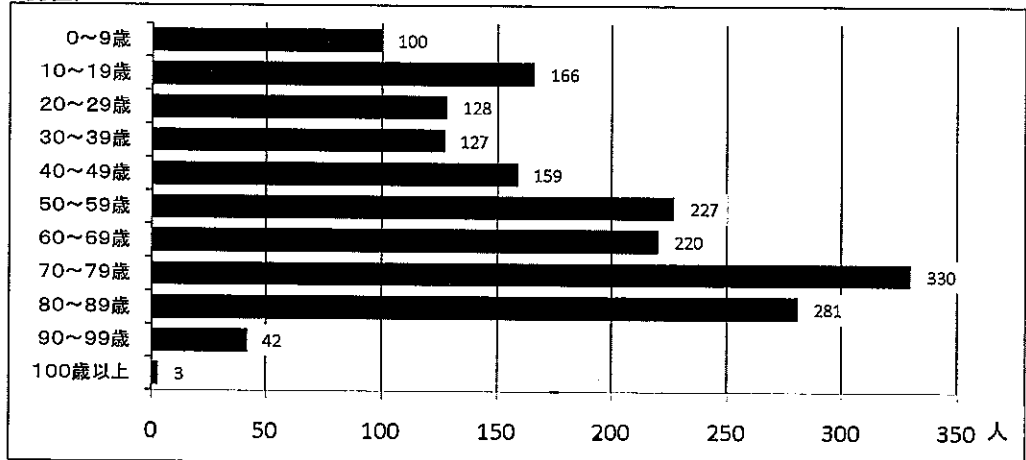
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化に伴う施設整備の問題。 ・子供の体力低下の問題。 ・スポーツ少年団の多忙化と会員の減少の問題。 ・地域のリーダーや指導者の育成の問題。 ・事業への参加について、地域によって参加状況に偏りがあるため、施設が遠い地区への対策が必要ではないか。 ・事業に参加するメンバーが固定化してしまう傾向があるため、したことのない人たちへの募集の仕方や内容の充実等の対策が必要ではないか。 ・教室から自主活動へとなかなか続かないため、活動が継続するためのサポートが必要なのではないか。
--

七ヶ宿町のスポーツの現状と課題

1 現状

①年代別人口(H21.12.31現在)

年齢	人口(人)
0～9歳	100
10～19歳	166
20～29歳	128
30～39歳	127
40～49歳	159
50～59歳	227
60～69歳	220
70～79歳	330
80～89歳	281
90～99歳	42
100歳以上	3
計	1,783



②スポーツ活動が行われている体育施設(目的外使用している学校施設も含む)

種別	名称	所在地区名	施設でできるスポーツ種目	建築年
公共施設	七ヶ宿町民プール	関地区	水泳	S47
	七ヶ宿町民グラウンド	関地区	陸上, 野球, ソフトボール, テニス, グラウンド・ゴルフ	S55
	七ヶ宿公園内グラウンド	矢立地区	野球, ソフトボール, サッカー	H 2
	七ヶ宿公園グラウンド・ゴルフ場	矢立地区	グラウンド・ゴルフ	H16
	南蔵王青少年旅行村	横川地区	野球, ソフトボール, テニス	S43
	みやぎ蔵王七ヶ宿スキー場	峠田地区	スキー, スノーボード	S60
	横川分館(運動室)	横川地区	バレーボール等球技	S59
	滑津分館(運動室)	滑津地区	バレーボール等球技	H 9
	峠田体育館	峠田地区	バレーボール等球技	H 4
	湯原分館(運動室)	湯原地区	バレーボール等球技	H 6
	活性化センター	関地区	バレーボール等球技	H11
	関小学校体育館	関地区	バレーボール等球技	H17
	校庭	関地区	屋外スポーツ全般(主に野球, 陸上)	
	湯原小学校体育館	湯原地区	バレーボール等球技	H18
	校庭	湯原地区	屋外スポーツ全般(主に野球, 陸上)	
	七ヶ宿中学校体育館	関地区	バレーボール等球技	S53
	校庭	関地区	屋外スポーツ全般(主に陸上, テニス)	

③行政で行っているスポーツ教室・大会・イベント

実施主体	事業	主な参加者(対象者)
教育委員会	七ヶ宿雪合戦大会	小学生(町外からも受入)
	空手体験教室	幼児～成人
	ヨガ教室	成人
	町民体育大会	幼児～成人
	みやぎヘルシーふるさとスポーツ祭町内大会	小学生～成人
	ペタンク講習会	小学生～成人
	七ヶ宿町小中学校スキー大会	小中学生
首長部局	七ヶ宿ジャイアントスラローム大会	町内外小学生～一般
	七ヶ宿湖一周ウォーキング	町内外小学生～一般
	スマイルげんき塾	成人

④体育関係団体(在籍人数は平成21年度のものである)

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数
体育協会加盟団体	七ヶ宿スキークラブ	スキー, スノーボード	七ヶ宿スキー場	96名
	七ヶ宿ジュニアスキークラブ	スキー	七ヶ宿スキー場	45名
	七ヶ宿マスターズスキークラブ	スキー	七ヶ宿スキー場	18名
	七ヶ宿グラススキークラブ	グラススキー	七ヶ宿スキー場	32名
	七ヶ宿町バレーボールクラブ	バレーボール	関小学校体育館	11名
	バスケットボールクラブ	バスケットボール	峠田体育館	15名
	七ヶ宿町野球協会(休会中)	野球	七ヶ宿町民グラウンド	
	七ヶ宿町ゲートボール部	ゲートボール	高齢者生活福祉センターゲートボール場	14名
	七ヶ宿グラウンド・ゴルフ協会	グラウンド・ゴルフ	七ヶ宿公園グラウンド・ゴルフ場	61名
その他の団体	七ヶ宿町体育指導委員	地域スポーツの指導	各地域	5名
	七ヶ宿町スポーツ・文化振興会	スポーツ・文化活動の振興	町内	22名
	七ヶ宿町体育協会	スポーツの振興	町内	
	レクダンス愛好会	レクダンス	活性化センター	22名

2 行政や体育関係団体などが抱えている課題

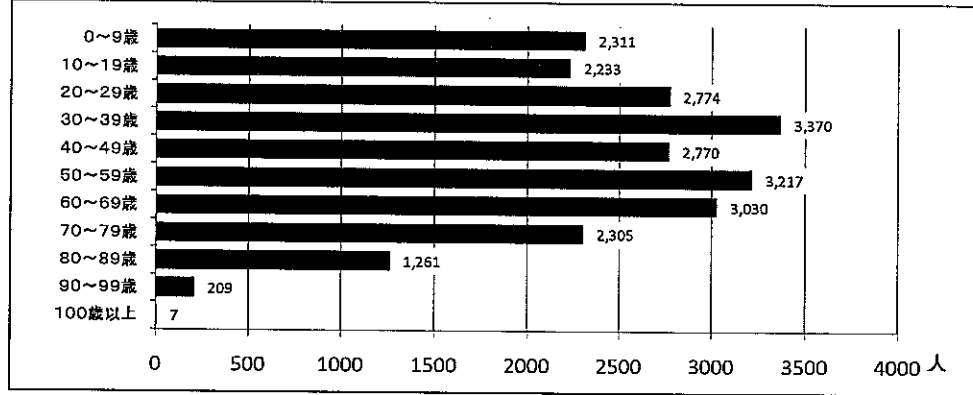
- ・多様化する住民ニーズの把握と既存事業の見直し
- ・スポーツ関係団体構成員の底辺拡大と無理のない体制づくり
- ・子供の体力低下
- ・講座教室に参加するメンバーの固定化
- ・講座から自主サークル的な活動への移行とリーダーやお世話役の育成
- ・総合型スポーツクラブについての研究と起ち上げへの検討

大河原町のスポーツの現状と課題

1 現状

①年代別人口(H21.12.31現在)

年齢	人口(人)
0～9歳	2,311
10～19歳	2,233
20～29歳	2,774
30～39歳	3,370
40～49歳	2,770
50～59歳	3,217
60～69歳	3,030
70～79歳	2,305
80～89歳	1,261
90～99歳	209
100歳以上	7
計	23,487



②スポーツ活動が行われている体育施設(目的外使用している学校施設も含む)

種別	名称	所在地区名	施設でできるスポーツ種目	建築年
公共施設	大河原町総合体育館	小島地区	バレーボール・バドミントン・ソフトテニス・卓球・柔道・剣道・空手・トレーニングジム 他	H 6
	大河原公園 町営テニスコート	丑越地区	テニス	H 8
	大河原公園多目的広場	"	野球・サッカー・ソフトボール・ゲートボール・グラウンドゴルフ 等	H 8
	町営東桜ゲートボールコート	荒川河川敷	ゲートボール	
	金ヶ瀬公民館	金ヶ瀬地区	ゲートボール	
	大河原中学校 校庭	新田町地区	野球・サッカー・ソフトボール・陸上 他	
	" 体育館(桜武館)	"	バスケットボール・バドミントン・バレーボール・卓球 等 各武道(武道館)	S37
	金ヶ瀬中学校 校庭	金ヶ瀬地区	野球・サッカー・ソフトボール 等	
	" 体育館	"	バスケットボール・バドミントン・バレーボール・卓球 等	S39
	大河原小学校 校庭	新田町地区	野球・ソフトボール	
	" 体育館	"	バレーボール・バドミントン・等	S51
	大河原南小学校校庭	原前地区	野球・ゲートボール・ソフトボール・サッカー	
	" 体育館	"	バスケットボール・バレーボール 等	S57
金ヶ瀬小学校 校庭	金ヶ瀬地区	野球・サッカー		
" 体育館	"	ミニバス・剣道・バレーボール・綱引き	S60	
民間施設	雄飛館大野道場	原前地区	剣道	
	ボウルジャンボフォルテ	小島地区	ボーリング	
	セレンジェイラ柔術大河原本部道場	錦町地区	柔術・ボクササイズ	
	(株)ピュアスポーツ仙南スイミング	本町地区	水泳	S61

③行政で行っているスポーツ教室・大会・イベント

実施主体	事業名	参加者(対象者)
教育委員会	夏休み少年少女スポーツ大会	町内小学生男女
	スポーツ少年団交流大会	町内小学生男女
	ジュニア陸上教室	町内外小中学生
	少年野球大会	町内小学生男女
	健康水中運動教室	一般町民
	ゲートボール大会	町内の高齢者
	硬式テニス教室	一般町民
	バドミントン教室	一般町民
	ノルディックウォーキング教室	一般町民
	歩こう会	一般町民
	ソフトボール大会	一般町民
	野球大会	一般町民
	バレーボール大会	一般町民
	ソフトテニス大会	一般町民
	卓球大会	中学生以上の一般町民
	グランドゴルフ大会	中学生以上の一般町民
	クロスカントリー大会	町内外からの幼児～一般
	バウンドテニス大会	一般町民
	ソフトバレーボール大会	一般町民
	バドミントン大会	中学生以上の一般町民
	ビニールボール大会	一般町民
	金ヶ瀬地区バレーボール大会	一般町民
	町民レクリエーション大会	町内小学生以上と一般町民
幼児スポーツ教室	町内3～4歳児とその保護者	

④体育関係団体(在籍人数は平成21年度のものである)

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数	
体育協会加盟団体	陸上競技会	会大会等 ジュニア陸上	角田市陸上競技場	38名	
	野球協会	野球大会(春・秋)等	多目的グラウンド・学校校庭	139名	
	バレーボール協会	各大会等	総合体育館・学校体育館	72名	
	バドミントン協会	町民バドミントン大会等	総合体育館・学校体育館	31名	
	柔道協会	各大会等	総合体育館・桜武館	14名	
	剣道協会	各大会等	総合体育館・桜武館・大野道場	29名	
	バスケットボール協会	柴田郡三町バスケットボール大会等	総合体育館・学校体育館	7名	
	卓球協会	町民卓球大会等	総合体育館	46名	
	水泳協会	各大会等	ピュアスポーツ	17名	
	ソフトテニス協会	各大会等	大河原公園 町営テニスコート	44名	
	空手道連盟 剛柔会	各選手権大会等	総合体育館・桜武館	7名	
	空手道連盟 秀練会	各選手権大会等	総合体育館・桜武館	45名	
	ソフトボール協会	ソフトボール大会(春・夏)等	多目的グラウンド・学校校庭	490名	
	サッカー協会	各大会等	多目的グラウンド・学校校庭	64名	
	硬式テニス協会	各大会等	大河原公園 町営テニスコート	57名	
	ゲートボール協会	ゲートボール大会(春・夏・秋)等	町営東桜ゲートボールコート・町内各ゲートボール場	79名	
	ビニールボール協会	春季ビニールボール大会等	総合体育館・学校体育館	241名	
	グラウンドゴルフ協会	町民グラウンド・ゴルフ大会等	大河原公園 多目的広場	73名	
	バウンドテニス協会	町民バウンドテニス大会等	総合体育館	11名	
	ボーリング協会	町長杯・体協杯 ボーリング大会等	ジャンボフォルテ	50名	
	綱引き協会	T-1Grand Prix 綱引き大会等	総合体育館	30名	
	ターゲットパードゴルフ協会	講習会等	総合体育館脇公園	14名	
	セレジェイラ柔術	各大会等	大河原本部道場・総合体育館	52名	
	スポーツ少年団	金ヶ瀬	少年野球 各大会等	各学校校庭	11名
		大河原スカイホークス	野球 各大会等	各学校校庭	15名
		大河原南サザンクロス	野球 各大会等	各学校校庭	26名
大河原シグナス少年野球		野球 各大会等	各学校校庭	26名	
桜ウイングス		野球 各大会等	各学校校庭	32名	
大河原中学校		野球 各大会等	各学校校庭	26名	
大河原ミニバスケットクラブ		ミニバスケットボール 各大会等	各学校体育館	34名	
大河原籠球ミニ		ミニバスケットボール 各大会等	各学校体育館	30名	
大河原ジュニア		バスケットボール 各大会等	金ヶ瀬中学校体育館	16名	
大河原柔道		柔道 各大会等	各道場	26名	
全空連剛柔会永澤道場		空手道 各大会等	各道場	31名	
大河原津田道場空手道		空手道 各大会等	各道場	21名	
JGKA大河原		空手道 各大会等	各道場	16名	
大河原町空手道協会秀練会		空手道 各大会等	各道場	30名	
大河原サッカー		サッカー 各大会等	各学校校庭	38名	
大河原ジュニアシャトラーズ		バドミントン 各大会等	各学校体育館	13名	
大河原少年剣道		剣道 各大会等	総合体育館武道場	10名	
大河原町スイミング		水泳 各大会等	柴田高等学校	19名	
その他の団体	BSラバーズ	バスケットボール 各大会等	各学校体育館		
	大河原町体育指導委員会	町民スポーツの振興等	総合体育館	10名	
	大河原町体育協会	町民スポーツの振興等	総合体育館	38名	
	大河原町スポーツ少年団本部	青少年の心身の健全育成	総合体育館	19名	
	地区体育指導協力員	行政地区のスポーツ振興	各地区	57名	

2 行政や体育関係団体などが抱えている課題

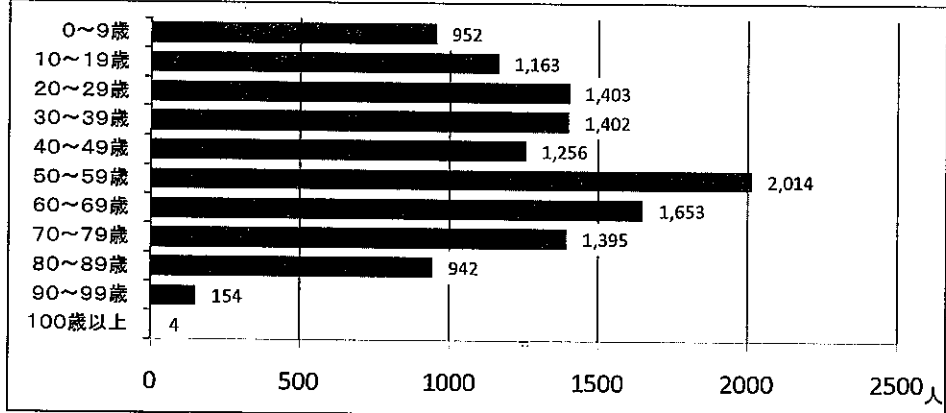
- ① 総合体育館の管理が指定管理者(NPO)になったことで、町のスポーツ振興係が離れた庁舎に移転し、そのために各町内体育施設の貸し出し手続きや、各種協議事項が合理的に業務が進まないことがある。
- ② 総合型地域スポーツクラブの設立を求める声があがっているが、体育協会が充実している以上、クラブを設立する必要性とメリットが感じられないという認識が各体育関係団体等にはある。

村田町のスポーツの現状と課題

1 現状

①年代別人口(H21.12.31現在)

年齢	人口(人)
0～9歳	952
10～19歳	1,163
20～29歳	1,403
30～39歳	1,402
40～49歳	1,256
50～59歳	2,014
60～69歳	1,653
70～79歳	1,395
80～89歳	942
90～99歳	154
100歳以上	4
計	12,338



②スポーツ活動が行われている体育施設(目的外使用している学校施設も含む)

種別	名称	所在地区	施設でできるスポーツ種目	建築年
公共施設	村田町民体育館	村田地区	バレー, バスケット, バドミントン, 室内テニス, 卓球, 武道など	S53
	塩内公園・塩内グラウンド	村田地区	サッカー, ペタンク, 野球, ソフトボール, グラウンドゴルフ	S51
	北沢公園グラウンド	村田地区	ソフトボール, 野球	S62
	北沢公園テニスコート	村田地区	テニス	H元
	相山公園グラウンド	村田地区	野球, ソフトボール, サッカー	S33
	村田町常設ゲートボール場	村田地区	ゲートボール	S57
	沼辺地区公民館	沼辺地区	バレーボール, 空手道	S53
	菅生地区公民館	菅生地区	バレーボール	S54
	小泉地区公民館	小泉地区	バレーボール	S49
	西足立地区公民館	足立地区	バレーボール	S51
	東足立地区公民館	足立地区	バレーボール	S55
	姥ヶ懐地区公民館	小泉地区	バレーボール	S63
	村田第一小学校体育館	村田地区	バレーボール, ミニバスケットボール, バドミントン	S45
	" 校庭	村田地区	野球, サッカー(いずれも小学生向け)	
	村田第二小学校体育館	沼辺地区	バレーボール, ミニバスケットボール, バドミントン	H 7
	" 校庭	沼辺地区	野球, サッカー(いずれも小学生向け)	
	村田第三小学校体育館	小泉地区	バレーボール, ミニバスケットボール, バドミントン	H16
	" 校庭	小泉地区	野球, サッカー(いずれも小学生向け)	
	村田第四小学校体育館	菅生地区	バレーボール, ミニバスケットボール, バドミントン	S37
	" 校庭	菅生地区	野球, サッカー(いずれも小学生向け)	
	村田第五小学校体育館	足立地区	バレーボール, ミニバスケットボール, バドミントン	S49
	" 校庭	足立地区	野球, サッカー(いずれも小学生向け)	
	村田第一中学校体育館・武道場	村田地区	バレーボール, バスケットボール, バドミントン, 卓球, 柔道, 剣道	S59
村田第二中学校体育館	沼辺地区	バレーボール, バスケットボール, バドミントン, 卓球	S61	
" 校庭	沼辺地区	野球, サッカー, ソフトボール		
民間施設	村田町野外活動センター	足立地区	テニス	
	スポーツランドSUGO	菅生地区	テニス	
	株式会社仙台南ゴルフ倶楽部	沼辺地区	ゴルフ	
	アミューズメントパークSAM-1(サム・ワン)	沼辺地区	バッティングセンター, 卓球, ビリヤード	

③行政で行っているスポーツ教室・大会・イベント

実施主体	事業	主な参加者(対象者)
教育委員会	町ゲートボール大会	町内ゲートボール愛好者
	町グラウンドゴルフ大会(兼管内ヘルシー大会予選会)	町内グラウンドゴルフ愛好者等
	町ヘルシースポーツ大会(ソフトボール, 家庭バレーボール, ペタンク)	町民
	町ミニバスケットボール交流大会	町内ミニバスケットチーム
	町少年野球大会	町内少年野球スポーツ少年団
	大人のための体育講座(計2回)	町内在住・在勤の成人・高齢者
	ニュースポーツ講習会(計2回)	PTA, 児童, スポーツ少年団
	町ノルディックウォーキング大会	町民
	町ニュースポーツ交流大会	児童, スポーツ少年団員
	首長部局	ノルディックウォーキング講座(計3回)

④体育関係団体(在籍人数は平成21年度のものである)

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数
体育協会加盟団体	村田町野球協会	町内大会(春秋), 三町交流大会	塩内公園グラウンド等	
	村田町柔道協会	大会参加等	村田第一中学校武道場等	14名
	村田町剣道協会	大会参加, 昇段試験実施等	村田町民体育館等	
	村田町射撃協会	射撃大会(仙南, 柴田支部, 町内)	県クレール射撃場等	
	村田町バレーボール協会	仙南地区大会, ジュニア育成事業	村田町民体育館等	50名
	村田町卓球協会	ジュニア育成指導, 大会参加等	村田町民体育館等	
	村田町ソフトボール協会	大会参加, ジュニア育成指導等	各所	
	村田町バスケットボール協会	町内大会(年2回), ミニバス交流大会	村田町民体育館等	46名
	村田町陸上競技協会	各種大会への後援, 参加	各所	9名
	村田町バドミントン協会	中・高校生の指導, 大会参加	村田町民体育館等	8名
	村田町ゲートボール協会	町内大会・大河原支部大会(春秋), 町・管内ヘルシー大会等	町常設ゲートボール場等	62名
	村田町空手道協会	町内スポ少大会, 昇段審査会, 県大会等参加, 寒げい古	村田町民体育館等	13名
	村田町スポーツ少年団本部	少年野球大会, ミニバスケットボール大会, 加盟団指導等	各所	
	村田町ビニールボール協会	町内大会(年4回), 三町交流大会・県大会参加, 町・管内ヘルシー大会等	村田町民体育館等	180名
村田町グラウンドゴルフ協会	町・管内ヘルシー大会, 定例大会実施(年15回), 仙南・県・東北・全国大会参加	塩内公園グラウンド等	67名	
スポーツ少年団	上町少年野球	大会参加(21回), 練習試合, レクリエーション等	村田第一小学校校庭, 塩内グラウンド等	19名
	沼辺少年野球	大会参加, 練習試合, レクリエーション等	村田第二小学校校庭等	19名
	小泉少年野球	大会参加(16回), 練習試合, レクリエーション等	村田第三小学校校庭等	25名
	村田ミニバスケットボール	交流試合, 大会参加, 夏キャンプ等	村田町民体育館等	16名
	沼辺バスケットクラブ	大会参加, 練習試合, レクリエーション等	村田第二小学校体育館等	31名
	小泉ミニバスケットボール	大会参加(6回), レクリエーション等	村田第三小学校体育館等	16名
	村田町サッカー	大会参加(12回), レクリエーション等	塩内公園, 村田第一小学校校庭等	24名
	村田町バレーボール	親子紅白試合, レクリエーション, 交流試合, 合同練習会等	村田町民体育館等	18名
	村田町空手道	大会参加, 寒げい古, レクリエーション等	村田町民体育館, 沼辺地区公民館等	20名
	村田町柔道	大会参加, 寒げい古, レクリエーション等	村田第一中学校武道場等	26名
	村田町剣道	各種大会参加(8名), 昇段審査会, 夏期合宿等	村田町民体育館等	22名
	村田町卓球	各種大会参加(2回), ニュースポーツ等	村田町民体育館等	28名
	菅生	少年野球, ミニバスケットボール, ペタンク, レクリエーション等	村田第四小学校校庭・体育館等	29名
	足立	地域の祭り参加, 町事業参加, ニュースポーツ, ソフトボール, ミニバスケットボール等	村田第五小学校校庭・体育館等	15名
その他の団体	村田町体育指導委員会	町ヘルシー大会実施, 会議開催(年5回程度), 町ニュースポーツ大会実施等	各所	15名
	村田町スポーツ振興協会	全国大会参加者等への資金援助・表彰事業等		156名
	村田町体育協会	ジュニア育成事業等		

2 行政や体育関係団体などが抱えている課題

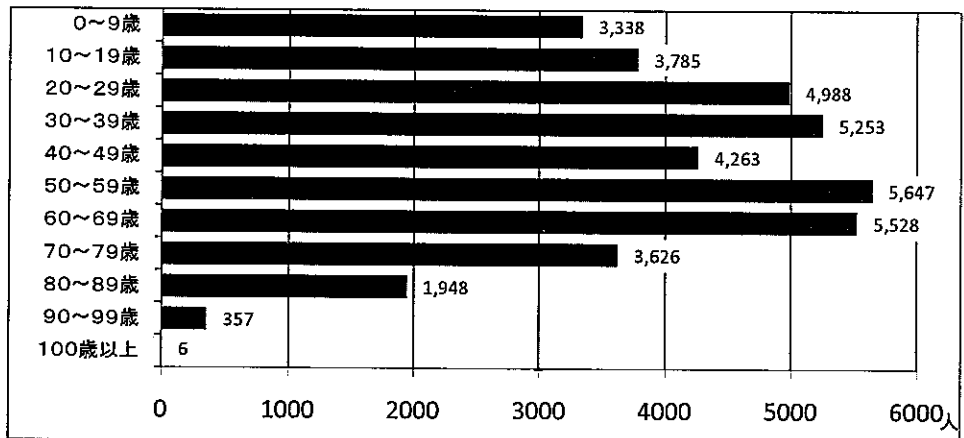
<p>※○=行政側の課題 ●=体育関係団体側の課題</p> <p>○施設の老朽化, 人手不足(管理人の不在, 担当職員の不足等), 予算不足による施設・備品等の整備の遅れ</p> <p>○体育協会, スポーツ少年団本部等, 外部団体事務局の移管問題</p> <p>○学校体育施設の体育目的開放に関する問題(小学校統合も含め)</p> <p>●役員や指導者等, 後継者不足の問題, 練習場所の確保の問題</p>
--

柴田町のスポーツの現状と課題

1 現状

①年代別人口(H21.12.31現在)

年齢	人口(人)
0～9歳	3,338
10～19歳	3,785
20～29歳	4,988
30～39歳	5,253
40～49歳	4,263
50～59歳	5,647
60～69歳	5,528
70～79歳	3,626
80～89歳	1,948
90～99歳	357
100歳以上	6
計	38,739



②スポーツ活動が行われている体育施設(目的外使用している学校施設も含む)

種別	名称	所在地区名	施設でできるスポーツ種目	建築年
公共施設	柴田町民体育館	船岡地区	室内スポーツ競技全般(バスケットボールを除く)	S45
	船岡体育館	"	室内スポーツ競技全般	S56
	槻木体育館	槻木地区	室内スポーツ競技全般	S56
	柴田町総合運動場	東船岡地区	屋外スポーツ全般(主にサッカー、野球、ソフトボール、ラグビー、グラウンド・ゴルフ、ゲートボール)	S61
	並松運動場	船岡地区	屋外スポーツ全般(主に野球、ソフトボール)	H元
	阿武隈川運動場	槻木地区	屋外スポーツ全般(主にサッカー、野球、ソフトボール、グラウンド・ゴルフ)	H元
	柴田町生涯教育総合運動場	柴田小地区	屋外スポーツ全般(主にサッカー、野球、ソフトボール、ラグビー、グラウンド・ゴルフ、ゲートボール)	S58
	箱山テニスコート	船岡地区	テニス	H11
	入間田テニスコート	柴田小地区	テニス	H20
	葛岡山テニスコート	槻木地区	テニス	H 4
	船岡小学校体育館	船岡地区	室内スポーツ競技全般(バドミントンを除く)	H 4
	" 校庭	"	屋外スポーツ全般(主に野球、ソフトボール)	
	東船岡小学校体育館	東船岡地区	室内スポーツ競技全般	S63
	" 校庭	"	屋外スポーツ全般(主に野球、ソフトボール)	
	船迫小学校体育館	船迫地区	室内スポーツ競技全般(バドミントンを除く)	S57
	" 校庭	"	屋外スポーツ全般(主に野球、ソフトボール、サッカー)	
	槻木小学校体育館	槻木地区	室内スポーツ競技全般	S51 (H14～15 改築)
	" 校庭	"	屋外スポーツ全般(主に野球、ソフトボール)	
	西住小学校体育館	西住地区	室内スポーツ競技全般	S59
	" 校庭	"	屋外スポーツ全般(主に野球、ソフトボール)	
	柴田小学校体育館	柴田小地区	室内スポーツ競技全般	H 3
	" 校庭	"	屋外スポーツ全般(主に野球、ソフトボール)	
	槻木中学校体育館	槻木地区	室内スポーツ競技全般	H 3
	" 校庭	"	屋外スポーツ全般(主に野球、ソフトボール)	
	" 武道館	"	武道(柔道、剣道など)	S61
	船岡中学校体育館	船岡地区	室内スポーツ競技全般	S46
	" 校庭	"	屋外スポーツ全般(主に野球、ソフトボール)	
	" 武道館	"	武道(柔道、剣道など)	S60
	船迫中学校体育館	船迫地区	室内スポーツ競技全般	S62
	" 校庭	"	屋外スポーツ全般(主に野球、ソフトボール)	
	" 武道館	"	武道(柔道、剣道など)	H元
	船岡生涯学習センター	東船岡地区	卓球、バトントラリング、空手、ソフトバレーボール	H 9
船迫生涯学習センター	船迫地区	卓球、バドミントン、空手、バウンドテニス、サウンドテーブルテニス、ビニールボール	S59	
農村環境改善センター	柴田小地区	ビニールボール、バドミントン、卓球	S58	

種別	名称	所在地区名	施設でできるスポーツ種目	建築年
公共施設	仙南総合プール	船迫地区	水泳, 水球	H14
	陸上自衛隊船岡駐屯地グラウンド	船岡地区	屋外スポーツ全般	
	陸上自衛隊船岡駐屯地体育館	〃	室内スポーツ競技全般	H 3
民間施設	リコー会館	東船岡地区	室内スポーツ競技全般	S63
	仙台大学 第一グラウンド	船岡地区	陸上競技	S42
	〃 船岡南グラウンド	〃	人工芝サッカー・ラグビー場, 屋内多目的運動場, 投球練習場, 屋外多目的グラウンド, トレーニング用砂走路	H16
	〃 室内プール	〃	水泳, 水球	S57
	〃 第1体育館	〃	室内スポーツ競技全般	S42
	〃 第2体育館	〃	室内スポーツ競技全般	S54
	〃 第3体育館	〃	室内スポーツ競技全般	H元
	〃 第4体育館	〃	室内スポーツ競技全般	H18
	表蔵王国際ゴルフクラブ	船迫地区	ゴルフ	S40
船迫ゴルフガーデン	〃	ゴルフ練習場	S58	

③行政で行っているスポーツ教室・大会・イベント

実施主体	事業	主な参加者(対象者)
教育委員会	水中トレーニング教室	一般町民
	体力づくり教室	一般町民
	テニス教室	一般町民
	スポーツ賞表彰式	一般町民
	柴田さくらウォーキング(体育協会主催, 町共催)	一般町民
	みやぎヘルシー大会予選会(体育協会主催, 町共催)	一般町民
首長部局	ノルディック・ウォーキング体験会(介護予防普及事業)	概ね65歳以上の町民
	歩く基本を学ぶ講習会(介護予防普及事業)	概ね65歳以上の町民
	玄米ダンベル体操体験講座(介護予防普及事業)	概ね65歳以上の町民
	メタボ快消教室(仙台大学との連携事業)	40歳から74歳までの町民
	今日から始める女性のための健康教室(仙台大学との連携事業)	40歳から74歳までの町民

④体育関係団体(在籍人数は平成21年度のものである)

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数
体育協会加盟団体	柴田町ソフトボール協会	ソフトボール協会リーグ戦(春・秋) 町民ソフトボール大会(ヘルシー予選会)	各運動場, 各小中学校	570名
	柴田町バレーボール協会	柴田町8人制・9人制バレーボール大会, 審判講習会	船岡体育館 他	226名
	柴田町バドミントン協会	町民バドミントン大会, 柴田町バドミントン協会長杯	船岡体育館 他	118名
	柴田町卓球協会	町民ラージボール卓球大会(ヘルシー予選会), 柴田町オープン卓球大会	町民体育館, 船岡体育館	65名
	柴田町ゲートボール協会	町民ゲートボール大会(ヘルシー予選会), 老人クラブ・ゲートボール協会共催大会	総合運動場, 各地区運動広場	86名
	柴田町バスケットボール協会	柴田町バスケットボール大会, 柴田町ジュニアバスケットボール大会	槻木体育館 他	136名
	柴田町ビニールボール協会	町民ビニールボール大会(ヘルシー予選会), 春季・秋季大会, レディース大会	船岡体育館 他	141名
	柴田町グラウンド・ゴルフ協会	町民グラウンド・ゴルフ大会(ヘルシー予選会) 柴田町グラウンド・ゴルフ協会長杯	総合運動場, 阿武隈川運動場 他	250名
	柴田町空手道連盟	和道会宮城県本部選手合同練習会	各中学校武道館 他	25名

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数
体育協会加盟団体	柴田町陸上競技協会	全国小学生陸上競技交流大会柴田郡予選会, 仙南ジュニア陸上競技選手権大会	県内陸上競技大会場(審判等)	34名
	柴田町ラグビー協会	スポーツフェスティバルin柴田「タグ・ラグビー交流会」	総合運動場	40名
	柴田町水泳協会	初心者水泳教室	仙南総合プール	6名
	柴田町柔道協会	柔道技術講習会 柴田郡柔道大会	仙台大学	11名
	柴田町仙南銃剣道支部	仙南支部銃剣道大会	船岡体育館 他	68名
	柴田町ボブスレー協会	ボブスレー協会会員研修会	仙台大学	12名
	柴田町山岳協会	三森山登山, 会津駒ヶ岳登山 他	東北地区登山	76名
	柴田町剣道協会	剣道	各中学校武道館 他	23名
スポーツ少年団	船迫小フェザンツ	軟式野球	船迫小学校	19名
	船小イーグルス	軟式野球	東船岡小学校	28名
	柴田ガルソン野球	軟式野球	船岡小学校	24名
	槻木スピリッツ野球	軟式野球	槻木小学校	33名
	東部ディアーズ	軟式野球	西住小学校	32名
	槻木中学野球	軟式野球	槻木中学校	18名
	船岡中	軟式野球	船岡中学校	29名
	船迫中野球	軟式野球	船迫中学校	23名
	槻木FC	サッカー	槻木小学校, 柴田小学校, 阿武隈川運動場, 生涯教育総合運動場	38名
	船迫FC	サッカー	船迫小学校	27名
	FC.FRESCA	サッカー	総合運動場, 阿武隈川運動場	14名
	船迫チェリーズバレーボール	バレーボール	船迫小学校	17名
	柴田サニーズ	バレーボール	槻木小学校	16名
	船岡ホワイトサンダーズ	バレーボール	船岡小学校	19名
	さくらミニバスケットクラブ	バスケットボール	船岡小学校, 東船岡小学校	36名
	槻木バスケットボール	バスケットボール	槻木小学校	27名
	FBC(船岡バスケットクラブ)	バスケットボール	船岡中学校	32名
	柴田町ラグビースクール	ラグビー	総合運動場	19名
	にしずみ	バドミントン	西住小学校	19名
	槻木S.C	バドミントン	槻木小学校	18名
	柴田町硬式空手道	空手	下名生集会所	16名
	柴田町空手道	空手	船岡中学校	44名
	JGKA柴田	空手	船迫中学校	10名
	槻木空手道	空手	槻木体育館	29名
秀練会拳聖空手船迫	空手	船迫中学校	34名	
柴田少年剣友会	剣道	船岡中学校	18名	
柴田町柔道	柔道	仙台大学	17名	
その他の団体	柴田町体育指導委員	地域スポーツの指導	各地域	10名
	柴田町スポーツ振興審議会	柴田町スポーツ賞推薦審議, 柴田町スポーツ施策など	船岡公民館	7名
	柴田町体育協会	総会, 役員会	船岡公民館	
	柴田町スポーツ少年団本部	交流会	総合運動場	

2 行政や体育関係団体などが抱えている課題

行政: 運動場施設(総合運動場, 並松運動場, 阿武隈川運動場)及び各体育館(町民, 船岡, 槻木)の老朽化に伴う施設整備(雨漏り修繕, ナイター設備, などなど)

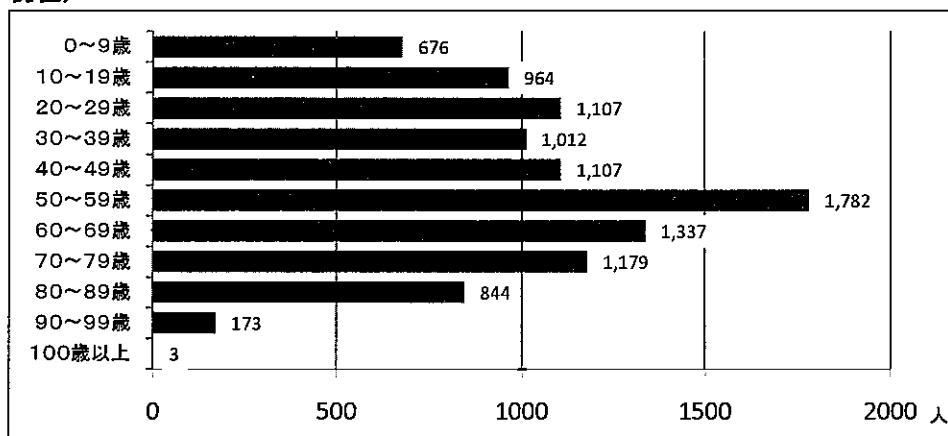
体育関係団体: 最近, 新しいサークル団体(特に仙台大学のサークル)が次から次と設置され, 各々町内の体育施設を使用するため, 日程調整に苦慮している部分が見受けられる。

川崎町のスポーツの現状と課題

1 現状

①年代別人口(H21.12.31現在)

年齢	人口(人)
0～9歳	676
10～19歳	964
20～29歳	1,107
30～39歳	1,012
40～49歳	1,107
50～59歳	1,782
60～69歳	1,337
70～79歳	1,179
80～89歳	844
90～99歳	173
100歳以上	3
計	10,184



②スポーツ活動が行われている体育施設(目的外使用している学校施設も含む)

種別	名称	所在地区名	施設でできるスポーツ種目	建築年
公立施設	川崎町B&G海洋センター	川内地区	水泳, バレーボール, バスケットボール, 剣道, 柔道等	S58
	川崎町総合運動場	川内地区	野球, サッカー, ゲートボール, グラウンド・ゴルフ等	
	川崎小学校体育館	前川地区	バレーボール, バスケットボール等	H18
	〃 校庭	前川地区	野球, ソフトボール, サッカー等	
	川崎第二小学校体育館	今宿地区	バレーボール, バスケットボール等	H 3
	〃 校庭	今宿地区	野球, ソフトボール, サッカー等	
	川内小学校体育館	川内地区	バレーボール, バスケットボール等	H 5
	〃 校庭	川内地区	野球, ソフトボール, サッカー等	
	本砂金小学校体育館	本砂金地区	バレーボール, バスケットボール等	H元
	〃 校庭	本砂金地区	野球, ソフトボール, サッカー等	
	支倉小学校体育館	支倉地区	バレーボール, バスケットボール等	H 6
	〃 校庭	支倉地区	野球, ソフトボール, サッカー等	
	碁石小学校体育館	支倉地区	バレーボール, バスケットボール等	H 6
	〃 校庭	支倉地区	野球, ソフトボール, サッカー等	
	前川小学校体育館	前川地区	バレーボール, バスケットボール等	H元
	〃 校庭	前川地区	野球, ソフトボール, サッカー等	
	前川小学校青根分校体育館	前川地区	バレーボール, バスケットボール等	S62
	〃 校庭	前川地区	野球, ソフトボール, サッカー等	
	川崎中学校体育館	前川地区	バレーボール, バスケットボール等	H17
	〃 校庭	前川地区	野球, ソフトボール, サッカー等	
	富岡中学校体育館	支倉地区	バレーボール, バスケットボール等	H 3
	〃 校庭	支倉地区	野球, ソフトボール, サッカー等	
音無山村広場	支倉地区	野球, ソフトボール等		
城山公園ゲートボール場	前川地区	ゲートボール		
やすらぎの郷ゲートボール場	前川地区	ゲートボール		
民間施設	セントメリースキー場	今宿地区	スキー・スノーボード	
	東蔵王ゴルフ倶楽部	川内地区	ゴルフ	
	杜の公園ゴルフクラブ	支倉地区	ゴルフ	
	マグノリアカントリーゴルフクラブ	本砂金地区	ゴルフ	

③行政で行っているスポーツ教室・大会・イベント

実施主体	事業	主な参加者(対象者)
教育委員会	幼児スポーツ教室	幼児
	スイミング教室(A・B・C)	小学1年生～4年生
	女性いきいき健康教室	女性一般
	町民スキー教室(I・II・III)	幼児・小学生・町民
	親子バレーボール大会	小学生親子
	小学生キックベースボール大会	小学生
	ドッジボール大会	小学生
	少年武道[剣道・柔道]大会	小・中学生
	高齢者地区ゲートボール大会	60歳以上
	町民水泳大会	町民
	ウォークラン大会	町民

④体育関係団体(在籍人数は平成21年度のものである)

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数
体育協会加盟団体	川崎町少林寺拳法	少林寺拳法	川崎町B&G海洋センター	10名
	川崎町体協バドミントン	バドミントン	川崎町B&G海洋センター	33名
	川崎町柔道協会	柔道	川崎町B&G海洋センター	26名
	川崎町ゲートボール協会	ゲートボール	川崎町B&G海洋センター	122名
	川崎町ソフトボール協会	ソフトボール	川崎町総合運動場	200名
	川崎町スキークラブ	スキー	セントメリースキー場ほか	40名
	川崎町バレーボール協会	バレーボール	川崎町B&G海洋センター	110名
	川崎町野球連盟	野球	川崎町総合運動場	123名
	川崎町剣道協会	剣道	川崎町B&G海洋センター	38名
	川崎町卓球協会	卓球	川崎町B&G海洋センター	25名
	川崎フットボールクラブ	フットボール	川崎町総合運動場	15名
	川崎町グラウンド・ゴルフ協会	グラウンド・ゴルフ	川崎町総合運動場	81名
	スポーツ少年団	今宿ヤング・ジャイアンツ	野球	川崎第二小学校グラウンド
川崎館山バッファローズ		野球	川崎小学校グラウンド	19名
支倉スポーツ少年団		野球	支倉小学校グラウンド	10名
川崎小バレーボール		バレーボール	川崎町B&G海洋センター	14名
川崎町少年剣道		剣道	川崎町B&G海洋センター	15名
川崎町少年柔道		柔道	川崎町B&G海洋センター	24名
川崎町空手道		空手道	川崎町B&G海洋センター	8名
碁石バドミントン		バドミントン	富岡中学校体育館	30名
碁石スポーツ少年団		野球	碁石小学校グラウンド	10名
その他の団体	川崎町体育協会			
	川崎町スポーツ少年団本部			
	川崎町体育指導委員会			
	川崎町社会体育推進員			

2 行政や体育関係団体などが抱えている課題

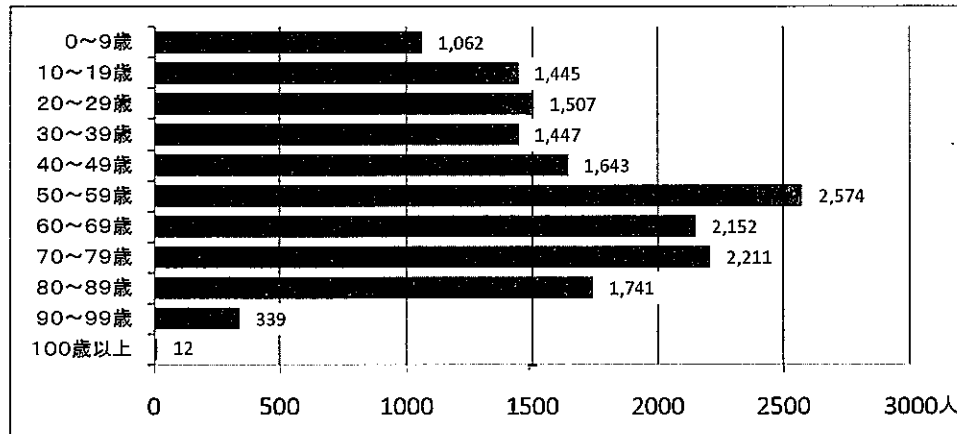
各体育団体、会員の高齢化が進んでいる。一方、若い世代のスポーツ離れが進んできており、少子化も加わって、将来的に、組織力の低下や維持・継続が困難になってくることが懸念される。

丸森町のスポーツの現状と課題

1 現状

①年代別人口(H21.12.31現在)

年齢	人口(人)
0～9歳	1,062
10～19歳	1,445
20～29歳	1,507
30～39歳	1,447
40～49歳	1,643
50～59歳	2,574
60～69歳	2,152
70～79歳	2,211
80～89歳	1,741
90～99歳	339
100歳以上	12
計	16,133



②スポーツ活動が行われている体育施設(目的外使用している学校施設も含む)

種別	名称	所在地区名	施設でできるスポーツ種目	建築年
公共施設	丸森町民体育館	丸森地区	バスケットボール, バレーボール, 卓球ほか	S51
	町民広場	丸森地区	野球, ソフトボール, グラウンドゴルフほか	S53
	丸館中学校体育館	丸森地区	バスケットボール, バレーボール, 卓球ほか	H11
	校庭	丸森地区	野球, ソフトボール, サッカーほか	
	武道館	丸森地区	空手, 剣道	
	筆甫山村広場	筆甫地区	野球, ゲートボールほか	S61
	川平スポーツ交流センター	筆甫地区	バレーボール, バドミントンほか	H6
	大内山村広場	大内地区	野球, テニス, ゲートボール, グラウンドゴルフほか	S60
	大耕農村広場	大張地区	野球, ゲートボール, グラウンドゴルフほか	S63
	丸森町野外ホール	丸森地区	ゲートボール	H 3
	丸森小学校体育館	丸森地区	バスケットボール, バレーボール, 卓球ほか	S56
	金山小学校体育館	金山地区	バスケットボール, バレーボール, 卓球ほか	S44
	校庭	金山地区	ニュースポーツほか	
	筆甫小学校体育館	筆甫地区	バスケットボール, バレーボール, 卓球ほか	H 5
	筆甫中学校校庭	筆甫地区	ゲートボール	
	大内小学校体育館	大内地区	バスケットボール, バレーボール, 卓球, 剣道ほか	S62
	小斎小学校体育館	小斎地区	バスケットボール, バレーボール, 卓球ほか	S32
	校庭	小斎地区	野球ほか	
	館矢間小学校体育館	館矢間地区	バスケットボール, バレーボール, 卓球ほか	S49
	校庭	館矢間地区	野球, ニュースポーツほか	
大張小学校体育館	大張地区	バスケットボール, バレーボール, 卓球ほか	S44	
耕野小学校体育館	耕野地区	バスケットボール, バレーボール, 卓球ほか	S47	
校庭	耕野地区	野球, グラウンドゴルフほか		
民間施設	天明カントリークラブ	大内地区	ゴルフ	

③行政で行っているスポーツ教室・大会・イベント

実施主体	事業	主な参加者(対象者)
教育委員会	丸森ウォークラリー大会	一般町民

④体育関係団体(在籍人数は平成21年度のものである)

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数
体育協会加盟団体	丸森町体育協会	丸森町健康まつり, 体育功労者表彰式	町民グラウンドほか	
	丸森体育協会	野球大会, バレーボール大会, 卓球大会ほか	町民グラウンドほか	
	金山体育協会	グラウンドゴルフ大会, ソフトバレー大会	金山小学校	
	筆甫体育協会	グラウンドゴルフ大会	筆甫山村広場	
	大内体育協会	卓球大会, ソフトボール大会, 健康祭り	大内山村広場, 大内小学校	
	小斎体育協会	グラウンドゴルフ大会, ソフトバレー大会	小斎小学校	
	館矢間体育協会	グラウンドゴルフ大会, ドッジ ビー大会など	館矢間小学校ほか	
	大張体育協会	バレーボール大会, ソフトボール大会, 卓球大会, キンボール大会など	丸森西中学校, 大耕農村広場	
	耕野体育協会	ソフトボール祭, バレーボール祭	丸森西中学校, 大耕農村広場	
	野球協会	朝野球リーグ戦(春), トーナメント大会(秋)	町民グラウンドほか	
	剣道協会	丸森町少年剣道錬成大会, あぶくま杯招待少年剣道大会	各中学校武道館 他	
	空手道協会	他地区大会への参加	各中学校武道館 他	
	バレーボール協会	丸森町バレーボール大会	町民体育館ほか	
	卓球協会	丸森町卓球大会, 講習会	町民体育館ほか	
	ソフトボール協会	他地区大会への参加	町民グラウンドほか	
	スポーツ少年団	役員会, 研修会	町民グラウンドほか	
	ゴルフクラブ	丸森町ゴルフクラブ大会	天明カントリークラブなど	
	ゲートボール協会	丸森町ゲートボール大会ほか	丸森町ゲートボール場ほか	
	エアロビクスサークル	練習会	丸森町町民センター	
	グラウンドゴルフ協会	丸森町グラウンドゴルフ大会ほか	丸森町グラウンドゴルフ場ほか	

種別	団体名	主な活動内容	主な活動場所	在籍人数
体育協会加盟団体	大内少年野球	軟式野球	大内山村広場	25名
	金山バッファローズ	軟式野球	金山小学校	17名
	館矢間パイレーツ	軟式野球	館矢間小学校	25名
	小斎ジャビッツ	軟式野球	小斎小学校	14名
	大内バスケットボール	バスケットボール	大内小学校	17名
	丸小ジャガーズ	軟式野球	町民グラウンド	25名
	大内少年剣道	剣道	大内小学校	10名
	大内中野球	軟式野球	大内小学校	20名
	丸森町空手道	空手	丸館中学校武道館	24名
	丸森少年剣道	剣道	丸館中学校武道館	18名
	丸東中野球	軟式野球	丸森東中学校	14名
	丸館中野球	軟式野球	丸館中学校	28名
	大内中バスケットボール部	バスケットボール	大内中学校	10名
その他の団体	丸森町体育指導委員	地域スポーツの指導	各地域	10名
	丸森町スポーツ少年団本部	交流会	町民体育館ほか	

2 行政や体育関係団体などが抱えている課題

<p>①少子化による競技人口の激減 (団によっては他から人を借りてくる場合もある)</p> <p>②団体間の連携不足による、不効率化(一貫性の無い指導)(後継者の不足) 学校の部活動とスポ少で活動がある場合、学校の指導方針とスポ少指導者の指導方針が違っていたり、練習した内容の共有が図れないためオーバーワークになる場合がある。 また、卒業すると団から関わりがなくなってしまうので、OBや先輩が指導する機会が少ない。</p> <p>③指導者の勉強不足 一部の指導者では、数十年前の指導方法に疑問ももたず、当時のまま指導を行っていることも見られる。 ※しかし研修会というイベントの多くは専門知識ではなく有名人の講演会となっている。</p>

スポーツに関するアンケート調査

スポーツに関するアンケート調査

1 調査実施の概要

(1) 調査の目的

文部科学省が平成18年に策定した「スポーツ振興基本計画」によれば、平成22年までに各市町村においては、総合型地域スポーツクラブを立ち上げることとされており、宮城県内の状況を見ても、平成22年3月現在、28の総合型地域スポーツクラブが設立されている。

大河原管内においては、角田市に設立されており、今後他の市町でも設立に向けて検討を進めていかななくてはならない。

これらを踏まえ、各市町におけるスポーツの現況や課題を、また住民のスポーツ活動や意識を把握し、今後の社会体育行政の発展に生かすことをねらいとしてこの調査を実施するものである。

(2) 調査の時期

平成21年12月1日配布，18日回収

(3) 調査の対象

①各市町の小学校高学年（5，6年生），中学校2年生の男女

*小学校は5年生を基本として，サンプル数が不足する市町については6年生を対象とする。

②高校生以上の男女

(4) 調査の方法

①調査地域 大河原教育事務所管内2市7町

（白石市，角田市，蔵王町，七ヶ宿町，大河原町，村田町，柴田町，川崎町，丸森町）

②標本数 小中学生 1031サンプル

一般 2382サンプル

③抽出方法 無作為抽出法

④調査方法 各市町の小学生，中学生においては学校に配布を依頼した。

一般については，小中学生の家族と各市町の老人クラブ等に依頼した。

⑤調査用紙 2パターン作成（小中学生用と一般用）

(5) 有効回答数

小中学生 708サンプル（68.7%）

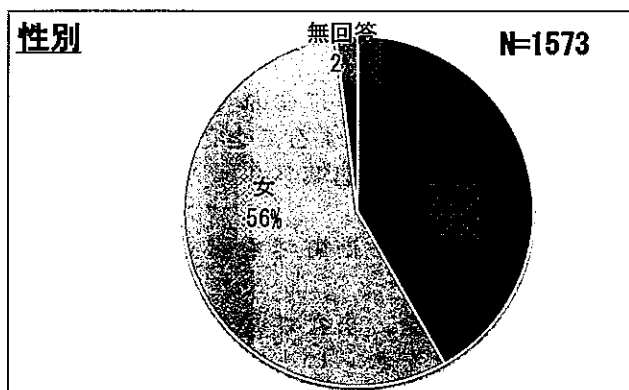
一般 1573サンプル（66.0%）

(6) その他

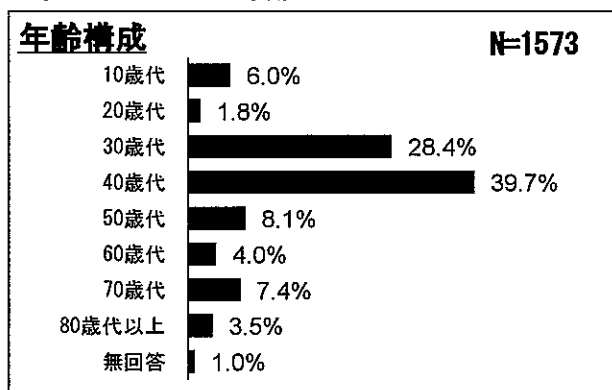
各設問の数値等は，回答のあったもののみを有効とするため，設問ごとのサンプル数は異なる。

スポーツに関するアンケート調査（一般）

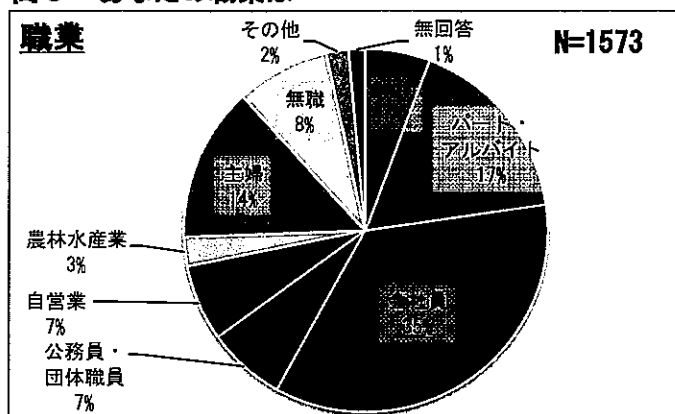
問1 あなたの性別は



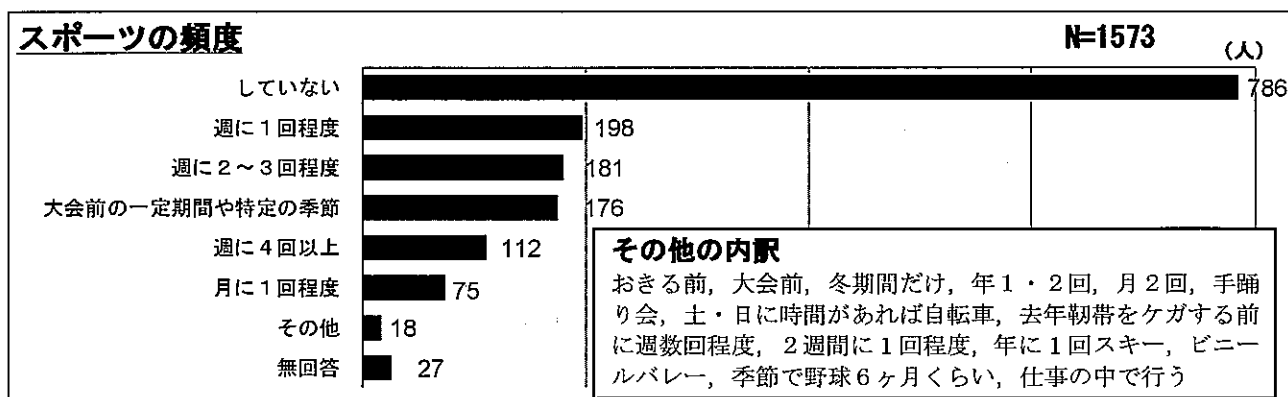
問2 あなたの年齢は



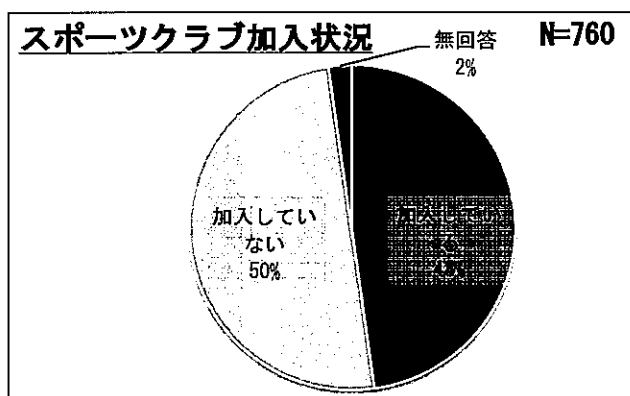
問3 あなたの職業は



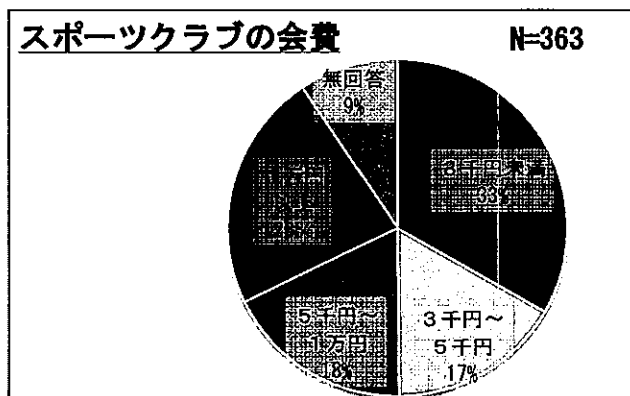
問4 あなたは、どのくらい運動やスポーツをしていますか。



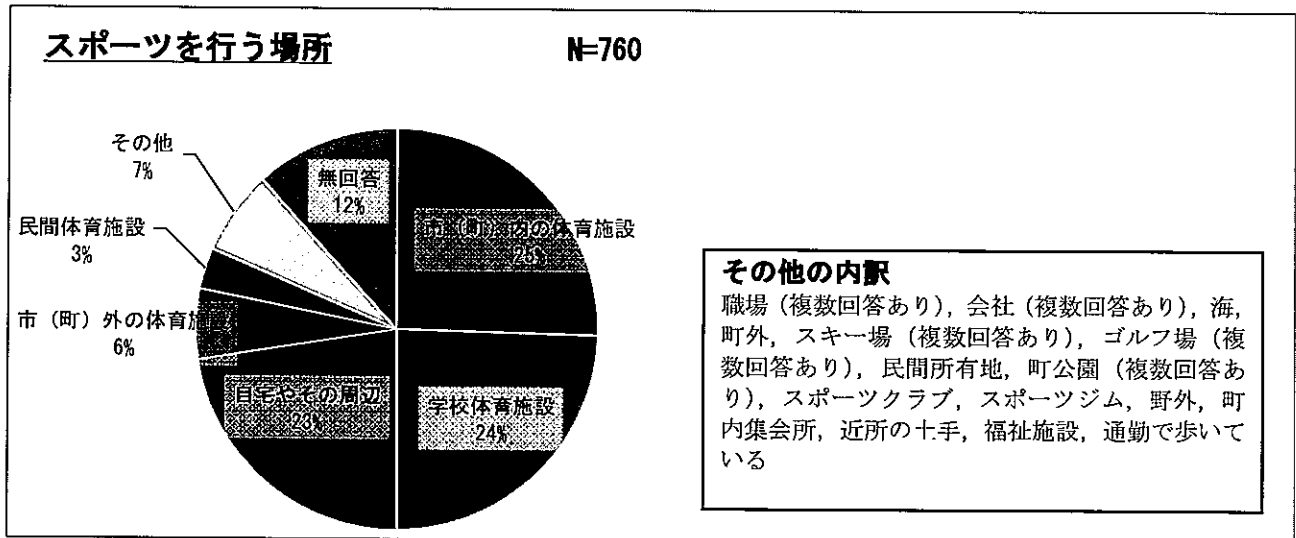
問5 あなたは、運動やスポーツのクラブやサークルに加入していますか。



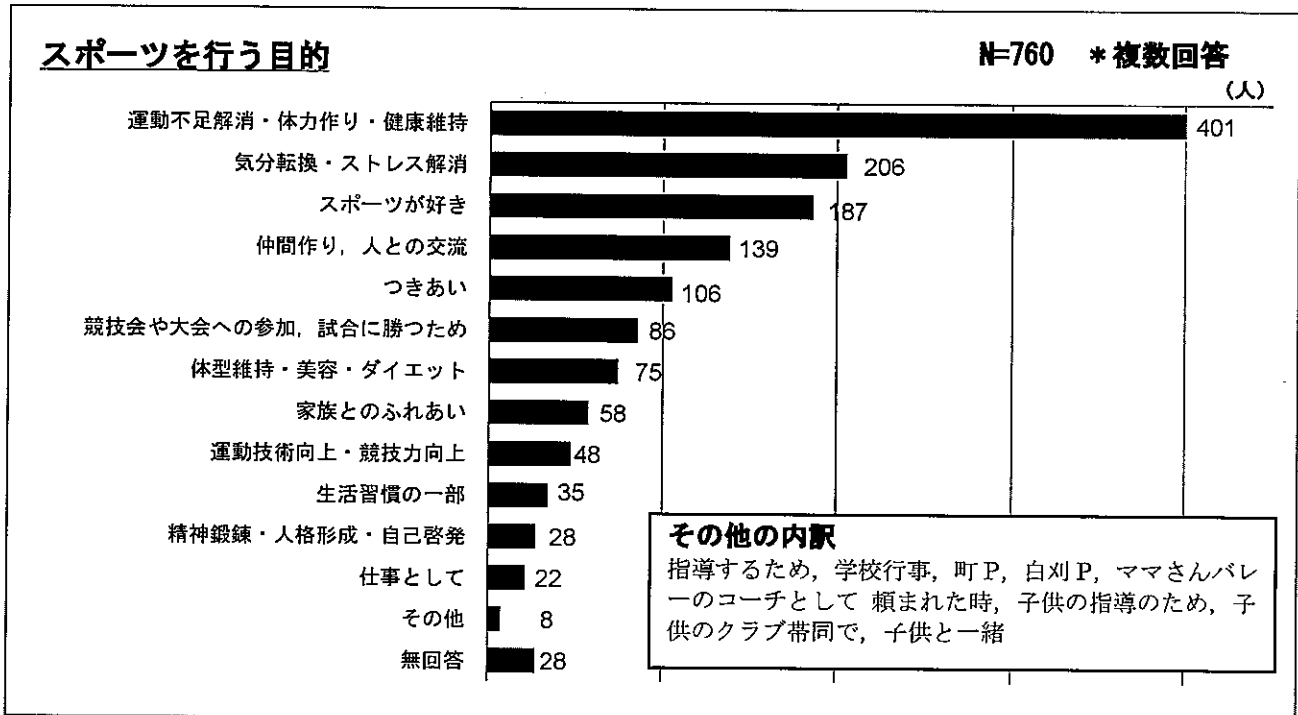
問6 加入しているスポーツクラブやサークルの年会費（活動費）はいくらですか。



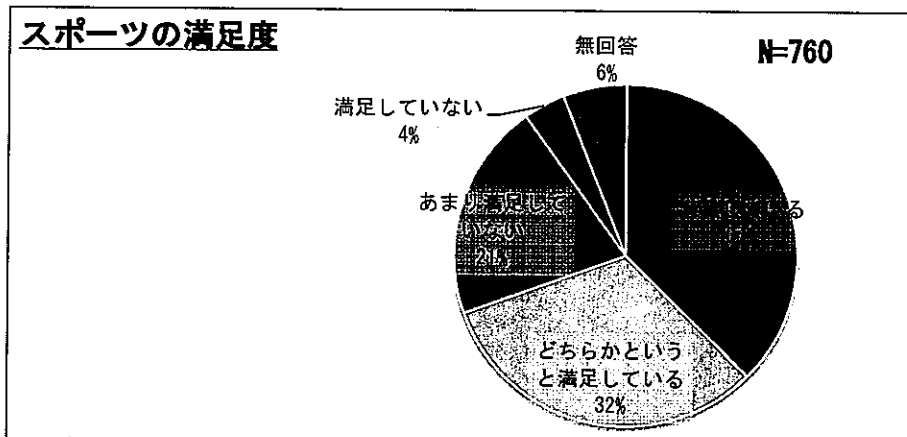
問7 あなたは、運動やスポーツを主にどこで行っていますか。



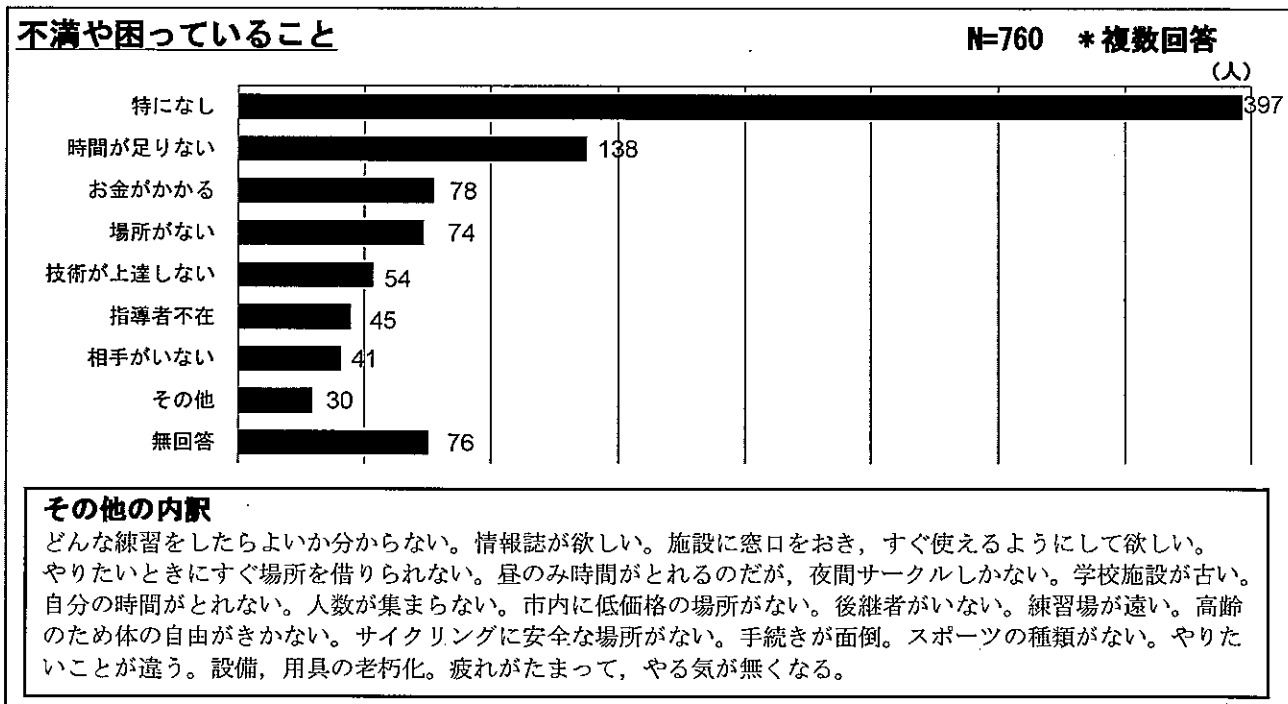
問8 運動やスポーツをどのような目的で行っていますか。2つまで選んでください。



問9 現在行っている運動やスポーツに満足していますか。



問 10 運動やスポーツを行う上で、不満に思うことや困っていることは何ですか。



問 11 どうすれば問題が解決できると思いますか。自由記述をお願いします。

◆**個人に関すること**

- ➔ 家族の理解をしてもらうことが大事。
- ➔ 一人一人の自覚、責任。(同意見 2)
- ➔ 自分でなるべく時間を作る。(同意見 5)
- ➔ 子供に手がかからなくなること。(同意見 2)
- ➔ 仕事と家事の両立は結構大変なので、疲れて思うように活動できません。
- ➔ 短時間で効率的な練習方法を見つける。
- ➔ 少しの時間でも意識して手軽にできる運動を取り入れていけるよう努力したい。

◆**指導者に関すること**

- ➔ 的確な指導のできる指導者を配置し講習会や練習内容の充実を図る。(同意見 6)
- ➔ 目標をもって一緒に楽しみながらスポーツできる仲間を作る。(同意見 5)
- ➔ 個人毎にメニューを作ってもらい、定期的に指導してくれる先生がいたら良いと思います。
- ➔ 自ら技術についてのビデオや本などで調べたりうまい者を手本にするなど。

◆**施設に関すること**

- ➔ 町の施設をもっと利用しやすい環境にしてほしい。(料金無料化を含め、時間を自由に) (同意見 7)
- ➔ 町のスポーツ設備(プール、グラウンド、体育館)の充実。(同意見 6)
- ➔ スクールの設置が必要。
- ➔ ゲートボール愛好者は高齢者が多いため、冬も健康維持のため、ぜひ室内ゲートボール場を作ってほしいです。
- ➔ いつでも練習できる環境を作る。(同意見 2)
- ➔ 町内にスポーツができ、集うことができるサークル・ジムなどの設置。(同意見 4)
- ➔ ちょっと空いた時間に気軽に体を動かすことができる施設があればいいと思います。
- ➔ ゴルフ場、スキー場の低価格化。
- ➔ 老朽化した用具の購入資金などがあればまた違った面で練習ができると思う。
- ➔ 一人でもフラットでできる運動があれば。
- ➔ チケットを2つのクラブで利用しても使用を許可してもらいたい。

◆**広報に関すること**

- ➔ 町内外の方々にアピールやPR活動が足りない。(同意見 2)
- ➔ 県内の情報をお知らせ版などで教えてほしい。(同意見 2)
- ➔ 施設にポスターなど貼られているのが多いが利用しないと分からない。

◆**大会・試合に関すること**

- ➔ スポーツの大会をもっと多く開催してほしい。
- ➔ 運動施設の充実やマラソン大会等の実行。
- ➔ 他のチームとの合同練習や練習試合を増やし技術を向上させたい。

◆サークル・クラブに関すること

- ➡ 夜間の時間のサークルなどを設定する。
- ➡ 皆が集まる曜日にして短時間でも集中してとりかかる。
- ➡ 失敗してもみんなで励まし合ったり、プレッシャーをかけない様にする。
- ➡ 新しいサークルに新しい人が入ってくればよい。
- ➡ 現在のクラブをやめて他のクラブに行けば解決できる。
- ➡ 毎日続けられる簡単な運動方法などを教えていただく機会があればいいと思います。
- ➡ ～をしながら体力作りできる方法を考える。
- ➡ 「何曜日は〇〇ができる日」のように、施設で調整すればよいと思う。
- ➡ クラブ加入者に対し、思いやりをもって教えて欲しい。
- ➡ 本当に好きなスポーツが活動休止のため、練習ができない。
- ➡ 子供も連れていけるといい。

◆その他

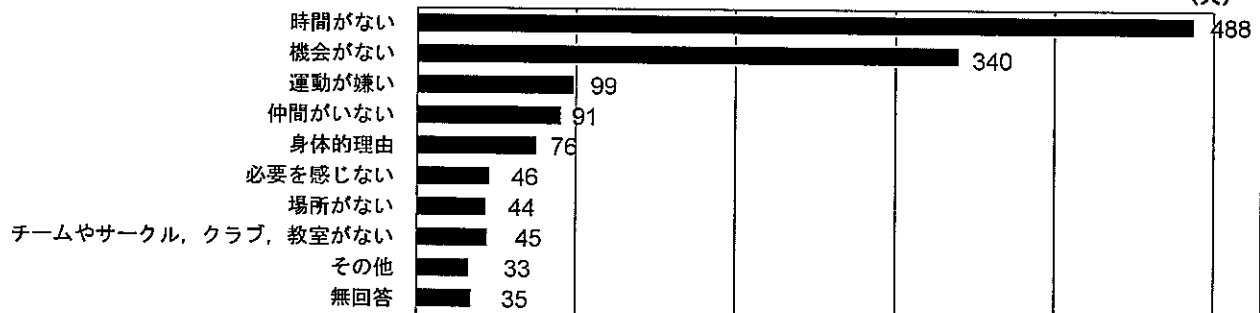
- ➡ そのスポーツを好きじゃないと無理だと思います。
- ➡ 基礎トレーニングの方法がわからない。

問 12 運動やスポーツをしない理由は何ですか。当てはまるものすべて選択して下さい。

スポーツをしない理由

N=786 *複数回答

(人)



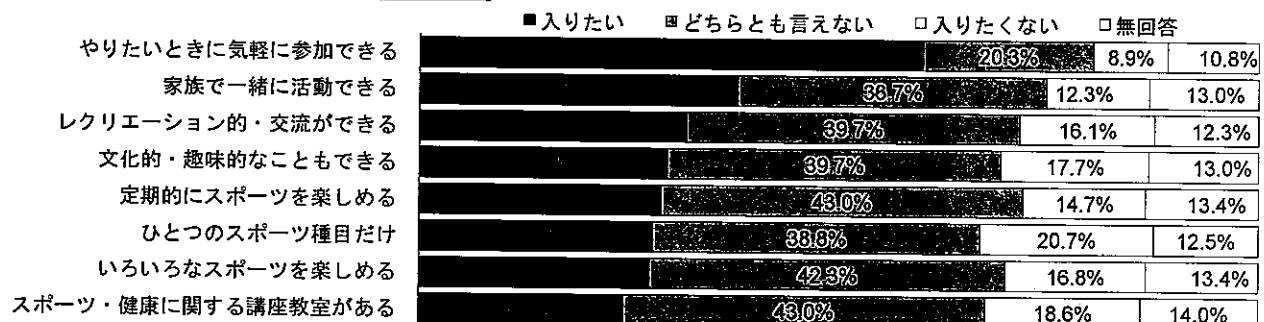
その他の内訳

お金がかかる(同意見4)。仕事が重労働(同意見2)。場所が遠い。受験勉強のため。障がいがあるため。子供が小さい。託児がない。どの様な内容があるのかわからない→情報が無い。どちらかと言うと観戦の方が好き。近くにやりたいスポーツの施設がない。やる気がない。怪我の後遺症のため。どこでやっているかわからない。自宅で軽くする程度でいいと思っている。趣味があるから。人づきあいが面倒。一時休止している。スポーツ施設が自分の休みと合わない。自分のしたいスポーツがわからない。

問 13 スポーツクラブやサークルに加入するなら、どんなクラブに加入してみたいですか。

こんなスポーツクラブなら入りたい

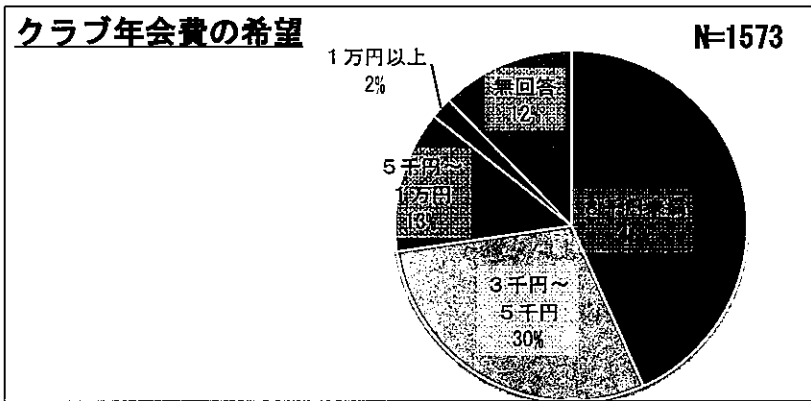
N=1573



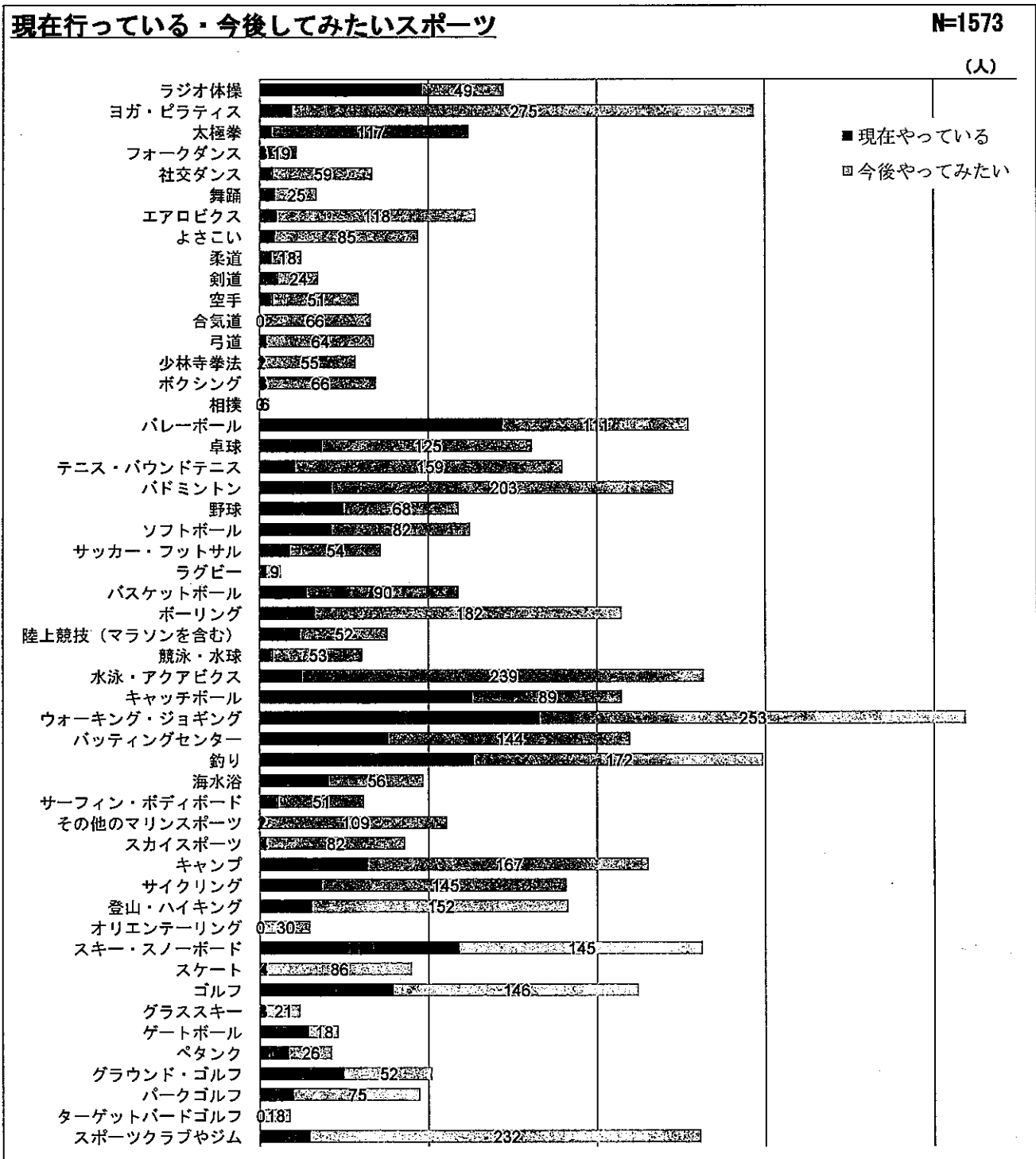
その他の内訳

マラソン、フィットネスクラブ(低料金で利用できる)、チームとして試合に出場できるもの、外国の方との英会話、施設の充実を期待します、アクアビクス⇒プール(冬でも毎日できる)、フィットネスジム、バレエ(ダンス)、エアロビクス、ヨガ、テニス、クラシックバレエ、バスケット、モデルウォーキング(さくらだ千晶)、ジャザサイズ、グラウンドゴルフ、サーフィングクラブ、プール(水泳等、室内トレーニング)、調理教室、ワンポイントみたいなもの、各地域の自然散策、軽登山、有名な指導者、楽しい指導者、読書、短時間ですることのできるスポーツを集めたクラブがあればよい、できる時間で可能なスポーツ・運動をすればよいと思う。

問 14 スポーツクラブやサークルに加入するなら、年会費がどのくらいなら参加したいと思いますか。



問 15 現在行っている、これから行ってみたいスポーツであてはまるものすべてを選んでください。



その他の現在行っているスポーツ

シャッフルボード、イノシシハンティング、ビニールバレーボール、ノルディックウォーキング、モータースポーツ、散歩、インラインスケート、ロッククライミング、レクダンス、フリーウェイトトレーニング、フラダンス、チベット体操、バイクツーリング、ダンベル、3B体操、自宅トレーニング、ストレッチ、ジャザサイズ、ベリーダンス、室内での5分位の軽運動、ソフトバレー

その他の今後行ってみたいスポーツ

新体操、フラダンス、ハンドボール、ダーツ、ビーチバレー、ビニールバレーボール、ダンス、乗馬・カヤック、川で遊べるニュースポーツ、華道、書道、加圧トレーニング、ソフトバレーボール、モデルウォーキング（さくらだ千晶）、ジャザサイズ、ビリヤード、陶芸、ノルディックウォーキング、ヒップホップダンス、モータースポーツ、ボッチャー、ストレッチの方法、軽運動、バレエ、室内でできるロッククライミング、ピラメトリクス、カンフー、バンジージャンプ、スカッシュ、ウォータージャンプ

問 16 運動スポーツに関する意見や自由記述。**◆施設に関すること**

- ➔ 施設の使用料の問題。(同意見5)
- ➔ 施設の立地条件の問題。(同意見4)
- ➔ 施設の整備。(バスケットゴールの設置、サイクリングコース、体育館、陸上競技場、プールなど)建設に関する問題。(同意見6)
- ➔ 施設使用の規定等に関する問題。(同意見4)
- ➔ 施設の職員に対する不満。

◆広報・情報に関すること

- ➔ スポーツを推進するならもっとスポーツ団体や、イベント等の情報を公開すべきである。情報誌の発行含む。(同意見5)
- ➔ 公民館等に自由にクラブの勧誘や意見等の情報交換できるような専用掲示板などあってもよいかなと思う。

◆試合・大会に関すること

- ➔ 積極的なスポーツ大会の実施。
- ➔ さくらマラソンも復活させてください。
- ➔ クロスカントリーにたくさんの町民(特に児童)が参加してほしいと思います。

◆個人に関すること

- ➔ 仕事や子育てのため運動する時間が取れない。(同意見4)
- ➔ 毎日の散歩やラジオ体操など自宅で毎日少しずつできるのが継続しやすく手軽だと思います。(同意見2)

◆スポーツ少年団・学校・部活動・授業に関すること

- ➔ 子供にスポーツをさせるための金銭面での負担。(会場費や参加費、年会費など)(同意見7)
- ➔ 送迎や親の会についての問題。(同意見6)
- ➔ 用具やウェアなどのレンタル制度の導入。(同意見3)
- ➔ すべての子供に平等にスポーツをさせるための方策の検討。(同意見4)
- ➔ スポーツ少年団の種目を増やすことについて。(同意見2)
- ➔ スポーツ少年団の構成人数の減少について。(同意見2)
- ➔ 監督とコーチの個人的な意見で進みがちでできる子とできない子の差をつけられがちでスポーツができない子はやめてしまう事が多くなっています。
- ➔ 雪の中(自然と)遊びながら友達同士楽しめるスキーの授業がだんだん少なくなっています。是非、スキーボードを通し仲間の大切さを分かりあえるスキー授業を以前のように取り入れることを望みます。

◆スポーツクラブに関すること

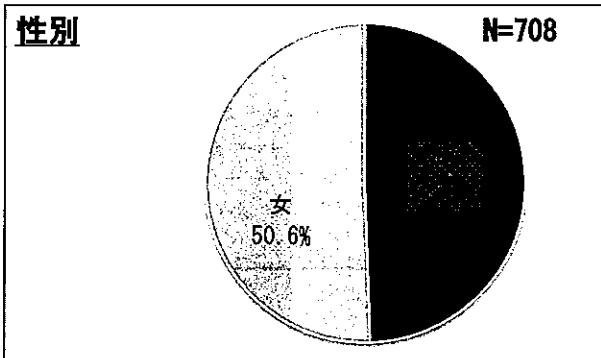
- ➔ 年をとるごとに、趣味や体験などと合わせたスポーツ(軽い)がほしいです。
- ➔ チームやサークルのメンバーが少ない、または練習に集まらない。(同意見3)
- ➔ 病気や年齢的な体力の衰え、高齢者ができるウォーキングや健康体操等のスポーツ教室の設立。(同意見9)
- ➔ 年会費が安く参加が自由、大人も子供も参加でき、家族で参加できるクラブなら入会したい。(同意見7)
- ➔ 移動手段がなく参加できない。(同意見3)
- ➔ 小さい子供が居ても一緒に、家族でも参加でき、勝負に関係なく楽しくできるクラブの設立を。(同意見4)
- ➔ 施設を充実させ、レッスンの種類、競技の種類が増えるといいと思う。(同意見9)
- ➔ 総合型地域スポーツクラブの設立を。
- ➔ もっと手軽に取り組むことのできる運動はないかと、毎日思っています。
- ➔ 勝負にこだわらず、参加を強制されないクラブ。(同意見2)
- ➔ 書道や絵画とかも興味あります。夜の開催を望みます。

◆指導者に関すること

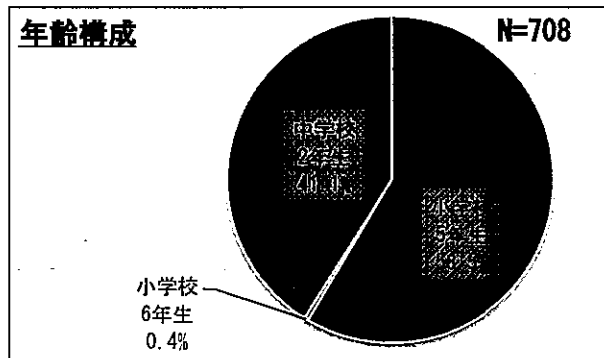
- ➔ よい指導者がありませんので、技術的な向上はなかなかむずかしい様です。
- ➔ スポーツはある程度、技術の向上がないと長続きしない。そのためよい指導者の招へいと育成が必要。(同意見3)
- ➔ 何かスポーツを始める際はやり方や(基本や練習方法)危険に関する事などを教えてくれる指導者がいることが望ましいと感じます。

スポーツに関するアンケート調査（小中学生）

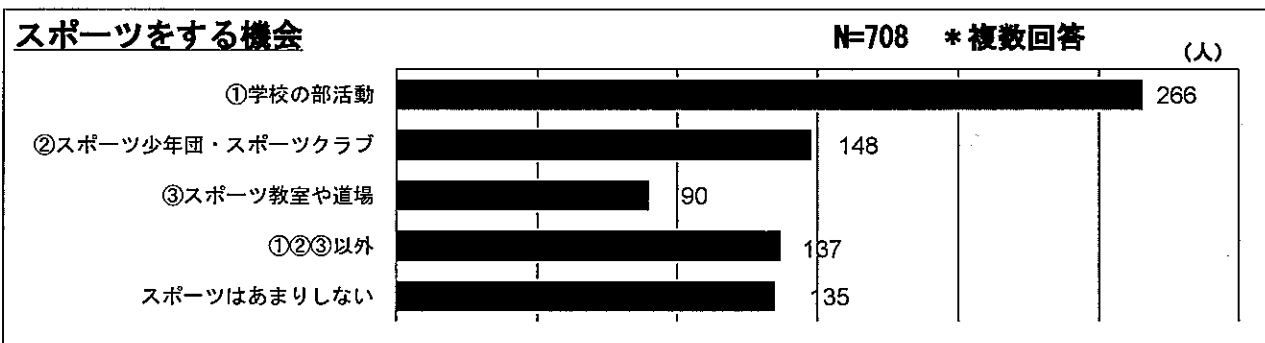
問1 あなたの性別は



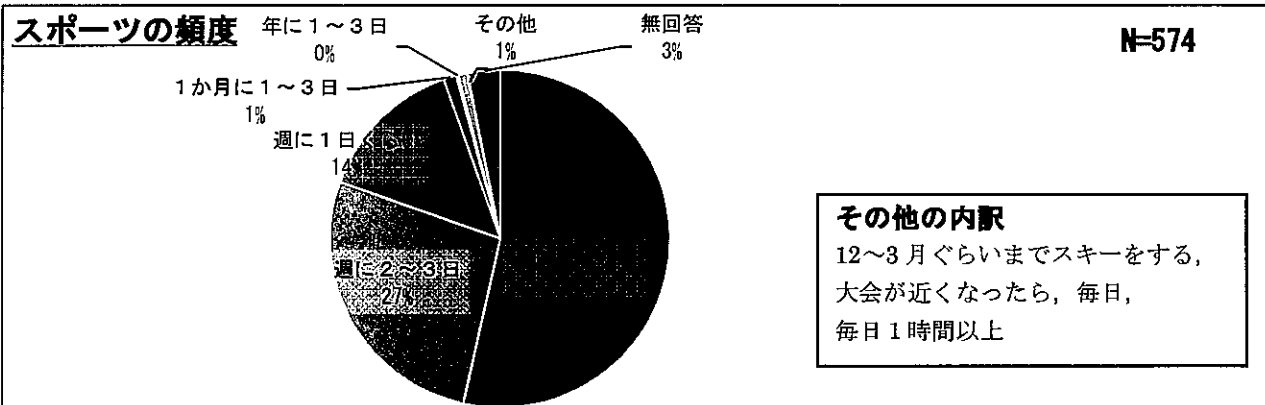
問2 あなたの学年は



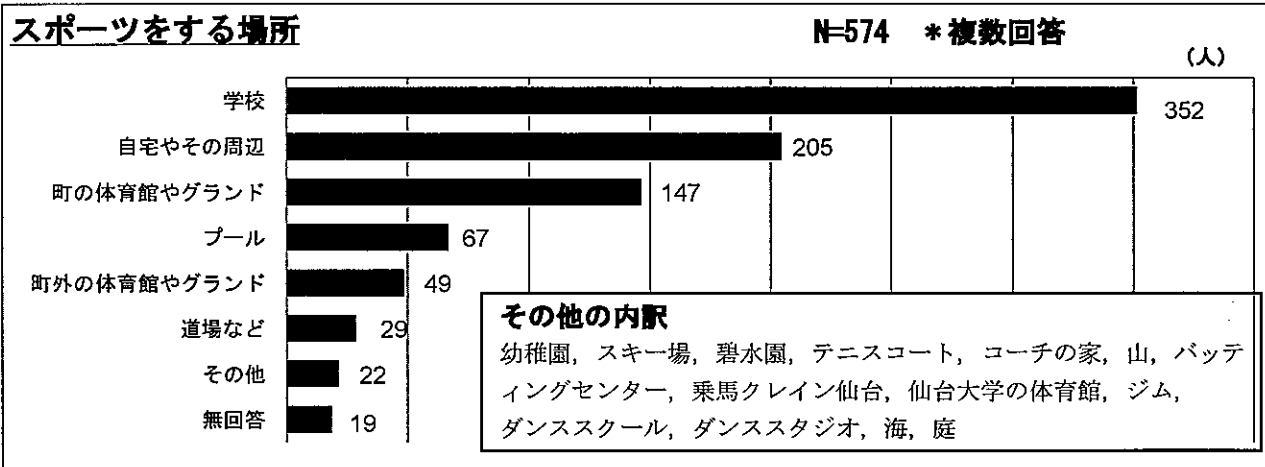
問3 あなたは、学校の授業や休み時間以外に運動やスポーツをしていますか。



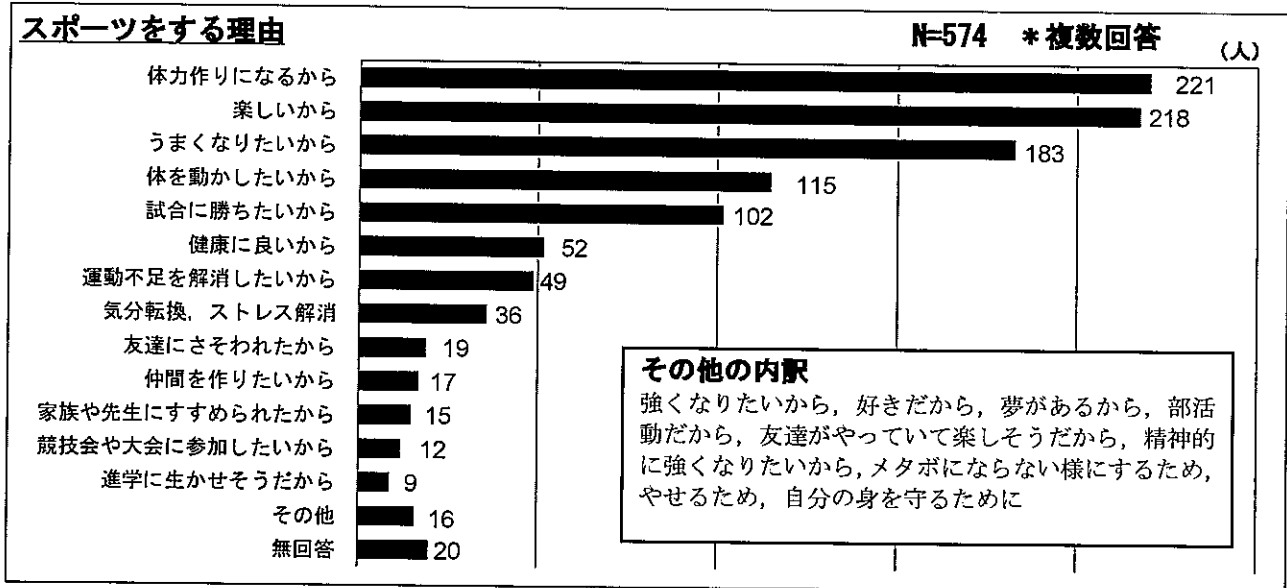
問4 あなたは学校の授業や休み時間以外に運動やスポーツをどのくらいしていますか。



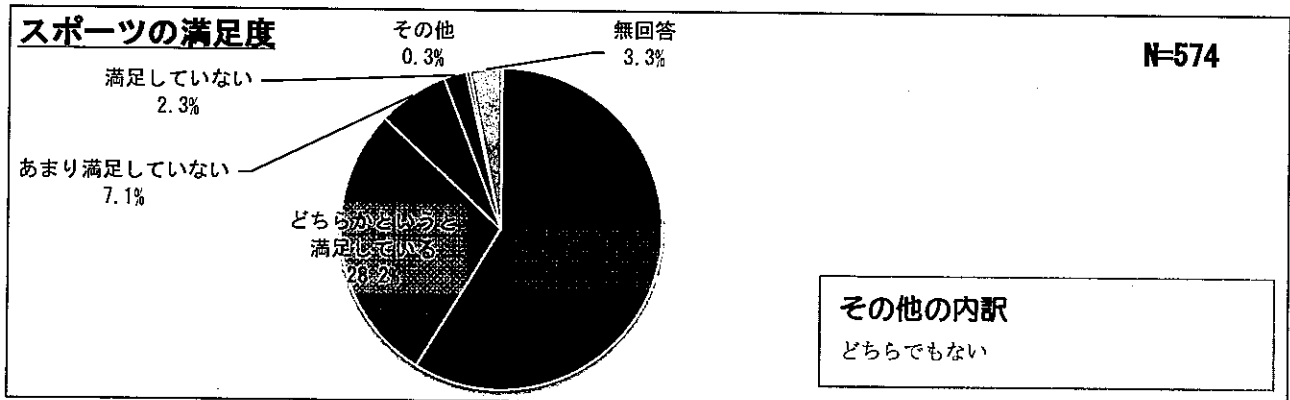
問5 あなたは学校の授業や休み時間以外での運動やスポーツをどこで行っていますか。



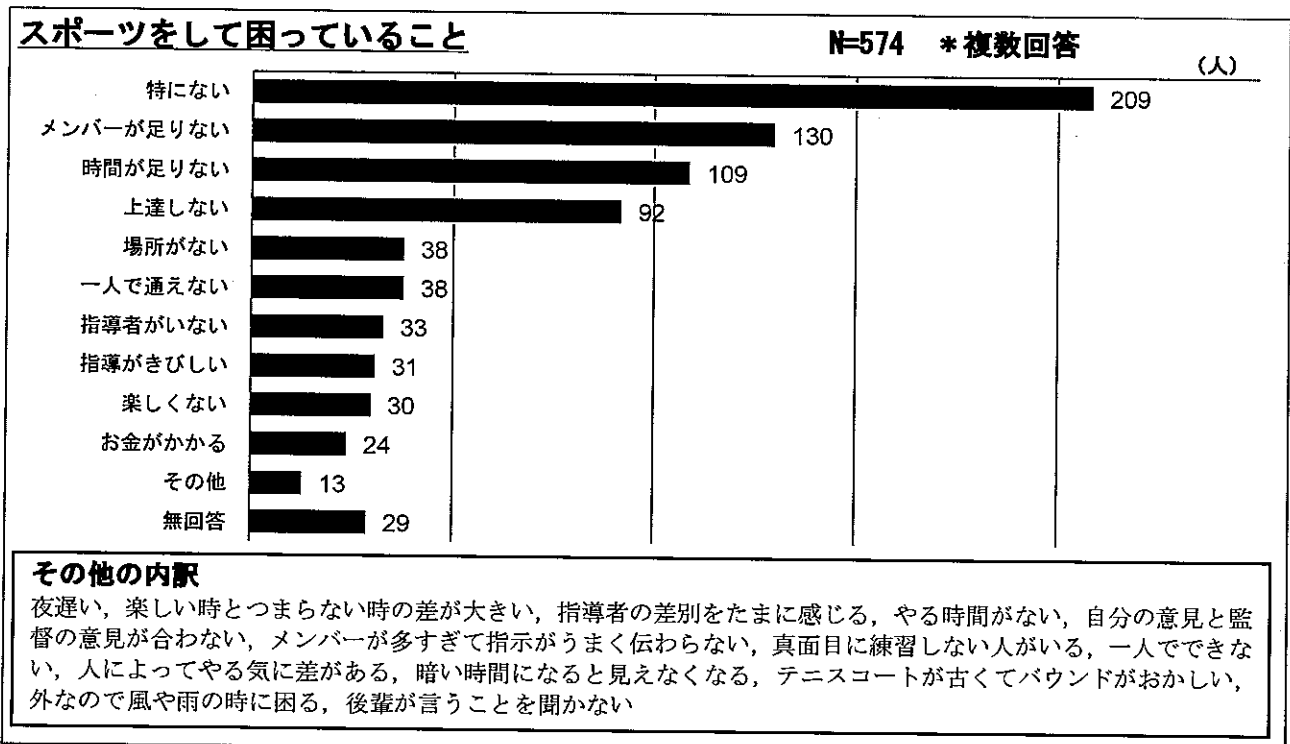
問6 あなたが運動やスポーツをする理由で、主なものを2つ選んで下さい。



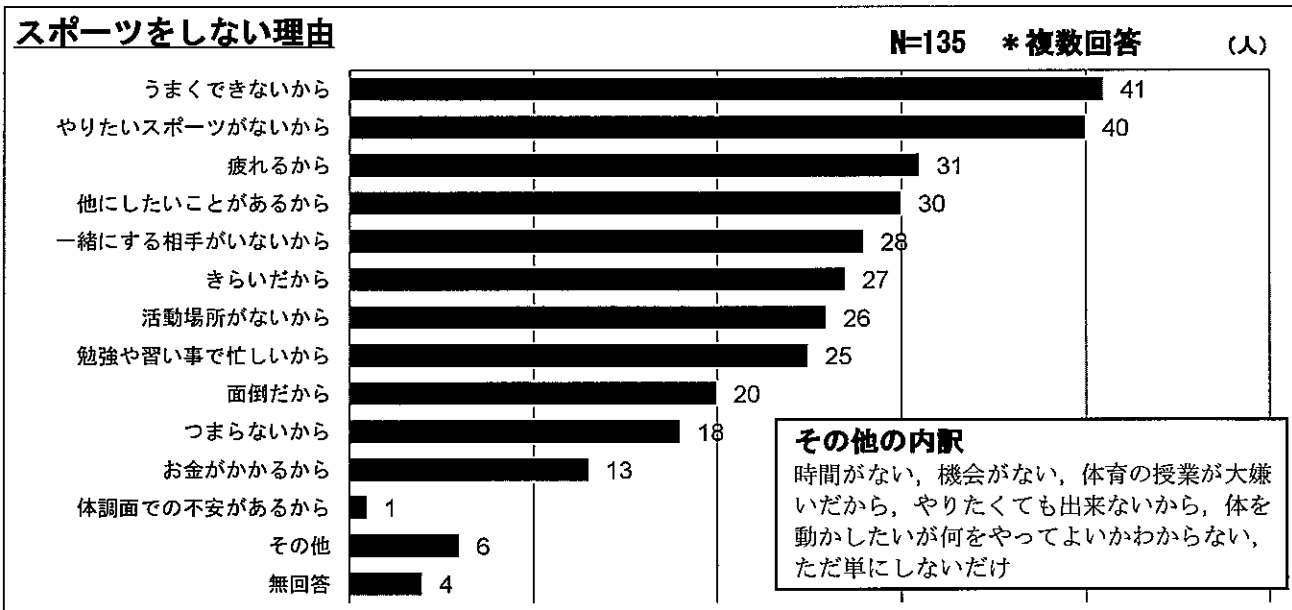
問7 あなたは、現在取り組んでいる運動やスポーツに満足していますか。



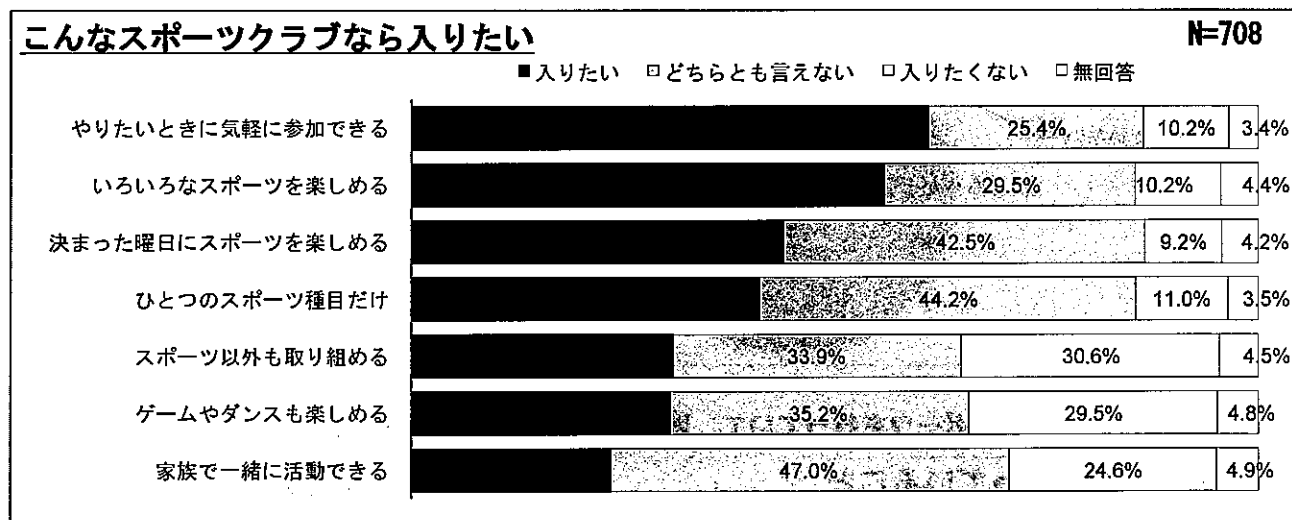
問8 あなたが運動やスポーツを行っていて、困っていることはなんですか。



問9 あなたが、運動・スポーツをあまりしない理由を教えてください。



問10 もし、スポーツクラブに入るとしたら、次のどのようなクラブに加入してみたいですか。

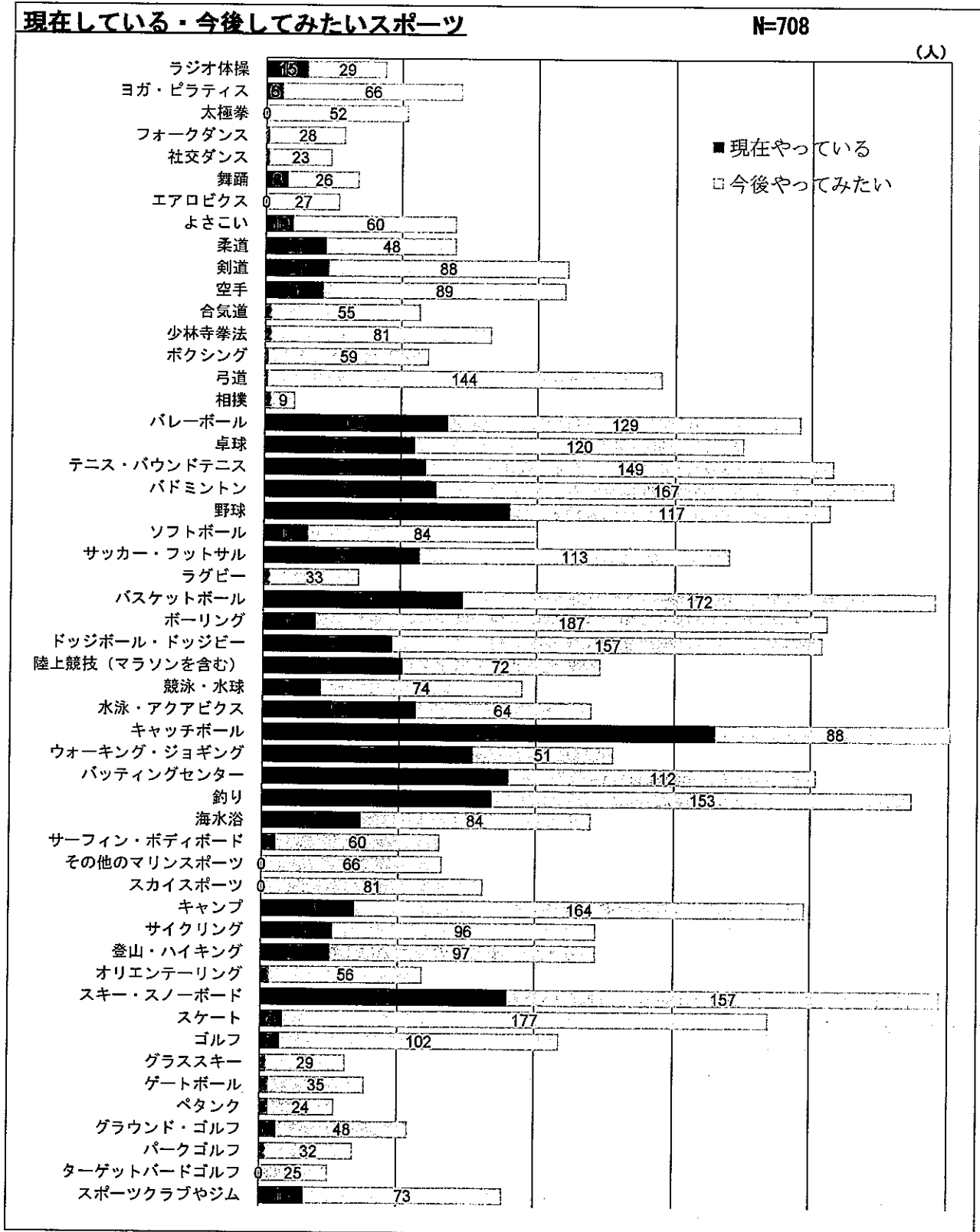


こんなスポーツクラブなら入りたい (自由記述)

同一の内容はまとめて記述してあります。

モータースポーツ関係のクラブ、天体観測や登山などのクラブ、他の人と組んで出来るスポーツクラブ、長距離を走るクラブ、テレビゲームなどのマニアが集まるクラブ、パソコンクラブ、ドッジボールクラブ、サイエンス(科学)クラブ(実験などが出来るから)、少年野球チームなど試合に勝つという目的ではなく野球を楽しくプレーする愛好会という感じのクラブ、業間や休みに決まった種目だけをやるクラブ、写真クラブ、歌が歌えるクラブ、J-POPのダンスができるクラブ、陸上のクラブ、料理などを教えてくれるクラブ、家庭科、裁縫や料理する、外国人との英会話、1年生から6年生まで入れるクラブ、珍しい運動ができるクラブ、自分の特技をレベルアップさせたり自分の特技をいかしたりできるクラブ、決まった時間にしっかりふざけず練習するクラブ、いろいろなことができて楽しいクラブ、スケートクラブ、町の発表会などにも参加できるもの、家まで来ておしえてくれるクラブ、自分がしたい(えらべる)クラブがあればいい、機械系のクラブ(手作りのラジコン、たこ、等)、弓道クラブ、昭和のゲームクラブ、あまり走らないクラブ、絵を描くクラブ、ボーリングクラブ、みんなで楽しくできるスポーツ、ドッジボールやサッカーなど好きな事ができるクラブ、釣りクラブ、友だちとのきずなが深まるクラブ、一つの事をみんなで取り組めるクラブ、動物とふれ合えるクラブ、将棋、いろいろなどところに行っているいろいろなスポーツがあるクラブ、演劇クラブ、すべてのクラブが混ざったクラブ、仲間はずれなどが無いみんなが楽しめるスポーツがしたい、バスケットボール、卓球(女子)、お金のかからなくて好きな時に好きなスポーツができるクラブ、脳トレクラブ、散歩部、定期的に練習試合があるクラブ、歌がうまくなるクラブ、きちんと試合などもするクラブ、うまいメシが食べれるクラブ、通うだけでお金がもらえるクラブ、動物を保護するクラブ、三食昼寝つき、すぐに上達するクラブ、子供のためのポニークラブ、おやつが出るクラブ、個人でやるクラブ、バスケで絶対に試合だけのクラブ

図 11 現在行っているまたは、今後行ってみたいスポーツではまるものすべてを選んでください。



その他現在行っているスポーツ

同一の内容はまとめて記述してあります。

夜間マラソン、なわとび、キックベース、AZ9 ジュニア・アクターズ、ソフトバレーボール、劇団、筋肉トレーニング、フラダンス、新体操、乗馬、バトントワリング、Hip Hop ダンス、テコンドー

その他今後行ってみたいスポーツ

ヒップホップダンス、キックベース、けいどろ、ローラースケート、アーチェリー、ハンドボール、カートなど、トランポリン、フェンシング、バトン、新体操、ダンス、器械体操、カンフー、シューティング、過激な運動、アメフト、ダンス、総合格闘技、キックボクシング、ムエタイ、シンクロ

問 12 大人の人にお願いや意見があれば書いてください。自由記述をお願いします。

◆部活・スポ少・指導者・先生に関すること

同一の内容はまとめて記述してあります。

- ➔ 部活がちょっと厳しすぎると思います。監督が怖い。(同意見2)
- ➔ もっと優しく教えてほしい。(同意見3)
- ➔ 教えてくれる時は、きちんと丁寧に教えてほしい。
- ➔ 差別をしないで指導してほしい。(同意見2)
- ➔ 部活動をもう少し減らしてほしい。
- ➔ 試合回数を増やしてほしい、稽古回数を増やしてほしい、稽古を厳しくしてほしい。
- ➔ 部活の時間を増やしてほしい。もっと厳しくしてほしい。(同意見7)
- ➔ 陸上や駅伝などの練習が多すぎる。
- ➔ 陸上のクラブをつくってほしい。
- ➔ 中学にサッカー部がない。中学の運動部が少なすぎる。野球だけが重視されている。
- ➔ 部活動などは一つのスポーツだけでなくいろいろなスポーツをやりたい。
- ➔ もっとメンバーを増やしてほしい、増えてほしい。(同意見2)
- ➔ 指導者(コーチ)をもっと増やしてほしい。(同意見5)
- ➔ 生徒と同じく半袖を着て、体育の授業で先生も一緒に準備体操をしてください。
- ➔ 一緒に遊んでほしい。遊ぶ時間をとってほしい。
- ➔ チームジャージなど高いものをそろえないでほしい。金額を安くしてほしい。(同意見2)
- ➔ 子供がやりたいことを自由にやらせてもらいたい。(同意見4)
- ➔ 子供の意見をきいてほしい。(同意見2)
- ➔ 大人だけであれこれきめないでほしい。(同意見4)
- ➔ 「絶対に勝てる」など、無理な期待をしないでほしい。
- ➔ 学校のマラソンの時、音楽が流れていればもっと楽しくできると思う。

◆施設・道具に関すること

- ➔ 気軽に運動する場所やスポーツ施設を増やしてほしい。(同意見12)
- ➔ もっと気軽に運動できる環境をつくってください。
- ➔ 自分専用のジムがあったり何でも揃っているところが欲しい。
- ➔ 家(外)で運動できるような場所をつくってほしい。
- ➔ 無料で楽しめるアスレチックや、名取のサイクリングセンターが希望。
- ➔ テニスコートを増やしてほしい。(同意見2)
- ➔ サッカー場をつくってほしい。
- ➔ バッティングセンターやボウリング場をつくってほしい。(同意見2)
- ➔ 体育館の照明が暗く、球などが見えづらい。また、体育館を広くしてほしい。
- ➔ 夜間照明をつけてほしい。(同意見4)
- ➔ グラウンドをもっと良くしてほしい。
- ➔ 道具をかってほしい。

◆大会関係に関すること

- ➔ 将棋大会を開いてほしい。
- ➔ 気軽に参加できるスポーツ大会を開催してほしい。
- ➔ いろんな種類の運動会をしてほしい。
- ➔ 中学校で球技大会(バレーボール)があります。楽しいので大会は1種類だけではなくいろいろな種目(野球・サッカーなど)を増やしてほしい。
- ➔ はねっこアリーナでやるスポーツ大会みたいなものをもう少し増やしたらいいと思う。

◆クラブに関すること

- ➔ 陸上競技のクラブをつくってほしい。
- ➔ 気軽に出来るスポーツや家族、地域の人と一緒にでき、仲間も増やせるような、スポーツをしたい。(同意見6)
- ➔ インドア派の人を入れるように、オセロ、将棋ができるスペースをつくってほしい。
- ➔ 今後は、バスケットやスケートなど、町などでできるようなものを増やして欲しいです。
- ➔ うまくなるコツを教えてほしい。
- ➔ 色々な種目(水泳、バスケット、スケートなど)の運動に取り組みたい。(同意見3)
- ➔ 中学生でも入れるスポーツクラブがあった方がよい。
- ➔ もっと運動量を増し、体力を上げていきたいです。
- ➔ 運動の習い事をもっと増やしてください。お願いします。

先進地視察研修報告

平成 2 1 年 度
大河原地区社会教育主事研究協議会 研修視察要項

1 目 的

生涯学習社会の充実が求められる今日，その先進地を視察することにより，管内の各市町における今後の社会教育推進に役立てるとともに，社会教育主事としての資質の向上と豊かな発想力を培う。

2 期 日 平成 2 1 年 9 月 2 5 日（金） 午前 7 時 4 5 分～午後 5 時 1 5 分

3 視察地

(1) 登米市教育委員会生涯学習課

〒987-0602 宮城県登米市中田町上沼字西桜場 1 8

(2) なかだスポーツクラブ“パティオ”

〒987-0621 宮城県登米市中田町宝江黒沼字浦 3 8 - 5（中田 B & G 海洋センター内）

4 主な視察内容

- (1) 総合型地域スポーツクラブ設立までの経緯
- (2) 総合型地域スポーツクラブ設立の状況

5 参加者 大河原地区社会教育主事研究協議会会員及び社会体育担当者 1 7 名

6 日 程

大河原合同庁舎（7：45 発） ⇒ 登米市役所中田総合支所（10：00 着）

10：00～11：45 登米市教育委員会生涯学習課 視察

登米市内 昼食・休憩 ⇒ 登米市中田総合体育館（13：30 着）

13：30～15：00 なかだスポーツクラブ“パティオ” 視察

中田総合体育館（15：00 発） ⇒ 大河原合同庁舎（17：15 着）

7 研修視察の概要

(1) 「登米市教育委員会生涯学習課」からの説明

①登米市スポーツ振興計画について

平成17年4月1日に、9つの町が合併して登米市が誕生した。合併前、石越町、中田町、豊里町の3町では総合型地域スポーツクラブを既に設立していた。合併後、南方町と迫町の2つの町域でも設立され、現在登米市には5つの総合型地域スポーツクラブが設立されている。

平成19年に現在の教育長が就任し、登米市教育委員会では、「学力向上」「公民館の自主管理・自主運営」「総合型地域スポーツクラブ全町域での設立」の3つを教育施策の大きな柱として取り組んでいる。旧町域単位での総合型地域スポーツクラブの未設置町域は残すところ、4つとなっているがほとんどの地域で設立に向けて動いている。

国においては平成12年にスポーツ振興基本計画を策定し、県では平成15年度に宮城県スポーツ振興基本計画を策定した。登米市では、すべての市民が健康で豊かな生活をおくるため、みる・支える・交流する市民総スポーツ推進の実現を目指して、平成18年3月に、登米市スポーツ振興計画を策定した。その内容では平成18年度から平成27年度の10年間を見据え、「生涯スポーツ社会に向けた地域づくり」「競技スポーツの競技力向上」「スポーツ施設の有効活用と整備の充実」という3つの視点からスポーツ振興の指針を示している。

計画策定においては、スポーツ振興審議会委員から策定準備委員を選任して策定作業を行った。住民のスポーツに関するニーズを把握するため10歳から79歳までの2,000名を無作為に抽出してアンケート調査を実施し策定の基礎資料とした。アンケートの調査結果により、市民のニーズを背景に市民だれもが生涯を通じ、健康を守り、スポーツ・レクリエーション活動に親しむことができ、夢と感動に満ちたスポーツ振興を目的として振興計画を策定した。市民スポーツの振興は、行政だけでなく、市民一人一人が進めていかなければならないものであり、子供からお年寄りまでのあらゆるライフステージを対象とした広い意味での生涯スポーツの振興に重点を置き推進を図った。スポーツ振興計画の策定後の進捗状況や目標の見直しについては、平成19年6月に登米市社会体育施設管理運営検討委員会を設置して、社会体育施設管理の運営の方向について、登米市スポーツ振興計画の見直し及び施設の維持整備や各種大会委託事業、施設の整備等により検討し報告書を作成して社会体育事業推進の方向性について取りまとめを行い、その報告書に従った見直しを予定している。

②登米市における総合型地域スポーツクラブについて

合併する前、平成14年に石越町では「いしこしENJOYスポーツクラブ」を設立、平成16年には、中田町で「なかだスポーツクラブ“パティオ”」、豊里町で「とよさとマイ・タウンクラブ」を設立していた。合併後には、南方町域で「スポーツクラブみなみかた」、迫町域で「文化・スポーツクラブはさま」を設立した。

登米市には現在5つの総合型地域スポーツクラブが設立されているが、年会費や運営形態等はそれぞれ異なっておりその町域の実情にあったものとなっている。

現在登米町域では、平成22年1月に設立総会をしようと準備が進んでいる段階となっている。登米市には、東和町・米山町・津山町の3町域があるが、東和町域についても設立準備委員会が立ち上がっており設立に向けて準備が進められている。米山町域と津山町域では、検討

委員会で総合型地域スポーツクラブの必要性について検討しているところである。登米市では国のスポーツ振興基本計画にあるように、中学校区1地域に1クラブの設立を基本として、旧町域ごとに総合型地域スポーツクラブを設立しようと考えている。

なお、登米市の場合、体育協会やスポーツ少年団といった活動は競技スポーツと捉えており、その競技スポーツ以外の部分を生涯スポーツと捉え、生涯スポーツを総合型地域スポーツクラブで担っていこうという方向で進めている。

③文化・スポーツクラブはさまの設立について

総合型地域スポーツクラブの設立に関して、迫町の文化・スポーツクラブはさまの場合、迫体育館と登米市の体育振興課が連携をとって、設立準備を地域の人たちに働きかけながら進めてきた。その中で、地区のスポーツ活動の中心となって担っているのは、体育協会や、スポーツ少年団、体育指導委員会の方々だった。初めに、それぞれの代表者に集まってもらい、総合型地域スポーツクラブについての検討委員会を組織してほしいということから取り組みを始めた。しかし、各代表者からは、今のままでよい、要らない、何を今さら検討する必要もない、という意見ばかりだったが、それでも設立を目指した。迫体育館と登米市体育振興課では、体育協会、スポーツ少年団、体育指導委員の方々はクラブ設立に関して欠かせないキーマンだと考え、検討委員会を組織してもらおうと何度も集まって検討してもらった。登米市では、どの町域でもこの3つの団体は外さずをお願いしている。

登米市の生涯スポーツとして、総合型地域スポーツクラブの設立を考えてこれから進めていかなければならないということを理解していただくため、スポーツ少年団の指導者対象に研修会を受けてもらったが、ここでも、要らない、作ってもしょうがない、という意見がでた。本当に必要ないのかどうかを議論して決めてもらおうということになり、何度も打ち合わせ会を行うこととなった。

◇会議・研修会実績

平成19年

- 10月 2日 総合型地域スポーツクラブ研修会
- 11月 7日 設立検討に関する打合せ会
- 11月16日 設立検討に関する打合せ会
- 11月30日 総合型地域スポーツクラブ研修会
- 12月25日 設立検討に関する打合せ会

平成20年

- 1月21日 設立検討に関する打合せ会
- 1月29日 総合型地域スポーツクラブ研修会
- 1月30日 迫地区区長会における説明会
- 2月27日 森地区説明会
- 2月29日 北方地区説明会
- 3月13日 佐沼地区説明会
- 3月17日 婦人会説明会
- 3月27日 設立検討に関する打合せ会
- 4月23日 迫地区総合型地域スポーツクラブ設立検討委員会にかかわる話し合い
- 5月 7日 迫地区総合型地域スポーツクラブ設立検討委員会にかかわる話し合い
- 5月27日 迫地区総合型地域スポーツクラブ設立検討委員会にかかわる話し合い

※これまでは、総合型地域スポーツクラブの立ち上げを前提とした検討委員会の設立が厳しい状況だったが、6月に入ったところ急展開し認められるようになった。

- 6月11日 迫地区総合型地域スポーツクラブ設立検討委員会
- 6月19日 迫地区総合型地域スポーツクラブ設立検討委員会
- 7月 2日 迫地区総合型地域スポーツクラブ設立検討委員会
- 7月 9日 迫スポーツクラブ設立準備委員会
- 7月23日 迫スポーツクラブ設立準備委員会執行部会
- 7月30日 迫スポーツクラブ設立準備委員会



8月 5日	迫スポーツクラブ設立準備委員会
8月 8日	迫スポーツクラブ運営委員会
8月12日	体育協会・スポーツ少年団指導者・各種団体向け説明会 迫スポーツクラブ設立準備委員会執行部会
8月26日	佐沼地区住民向け説明会
8月27日	北方地区住民向け説明会
8月28日	森地区住民向け説明会
8月29日	新田地区住民向け説明会
9月 3日	迫スポーツクラブ設立準備委員会、迫スポーツクラブ運営委員会
9月17日	迫スポーツクラブ運営委員会
9月24日	迫スポーツクラブ運営委員会
10月 8日	迫スポーツクラブ設立準備委員会執行部会
10月20日	迫スポーツクラブ設立準備委員会執行部会
10月22日	迫スポーツクラブ設立準備委員会
10月26日	迫スポーツ講演会
11月 1日	迫スポーツクラブ設立準備委員会執行部会
11月 5日	迫スポーツクラブ設立準備委員会
11月20日	迫スポーツクラブ設立準備委員会執行部会
11月26日	迫スポーツクラブ設立準備委員会
12月 4日	迫スポーツクラブ設立準備委員会執行部会
12月12日	文化・スポーツクラブはさま設立総会準備
12月14日	文化・スポーツクラブはさま設立総会

◇迫スポーツクラブ設立準備委員会

委員構成：体育協会6名、スポーツ少年団6名、体育指導委員3名、体育振興委員4名、スポーツ振興審議委員2名、区長会会長1名、婦人会会長2名、文化協会会長1名、老人クラブ連合会会長1名、青年会2名、体育館利用団体3名、PTA代表1名
 執行部：委員長1名、副委員長2名、代表委員2名
 専門部：総務部10名、企画部10名、広報部10名

検討委員会はスポーツ関係者が中心、準備委員会はそれに関連団体の方々が入って組織されている。設立準備委員会が設立された時点で、総合型地域スポーツクラブが分からない人もおり、研修会も同時に進めてきた。

執行部は、委員長1名、副委員長2名、代表委員2名の5名で、主にクラブの方向性を決めていった。執行部の委員を除いた準備委員30名には3つの専門部会に分かれてもらい設立準備を進めた。8月のお盆明けには、準備委員会が町内4地区で「スポーツクラブを作りますよ」「会員になってくださいね」という説明会をした。10月26日には、迫スポーツ講演会で200人位が集まり、この時正式に会員募集を始めた。それからは会員募集をしながら設立総会の準備を進め、12月14日「文化・スポーツクラブはさま」の設立総会を行った。

④総合型地域スポーツクラブの役割について

総合型地域スポーツクラブの役割は何だろう、そこを理解してもらうのに時間がかかった。競技スポーツは体育協会やスポーツ少年団でやる、生涯スポーツは総合型地域スポーツクラブでやっていくという考え方をすると分かりやすかった。競技や従来のスポーツ活動はそのまま継続し、生涯スポーツ活動に関しては、体育協会、スポーツ少年団等といった団体から講師派遣などの協力をいただく、そのような関係が総合型地域スポーツクラブを進める上での理想と考えられた。スポーツにどうしても足が向かない子供や、民間のスポーツクラブの年会費や参加費が高くて敷居が高いと感じる方々には、何でもありのスポーツクラブである、ということで理解してもらっている。

文化・スポーツクラブはさまは、名前を決めるときに、あえて「文化」という言葉を前につけて、何でもやるスポーツクラブだということを表した。文化・スポーツクラブはさま以外のクラブでも、スポーツだけではなく、華道をやったり、手芸をやったり、パソコン教室、水彩

画教室等をやっている。スポーツ観戦ツアーなども観るスポーツとして行っているクラブもある。

総合型地域スポーツクラブは、スポーツ少年団に入っていない子供たちが入ってきたり、みんなでワイワイやっているのを実際に見て理解するなど、クラブ活動が始まってから理解していくといった場合が多く、まずやってみることが必要と思われる。

⑤総合型地域スポーツクラブの課題等について

登米市内で現在、5つの総合型地域スポーツクラブが設立されているが、年会費も一律ではなく、プログラムメニューも運営形態も統一していないということなどについて、賛否両論となっている。全部同じだと、どのクラブに通っても同じだから、行きやすい近所のスポーツクラブに行く、それが理想とも言えるが、合併前から設立しているクラブが既に3つもあったという状況で、市内にメニューも形態も統一したスポーツクラブを作るということは不可能だった。

課題としては、財源の確保が一番というのが現状である。少しずつ増えてはいるが、会員を増やすにはメニューを充実させなければならないし、メニューを充実させるにはお金をかけなければならない。新たな財源の確保が必要となっている。

⑥質疑応答

質問1：地域住民に説明を行った時の住民の反応はどうだったか。また、何人位の方が説明会に参加したのか。

回答：会員制で、やりたい人が自分で選んでやりたいことをやると説明をしてきた。やりたい人や、スポーツに足が向かない人にはこういうのがあるので、ぜひ健康作りしながら、みんなで生涯学習のまちにしていこうと話した。

説明会では、体育協会やスポーツ少年団はどうなるのという話が必ず出る。体育協会やスポーツ少年団はそのまま活動を続けますと説明していた。体育協会やスポーツ少年団に敷居が高くて入れなかったり、なかなかスポーツに足が向かなかった人のために、入口として総合型地域スポーツクラブがあるとも説明してきた。

否定的な意見は出なかった。

説明会に来た人は、10人前後というところもあれば、行政区の代表として2人だけというところもあった。準備委員会としては、集まった人が少なくとも仕方がない、何回でも説明していこうということでやっていた。

質問2：登米市には現在総合型地域スポーツクラブが5つあり、これから9町域全てに作るという計画のようだが、これから先、スポーツクラブ同士の横の連携をどのようにつなげようと考えているのか。

回答：平成17年度、登米市になった時点で連絡協議会を立ち上げた。連絡協議会の目的として、親睦や情報交換を行っている。12月の登米市スポーツ祭りでは、連絡協議会にレクリエーションダンスの体験会と発表会のブースを任せた。この連絡協議会は、来年度6つか7つになる予定である。町域全部にできたら登米市連絡協議会として一層進めていきたい。

質問3：総合型地域スポーツクラブの中にはいろいろな種類の講座や教室があり、文化協会などの組織が母体となってやっているようだったが、既存のサークルの取り入れの部分で、どのくらいの既存のサークルが割合として入っているのか。

回 答：スポーツクラブはさまの例でいうと、アクアビクス教室、エアロビクス教室、ヨガ教室、太極拳教室は専門の講師をお願いしている。よさこい教室、バドミントン教室、ターゲットバードゴルフ教室、弓道教室については元々サークルがある。代表の方と話し合いをするとクラブの趣旨を分かってくれて協力してくれる。総合型地域スポーツクラブのために初心者用の教室を設けてくれるサークルもある。

質問4：だれでも、その活動の時間内にいけば、活動できる仕組みとなっているのか。事前に予約等をしなくてもいいのか。

回 答：事前に会員になっていただくことが条件となっている。クラブの会員になれば、その名簿を教室の方に伝える。会員となれば保険にも入ってもらうが、保険が適用になるには1週間程度かかる。急に来てやりたいといっても、保険に入っていないので、見学だけとなるか、怪我しない程度の体験という形をお願いしている。

質問5：石越町のスポーツクラブは、平成14年度と早い時期に設立しているが、そのきっかけや経緯は何か。

回 答：石越町は、登米市で最初に作っている。仙台市で作ったのならば、石越町でも作ってみよう、と教育長の意向で作ったようだ。

質問6：総合型地域スポーツクラブの活動内容に部活動とあるが、部活動とクラブの関係について教えてほしい。

回 答：とよさとマイ・タウンクラブの場合は、部活動にマイ・タウンクラブから指導者を派遣するという形をとっていて、指導者にクラブから謝金を払っている。小学生の指導者と中学校の指導者が同じで、小学校から中学校まで一貫した指導が受けられることも売りとなっている。



(2) 「なかだスポーツクラブ “パティオ”」からの説明

①スポーツの盛んな中田町にどうして総合型地域スポーツクラブが必要だったのか

パティオは登米市合併前に設立しており、当時中田町では「水と緑とスポーツの里」を宣言していた。そのスポーツを大きな柱として町おこしをやっていこうと、人口1万8千人位の町としては規模の大きい総合体育館を造った。地区民から相当批判の声もあったが、スポーツの里を標榜する中田町の町づくりとしては、大きな核となる総合体育館がどうしても必要だと住民に説明し了解をもらい平成6年に完成した。以来、ここを拠点としてスポーツ振興を図っている。

平成13年度の宮城国体でも卓球の会場として成果を上げた。中田町のスポーツ振興は県内でも群を抜いていた。町民体育祭等も中田町体育協会に全て任せていた。中田町体育協会は、16競技団体加盟、26のスポーツ少年団加盟の組織として、年間400万円以上の補助金をもらってスポーツ振興を図ってきた。

スポーツの振興については平成12年に大きな変化を迎えた。それは文部科学省で打ち出したスポーツ振興基本計画で、総合型地域スポーツクラブを平成12年から10年間に、各市町村のそれも中学校区単位で作ってほしいという政策だった。当時の町長と教育長は、スポーツの里を標榜している中田町であればいち早くとり入れる必要があると考えた。まず、総合型のスポーツクラブは何だということとなり、町体育振興課の職員が総合型地域スポーツクラブを勉強することとなり、一緒に社会体育審議委員も勉強することとなった。

愛知県半田市の成岩スポーツクラブが当時モデル地区だった。そこを勉強した結果、中田町ではスポーツをやりたい子供にスポーツを教えてくれる指導者を招へいするというシステムが既にできている。一世帯一万円も会費を払うクラブはいらない。総合型地域スポーツクラブは中田町にとっては全く必要のないということで、設立については門前払いをした。

しかし、町長、教育長は、スポーツの里を標榜しているのに、文部科学省が提唱するものを門前払いするなんてことはあり得ない。もっと真剣になって考えなければならないと、現場で指導している体育協会の役員、スポーツ少年団の本部長、体育指導委員会と何度も議論をしながら1年間過ごし、2年目の平成13年には「なんとしても平成13年から15年の3年間のうちに、宮城県で最初の総合型地域スポーツクラブを立ち上げる」といった町長の強い意思により、県から派遣社会教育主事を受け入れることとなった。中田町には必要ないものと収まりかけたときに、総合型地域スポーツクラブ立ち上げのための派遣社会教育主事が来たのだった。

平成13年からは、先進地を視察してから設立の是非を決めようと、社会体育振興審議会、体育協会、体育指導委員といった方々と一緒に数箇所先進地を訪れた。

先進地では、体育協会は総合型地域スポーツクラブと一切関わっていないというところもあれば、総合型地域スポーツクラブをやってきた人はスポーツ少年団への加入が認められないといったところもあり、視察をすればすれほど、やはり必要ないものという気持ちになり、混乱に拍車を掛ける状況で月日が過ぎていった。

体育協会もスポーツ少年団も体育指導委員会もそれぞれがしっかりしているのに、その全部を総合型地域スポーツクラブに無理矢理切り替えさせようとすることに理解できない。スポーツ盛んなこの中田町には必要ないものだと、町長に説明したがどうしても作ってほしいと埒があかなかった。そこで、住民から行政のスポーツに関するアンケートをとり、そのアンケート

結果で示すこととなった。総合型地域スポーツクラブは要らないといった意見がでるものと見込んでいた。

行政に対しては「事業がイベント提供で終わっている・いつも参加者が少なく同じような事業ばかりだ・行政が行うとリスクマネジメントに支配されすぎて参加者の立場よりも無事に事業が終わることばかりに軸足が向いている・利用者の利便性等よりも管理や運営に莫大な費用を掛けすぎている」といった意見がでた。



行政の課題だけではなく、この際、行政ではない体育協会やスポーツ少年団などへの意見もアンケートで聴いておこうと、体育協会やスポーツ少年団への意見も一緒に聴いていた。

「一年中同じ種目をやっていて休むことも許されない・半強制的に休まないで参加することを求められる・普段の活動も対外試合に向けた練習が中心で、一定のレベル以上の人集まりでクラブとかサークルといった感じではなく、チームといった感じで常にチームの一員であるという意識を強要される」と、つらいとかこわい、やらされているといったイメージの回答結果だった。

また、少子化等の影響で、スポーツ少年団や体育協会の存立が危うい状況にもなっていた。部活の休部とか廃部も出てきていた。スポーツ少年団や体育協会は指導者が百年一日のごとく指導していることから、マンネリ化しており魅力に欠けるという指摘も受けた。スポーツ少年団とか体育協会とかでやっているものは競技スポーツの性格が強く、運動能力に自信がない人たちには入りづらい状況になってきているなという反省も、行政の課題を見つけたとき、合わせて見つけることができた。

②中田町のスポーツを考える会の立ち上げ

それぞれの課題を整理しながら、派遣社会教育主事も3年目に入り、何としても立ち上げたいという思いでいろいろと話し合いを進めた。立ち上げるとすればどのようにすればいいのかという議論も平成14年度末から始まった。

体育協会と喧嘩したり、スポーツ少年団の看板を替えたり、行政主導のような総合型地域スポーツクラブであってはならない。中田町らしい総合型地域スポーツクラブを立ち上げるにはどうすればいいのか。上部組織もなくモデルもないということは逆にいいことで中田町らしいものが作れる。先進地といわれて視察してきたところにあまり振り回されないで、中田町らしい総合型地域スポーツクラブを作ろうと考えた。

地区住民、体育協会、スポーツ少年団、指導者協議会、体育館のアリーナで行っている教室に参加している参加者の皆さん方の意見も聴こうと、「中田町のスポーツを考える会」を立ち上げることとなった。この考える会を立ち上げたときも、みんなの意見が総合型地域スポーツクラブを作る必要がないということならば、作る必要はないだろうという考えであった。

総合型地域スポーツクラブの意義を文部科学省に聴いたり、中田町教育委員会の考え方を聴いたり、体育協会、スポーツ少年団、体育指導委員会の考え方を聴いたりして、総合型地域スポーツクラブを作る意義を自分たちで集約してみた。

「多様なスポーツ欲求を持った人々に対応しうる、生涯スポーツとしての多種目多世代型のスポーツクラブは、スポーツが媒体となり異世代間の交流や仲間づくりができる。それは新たなコミュニティの創出や、地域に居住している様々な人々の発掘にもつながり、相互に刺激

し、学習し合う関係が生まれ、地域の諸課題の解決に住民が主体的に取り組む成熟した地域社会を形成する」と意義を考えた。これを軸とし、スポーツの里に相応しい独自のスポーツクラブづくりをどのように進めるかということで、いろいろな体育関係団体から参加してもらい、そのメンバーで中田町のスポーツを考える会を平成15年の2月に立ち上げて議論した。その内容をもって、メンバーが関係機関に説明して歩いた。

◇説明会

体育協会・スポーツ少年団本部・指導者協議会研修会、中田中学校部活動連絡推進協議会研修会、体育指導委員説明会、小学校体育主任説明会、定例行政区会議での説明会、定例町内校長会での説明会、各種スポーツ教室における説明会、4公民館における住民への説明会

総合型地域スポーツクラブに関する考え方、問題点も含めて皆さんの意見を聴きたい、作るための説明会ではないというスタンスで説明してきた。説明会を行った結果として、総合型地域スポーツクラブを作ろうとなったのは、行政や体育協会、スポーツ少年団等の課題を解決できるのは、総合型地域スポーツクラブだということになったからだった。

「行政が主催するものはタダで参加できるという意識をみんながもっていること。ほぼ同じ人たちが日々参加しているということ。リスクマネジメントばかり考えて無事に事業が終わることばかり考えていること。参加者本位ではなく、それをやってはいけないあれをやってはいけないという管理の部分に軸足がおかれていること。」そのようなスポーツ教室はなくてもいい。行政ではなく総合型地域スポーツクラブの方がいいという意見だった。

スポーツ少年団や体育協会の教室に対しては「競技志向ということでどうしてもレベルを上げようとする競技力の向上が主目的で、単一種目となっており、子供たちの様々な可能性を引き出すきっかけのためにも複数種目ができる総合型地域スポーツクラブに参加すれば対応できるのでないか」ということだった。

③なかだスポーツクラブ“パティオ”のキーワード

総合型地域スポーツクラブの立ち上げに際し「健康・交流・笑顔・生き甲斐」というキーワードであればだれでも参加できると考えた。また、このキーワードの中でどういう組織作りができるかを議論し、結果として、体育協会と喧嘩をしない、スポーツ少年団と喧嘩をしない、体育指導委員会とも喧嘩をしない、公民館や体育館などでやっている教室とも喧嘩をしない、仲よくスポーツの里として今までの既存の団体、教室に喜んでもらえるような総合型地域スポーツクラブを作ろうということでおさまった。

会費を払ってもらえれば来ても来なくても、いつでもどの教室に参加してもいい、そんな形にしようとなった。会員に責任のある役職を持たせると参加しなくなってしまうので、体育協会とスポーツ少年団と指導者協議会と既存の教室の役員の方々とで、総合型スポーツクラブの屋台骨をしっかりと支えていこうということとなった。

体育協会で行っている教室はやっていないが、体育協会の役員は全員個人加盟として入ってもらって支えてもらっている。スポーツ少年団も役員全員が個人加盟として入ってもらって支えてもらっている。スポーツ少年団の子供たちはスポーツ少年団としては入っていないが、指導者は指導者バンクということでパティオの組織の中に指導者登録をしてもらっている。パティオがいろいろな教室をするときは指導者バンクから出てもらって指導してもらっている。

平成16年1月の設立時、これら役員の声がけで集まった方々が中心となってスタートした。人口1万8千人のスポーツの里を標榜している町で、会員数182名といった人数で総合型地

域スポーツクラブが立ち上がった。自ら入ったこの182名は今も辞めておらず、この方々は友達を呼んだり、家族を引っ張り込んだりして、毎年40～50名位ずつ会員を増やしてきて、現在400名を超えている。

スポーツをやりたいと思っている人はすでにスポーツ少年団や体育協会に通っている、そういう人たちではない人たちや、公民館などの教室に通うのはなんだか恥ずかしいし辞めにくいから嫌だなと思う人たちに、来たい時に来てもらって、休みたいときは休んでもらっていい、といったような無責任極まりない組織であるということのを売りにし、全て自分の責任で健康管理してもらおうということでスタートしている。このことが結果的には、スポーツにあまり馴染みのなかった、スポーツをしたくても今までのスポーツ教室は窮屈だという気持ちの人たちの琴線に触れることができ、総合型地域スポーツクラブでそんなスポーツ教室が開催できるようになった。

また、スポーツをやったことがないといった人が、病院の医師からリハビリにもなるので運動しなさいと言われて、総合型地域スポーツクラブに入ってくるといったケースも増えてきた。これまで市で行ってきたスポーツ教室を任せられたり、51行政区での健康教室や、PTA、社会福祉協議会、農協等のいろいろな団体に、ニュースポーツを教えるための指導者を派遣したりと、パティオは行政の一翼を担ってスタートしている。

④質疑応答

質問：設立する前から積極的にスポーツ活動をされてきたようだが、設立前と設立後で、変わったことがあるか。

回答：設立前は、町のスポーツ教室に以前から参加していたが、職員が2名来て、常にプログラムが決まっていてそれに従って活動していた。総合型地域スポーツクラブになってからは、自分達のやりたい種目が選べることが一番の利点となった。その反面、会費を納めなくてはならないことは主婦にとっては痛いものだった。

スポーツするのもそうだが、みんなで集まって話しをしたり笑いながらみんなで時間を過ごすことがストレスを解消できて絶好の場となっている。

年齢制限なくだれでも入れて自分の好きな時間に運動できるということは最高だと感じている。

参加者名簿

市町等の名称	参加者名
白石市教育委員会	小室徹彦
角田市教育委員会	佐藤奈美
蔵王町教育委員会	池田尚人 川井由美
七ヶ宿町教育委員会	高橋慎太郎
大河原町教育委員会	尾形 彰 平林 健
村田町教育委員会	藤原秀光 佐藤隆法
柴田町教育委員会	大川原真一
川崎町教育委員会	村上 透 富田丈靖 丹野浩伸
丸森町教育委員会	齋藤公男
仙南広域教育委員会	森 智弘
大河原教育事務所	山本 玲 横塚正己



登米市中田総合体育館にて

まとめと課題

まとめと課題

今回の大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会では、「総合型地域スポーツクラブ」を研修テーマに選んだ。これまで、本協議会で社会体育に関する研修を実施したのは、昭和63～平成元年度に高齢者向けのニュースポーツをテーマにした「スポーツ人口の拡大を図る一方策」であり、今回は、20年ぶりのテーマとなった。

平成12年に文部科学省が策定（平成18年改定）した「スポーツ振興基本計画」によれば、平成22年までに各市区町村に少なくとも1つの総合型地域スポーツクラブを立ち上げることを目標としている。平成22年3月現在で、宮城県内には、28の総合型地域スポーツクラブが設立されている。しかし、大河原教育事務所管内では、平成20年3月28日に角田市で「スポーツコミュニケーション・かくだ」が設立されたが、他の市町ではまだ設立されていない。

そこで、管内における総合型地域スポーツクラブの在り方を考え、最終的には提言できるようなものとするため、2年かけての研修とすることになった。

1年目の本年度は、スポーツに関する住民の意識を把握するため、アンケート調査を実施することになり、その設問を検討することに多くの時間を費やした。

一般対象のアンケートでは、回答者の半数にあたる786人が運動やスポーツを「していない」と回答している。その理由として「時間がない」が6割、「機会がない」が4割を超える。また、運動やスポーツをしていると回答した760人中2割が運動やスポーツをする際に「時間が足りない」ことで不満を感じている。自由記述の中でも「時間」に関することが数多く記載されている。一般住民は、スポーツをしたくても、仕事や家事等に追われてスポーツをする時間がないという状況にある。

一方、小中学生対象のアンケートでは、学校の授業や休み時間以外でも、8割が運動やスポーツをしていると回答している。運動やスポーツで困っていることとして「メンバーが足りない」「時間が足りない」「上達しない」が多かった。自由記述の中での要望としては、「スポーツをする場所」「時間」「指導者等への要望」に関することが多い。スポーツはしているものの、場所、時間、指導者等に不満を感じているという状況である。

なお、アンケート調査の結果については、「スポーツに関するアンケート調査」に記載した通りである。

研修では、このほか、各市町のスポーツの現状と課題について探ることとなり、各市町持ち寄って報告し合った。各市町のスポーツ現状については、各市町とも既存の体育施設を活用して、様々な団体が様々なスポーツ活動を実施していることが伺えた。詳細については、「各市町のスポーツの現状と課題」に記載した通りである。

課題については、体育施設の老朽化、スポーツ団体加入者の高齢化、少子化に伴うスポーツ少年団登録者の減少、指導者や活動場所の不足などがあげられた。

また、今回の研修では、合併前の旧町単位で総合型地域スポーツクラブが設立されている登米市の教育委員会と、その1つである「なかだスポーツクラブ“パティオ”」を視察してきた。登米市教育委員会では、担当者がクラブの設立に向けて鋭意努力していること、パティオでは既存の体育団体などとうまく連携しながら活動していることに驚いた。

このような現状を踏まえ、また、アンケート調査の分析を通して、研修2年目となる平成22年度には、課題解決の方策や、総合型地域スポーツクラブについての提言をまとめることとしたい。

お わ り に

第1回目の研修委員会の時に、平成21年度の研修テーマとして題材の候補にあがったものは、「家庭教育」「少年教育」「協働教育」「社会教育団体」「公民館の指定管理者制度」「社会体育」「団塊世代」「キーパーソンの作り方」でした。最終的に、研修委員全員一致で「社会体育」に決定しました。「社会体育」といっても幅が広いので、その中で私たちは「総合型地域スポーツクラブ」についての研修をしていこうということになりました。

「総合型地域スポーツクラブ」については、当初どういうものなのか分かりませんでした。研修を重ねていくうちに、その内容が少しずつ分かってきました。

文部科学省が策定した「スポーツ振興基本計画」では、平成22年までに各市区町村に少なくとも1つの総合型地域スポーツクラブを立ち上げることを目標としていますが、管内では角田市だけで設立されている状況です。今後、未設立の市町にも設立するためにはどうすればいいのを探るため、各市町のスポーツの現状と課題の把握、住民のスポーツに関するアンケート調査、先進地視察を実施しました。

この研修を通して、近隣市町のスポーツの現状や活動内容を知ることができたことは、社会教育主事のみならず、各市町の担当者にとって大変有意義なものになったと思います。

また、既に「総合型地域スポーツクラブ」を設置している視察先でいただいた貴重な声は、私たちにとって大きな収穫となりました。視察の申し入れを快く承諾して下さった登米市教育員会の職員の方々並びに「なかだスポーツクラブ“パティオ”」の方々に、改めて深く感謝いたします。

最後となりましたが、一年を通じて多忙な通常業務をこなしながら、熱心に研修に取り組んだ各市町の研修委員に敬意を表すとともに、そしてアンケート調査等にご協力いただきましたの方々へ心より感謝を申し上げ、おわりの言葉といたします。本当にありがとうございました。

平成22年3月

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会

研修委員長 柴田町社会教育主事 大川原 真一

【大河原地区社会教育主事研究協議会研究同人】

白石市社会教育主事	※小室 徹彦	小野 輝彦		
角田市社会教育主事	※佐藤 奈美	大内 克典		
蔵王町社会教育主事	池田 尚人	※川井 由美	玉手 美絵	
七ヶ宿町社会教育主事	伊藤 貴子	◇高橋慎太郎		
大河原町社会教育主事	☆尾形 彰	○平林 健		
村田町社会教育主事	鎌田 浩孝	藤原 秀光	※佐藤 隆法	
柴田町社会教育主事	石上 幸弘	◎大川原真一	杉本 龍司	
川崎町社会教育主事	※村上 透			
丸森町社会教育主事	齋藤 公男	※伊藤 博道		
仙南広域社会教育主事	※森 智弘	渡部 勇造	佐々木洋佑	
大河原教育事務所	山本 玲	※横塚 正己		

☆研究協議会長
◇研究協議会副会長
◎研修委員長
○研修副委員長
※研修委員